

山口県立大学高大連携の推進強化
に関する検討協議会
報告書

令和8年3月26日（木）
山口県立大学高大連携の推進強化
に関する検討協議会

はじめに

近年、急速な人口減少や少子高齢化、グローバル化、デジタル化が進展し、将来の予測が困難な社会が到来しています。こうした中、山口県においても地域社会の持続可能性が大きな課題となり、県内の教育機関には、地域の未来を支える人材をいかに育成するかが強く問われています。

山口県立大学においては、「地域貢献型大学」として若者の県内定着や地方創生の実現に取り組まれており、今後求められる人材を育成するために、令和7年に情報社会学科を新設するなど、積極的な改革を進めておられます。

この、「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会」（以下、本検討協議会）においても、高校と大学がより密接に連携する仕組みの構築を主眼に、「附属高校の設置」と「高大連携の推進強化の在り方」の二つの柱について検討を進めてきたところです。

本報告書は、3年間で計9回にわたって重ねた協議の内容、すなわち、附属高校の設置と開校までに必要な検討事項、高大連携の現状と課題、そして今後の方向性について整理したものです。

令和5年度には、一つ目の柱である県立大学附属高校の設置に向けて、候補校それぞれの教育内容や地域の特性、大学との連携の実現可能性などについて慎重に検討いたしました。これらの観点を総合的に評価した結果、県立周防大島高等学校を附属高校として選定し、現在は、令和8年4月の開校に向けて着実に準備が進められています。

また、本検討協議会のもう一つの柱として、高大連携の推進強化に関することの協議を重ねて参りました。

近年の教育行政において、国は高校と大学の接続強化を進めており、山口県にもまた、高校の探究学習の充実や、人材の県内定着を図る観点から、高大連携の推進が求められています。

こうした動向を踏まえ、本検討協議会においても、県立大学が取り組むべき高大連携の具体的方策について議論を深めていきました。本報告書ではこれまでの協議内容を整理し、「県立大学への提案」として取りまとめています。県立大学におかれては、大学の実情も踏まえつつ、これらの提案を可能な限り検討していただければ幸いです。

3年間の長きにわたり、本検討協議会の委員の皆様には多大なるご尽力をいただきました。我々は、地域の未来を担う人材育成をさらに前へ進めたいという思いのもと議論を重ね、産学公金と多様な分野から貴重なご意見を伺うことができました。今後は、高大連携及び附属高校のさらなる発展を期待しつつ、山口県立大学、ひいては山口県の高校教育及び大学教育の未来を見守っていきたいと考えております。

2026年3月26日

山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会

会長 松野 浩嗣

目次

はじめに	1
I 山口県立大学の現状及び今後のあり方について	4
1 山口県立大学の教育理念・目的	4
2 山口県立大学の今後のあり方	4
3 「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会」の設置	5
4 山口県立大学における高大連携の取組	6
5 検討状況	6
II 附属高校の設置について	8
1 附属高校の設置理由	8
2 附属高校の設置方法等についての検討	8
（1）附属高校対象校の決定	8
（2）附属高校の設置の趣旨	9
3 山口県教育委員会へ要望書の提出と回答	11
4 附属高校の教育内容等	12
（1）学校の名称	12
（2）入学定員	12
（3）課程・修業年限等	12
（4）スクール・ミッション、スクール・ポリシー	12
（5）附属高校の学びの仕組み	16
（6）中学校から附属高校への入学の仕組み	24
5 附属高校の開校に向けた準備状況	30
（1）校章・校歌・制服の制定	30
（2）生徒募集の取組状況	33
6 定款変更の承認と附属高校の設置	36
III 高大連携の推進強化について	37
1 高大連携に係る国の動向	37
（1）一人一人の能力を伸ばすための連携（高大連携）	37
（2）高大接続改革	39
（3）大学入学者選抜を含む高大接続改革の推進	39

2	県立大学の現在の取組の状況	40
(1)	高大連携事業の一覧の配布による取組の推進	40
(2)	D×ハイスクールと連携した取組	41
(3)	出前講義・大学見学の実施状況	43
(4)	高大接続事業	47
(5)	県内高校の訪問	47
(6)	その他の高大連携事業・高校支援	48
(7)	山口県高等学校長協会と山口県立大学との大学入試等研究協議会	48
(8)	高校の学校運営協議会への県立大学教員の参画	48
(9)	連携協定校との高大連携の取組	49
3	山口県立大学の入学者選抜	50
(1)	各学科の選抜の内容	50
(2)	各選抜の実施時期等	51
(3)	志願者数の推移（学科別）	51
(4)	令和7年度入学者選抜の志願状況等	52
(5)	県内高校から県立大学への志願・入学状況	52
(6)	県立大学卒業時の県内定着の状況	57
4	今後の高校と大学の連携のあり方	60
(1)	連携協定校のあり方	60
(2)	高校の探究学習と県立大学のPBLをつなぐ具体的方策	62
(3)	本県において、今後必要な人材を高校と大学が連携して育成する 具体的方策や、県内の高校生が県立大学を経て、県内に就職する県 内定着のための具体的方策	65
(4)	令和8年度以降の協議会のあり方	68
IV	おわりに	72

《参考資料》

資料1	山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会設置要綱	73
資料2	要望書〔公立大学法人山口県立大学附属高等学校の設置について〕	74
資料3	回答書〔公立大学法人山口県立大学附属高等学校の設置について（回答）〕	75
資料4	附属高校の令和8年度入学者選抜の志願状況及び合格者数	76
資料5	山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会委員名簿	77

I 山口県立大学の現状及び今後のあり方について

山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会（以下「検討協議会」）では、高大連携の推進強化について検討するにあたり、山口県立大学（以下「県立大学」）の教育理念・目的や設置学科について確認するとともに、現状等について整理した。

1 山口県立大学の教育理念・目的

山口県立大学では、「人間性の尊重」、「生活者の視点の重視」、「地域社会との共生」、「国際化への対応」の4つを教育理念として掲げ、地域における知の拠点として、住民の健康の増進及び個性豊かな地域文化の進展に資する専門の学術を深く教授研究するとともに、高度な知識及び技能を有する人材を育成し、ならびに研究成果の社会への還元による地域貢献活動を積極的に展開し、もって人々が生き生きと暮らす社会の形成に資する人材を育成することを目的とし、次の学部・学科を設置している。

学部・学科における人材育成の方向性

◇ 国際文化学部

- ・ 国際文化学科 … グローバルな視野を備え、地域の国際化に主体的に行動し貢献できる人材
- ・ 文化創造学科 … コトバやイメージを効果的に用いた表現を身に付け、地域課題解決に取り組むことができる人材

◇ 社会福祉学部

- ・ 社会福祉学科 … 地域共生社会の実現に資する福祉マインドを基盤とした地域共創力を備えた人材

◇ 看護栄養学部

- ・ 看護学科 … 人の生活、人の健康、人の命に向き合うことができる人材
- ・ 栄養学科 … 食と栄養を通して、人々の健康増進を図り生活の質を向上させることができる人材

県立大学は、平成19年(2007年)以降、現在の学部・学科構成を維持してきたところであるが、令和7年(2025年)には、今後、山口県で求められる文系DX*人材を育成することを目的とする情報社会学科を国際文化学部の中に新設した。

※DX（デジタルトランスフォーメーション）

デジタル技術の活用によって、組織や業務、ビジネスモデルを変革し、企業の競争力を高めること。（経済産業省「デジタルガバナンス・コード2.0」）

2 山口県立大学の今後のあり方

人口減少、少子化の進行、若者の県外流出が続く中、グローバル化の進展や社会全体のデジタル化など、社会状況や地域のニーズの大きな変化に対応するため、山口県は、「山口県新たな時代の人づくり推進方針（令和3年3月）」を策定した。

この中で、県立大学のあり方については、本県が設置する大学として、本県が抱える政策課題や地域ニーズに対応していくことができるよう、学部・学科の見直しも含め、県内大学等との機能分担や連携、担うべき人材育成・研究拠点機能のあり方などについて検討することを示している。

この方針を受け、山口県と県立大学は、「山口県立大学将来構想（令和4年3月）」を策定し、時代や社会の変化に対応し、地域とともに未来を切り拓く大学であり続けるための取組として、次の4点を示している。

- 国際文化学部の再編
- 社会福祉学部・看護栄養学部の充実
- 子ども・子育て支援への貢献
- 地域・企業・高校等との連携強化

3 「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会」の設置

「山口県立大学将来構想」に位置付けられた「高校との連携強化」を推進するため、県・県教育委員会・県立大学では、先進地視察などを通じて、具体的な方策を検討し、県立大学は、令和5年3月に山口県立大学将来構想の推進に係る本学の今後の取組の一つとして「高大連携の推進強化（附属高校の設置など）」の方針を公表した。

また、この方針を具体化し、県立の大学として担うべき人材育成機能の強化に向けて、今後の高大連携の方策について検討するため、県立大学は、令和5年4月に、外部有識者、山口県、山口県教育庁、山口県立大学の委員からなる本検討協議会を設置するとともに、学内の将来構想推進局に高大連携推進室を設置した。

本検討協議会の設置目的及び検討事項は次のとおりである。その他の詳細は、別添資料1「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会設置要綱」（73ページ）を参照されたい。

（設置目的）

第1条 山口県及び山口県立大学が令和4年3月に策定した「山口県立大学将来構想」に基づき、県立の大学として担うべき人材育成機能の強化に向けて、今後の高大連携の方策について協議を行うため、「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を協議する。

- （1）附属高校の設置に関すること
- （2）高大連携の推進強化に関すること

4 山口県立大学における高大連携の取組

教職員による高校訪問、高校における出前講義など、本学では様々な取組を実施しているが、今後、高大連携の強化を推進するために、高校在学時に本学と連携した活動実績が入学者選抜で評価される仕組み、附属高校の設置などを検討していく必要があると考えた。

さらに、本学では、附属高校の設置により、高校から大学の3年プラス4年、つまり7年間の一貫した教育理念による、より高度な高大連携を展開し、地域や社会のニーズに対応した高度な知識及び技能を有する人材を育成するとともに、若者の県内定着を推進していきたいと考えた。

5 検討状況

令和5年度は、検討事項の一つ目の柱である「附属高校について」を中心に協議を行い、令和6年度からは、事務局（附属高等学校設置準備室）から附属高校の準備状況に関する報告を受けながら、二つ目の柱である「高大連携の推進強化の方向性」について協議を進めた。以下にその概要を示す。

《令和5年度》

＜附属高校の設置に関すること＞ ※詳細は、9ページ参照

- 第1回協議会（令和5年5月30日）
附属高校の設置方法・時期等についてフリートーキング
- 第2回協議会（令和5年6月16日）
本学が提示した公立私立高校約30校から県立高校9校に絞り込み
- 第3回協議会（令和5年7月25日）
県立高校5校に絞り込み
- 第4回協議会（令和5年8月29日）
県立高校3校に絞り込み
- 第5回協議会（令和5年9月14日）
対象校1校を選定

《令和6年度》

- 第6回協議会（令和7年1月22日）
 - ＜附属高校の設置に関すること＞
 - ・附属高校の設置の経緯
 - ・県立大学が目指す高大一貫教育
 - ・附属高校の概要（課程・クラス規模）
 - ・附属高校の学びの仕組み（教育課程、県大進学プログラムによる育成型選抜、連携型中高一貫教育）
 - ・附属高校の入学者選抜
 - ＜高大連携の推進強化に関すること＞
 - ・高大連携に係る国の動向（大学における教育内容等の改革状況、高大連携の取組事例）
 - ・高大連携に係る県立大学の方向性
 - ・県立大学が実施する「高大連携の取組」の現状
 - ・連携協定校との高大連携の取組
 - ＜その他＞
 - ・やまぐち未来デザインプロジェクト発表会視察（周防大島高校発表）

○第7回協議会（令和7年3月27日）

＜附属高校の設置に関する事＞

- ・報告：高校生 Ring AWARD 2024 受賞報告（動画視聴）
- ・スクール・ミッション(案)、スクール・ポリシー(案)
- ・制服デザイン

＜高大連携の推進強化に関する事＞

- ・高大連携の推進強化に係る本学諸会議での意見概要
- ・高大連携に係る中央教育審議会での審議
- ・大学における教育内容等の改革状況
- ・やまぐち高大パートナーシップ強化事業
- ・県立大学の入試の仕組み・実施状況
- ・県内高校から県立大学への志願・入学状況
- ・県立大学卒業時の県内定着の状況

《令和7年度》

○第8回協議会（令和8年1月7日）

＜附属高校の設置に関する事＞

- ・生徒募集の取組状況（中学校訪問・地域みらい留学・オープンキャンパス）の実施状況
- ・入学者選抜実施要項・募集要項
- ・校章・校歌（歌詞）の報告
- ・県大進学プログラム（育成型選抜）の概要
- ・定款変更の認可報告
- ・附属周防大島高校の設置式

＜高大連携の推進強化に関する事＞

- ・視察（探究 VS 研究）山口県立大学生と徳山高校生の探究学習交流事業
- ・山口県立大学将来構想及び第4期中期目標・中期計画における高大連携
- ・2025年度 高大連携推進の取組（オープンキャンパス、大学見学、高大接続事業、高校訪問、高校訪問進路説明会、出前講義、DX ハイスクール指定校支援、その他の高大連携・高校支援）
- ・連携協定校校長からの連携実施報告
- ・今後の高大連携推進強化に向けた「論点整理」

＜その他＞

- ・山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会（報告書素案）

○第9回協議会（令和8年2月5日）

＜附属高校の設置に関する事＞

- ・入学者選抜実施状況

＜高大連携の推進強化に関する事＞

- ・論点1 連携協定校のあり方
- ・論点2 高校の探究学習と県立大学のPBLをつなぐ具体的方策について
- ・論点3 本県において、今後必要な人材を高校と大学が連携して育成する具体的方策について
- ・論点4 県内の高校生が県立大学を経て、県内に就職する県内定着のための具体的方策について

＜その他＞

- ・山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会（報告書案）

II 附属高校の設置について

1 附属高校の設置理由

山口県立大学将来構想の推進に係る本学の今後の取組の一つとして「高大連携の推進強化（附属高校の設置など）」の方針を公表した際（令和5年3月）、県立大学は、附属高等学校（以下「附属高校」という。）の設置理由を次のように整理している。

本学は、県立大学将来構想に沿って、学部再編等により、国際化に対応できる人材やDX人材、福祉人材など県が求める人材を育成するとともに、県内での定着を目指している。

こうした人材育成・県内定着をより高いレベルで着実に実現するためには、学部再編等に加え、高校から大学を通じた一貫した教育理念により、高度な人材育成を行うとともに、郷土への愛着を高め、県内定着へつなげる流れを作っていく必要がある。

こうしたことから、高大連携に更に踏み込み、一貫した人材育成・県内定着の取組が可能となる附属高校を設置する。

2 附属高校の設置方法等についての検討

県立大学が示す設置理由を踏まえ、本検討協議会では、5回の協議を重ね、その検討結果を次のとおり、県立大学に報告した。

(1) 附属高校対象校の決定

附属高校の設置は、山口県教育委員会が所管する県立高校を、県立大学に設置者を変更することにより設置することとし、「山口県立周防大島高等学校」を附属高校の対象校とし、令和8年4月の開校を目指すべき。

【県立周防大島高校を附属化対象校として決定した理由】

- ① 現在の教育活動・内容が、本学の全ての学科と教育的つながりがあり、本学が目指す高大7年間の一貫した教育理念による人材育成において大きな成果が期待できる。
- ② 地域課題の解決等に向けた様々な取組は、本学が行おうとしている「広い視野を持って課題解決に挑戦することの意義を理解させること」において有用であり、これまでの実績を活かした教育を展開できることから、本学が目指す人材育成において大きな成果が期待できる。
- ③ 高等教育に接する機会が少なく他県への若者流出が多い県東部地域において、県央部に目を向けてもらうきっかけとなり、県外流出の防止が期待できる。

(2) 附属高校の設置の趣旨

ア 本学が目指すもの、附属高校に期待するもの

【本学が目指すもの】

- 4つの教育理念（人間性の尊重、生活者の視点の重視、地域社会との共生、国際化への対応）のもと、人々が生き生きと暮らす社会の形成に資する人材を育成。
- 「地域貢献型大学」として、若者の県内定着や地方創生の実現に取り組み、地域とともに未来を切り拓いていく大学となること。

【附属高校に期待するもの】

- 山口県の課題等を把握している山口県立大学の強みを活かし、高大7年間（高校3年＋大学4年）の一貫した教育理念のもと、未来の山口県を担い活躍する人材を育成。
- 山口県の課題等に加え大学教育にも直接触れながら、郷土への愛着を深め、地域・社会が求める分野横断的な広い視野を持って課題解決に挑戦することの意義を理解。

イ 期待される効果

附属高校生が、大学入学後に、高校での経験に基づいてリーダー的役割を發揮し、附属高校以外から入学した学生に挑戦する意識を浸透させ、本学が目指す「地域とともに未来を切り拓いていく大学」としての人材育成に寄与すること。

(参考) 検討状況等

第1回協議会（5月30日）

【設置方法・時期等についてフリートーキング】

- 附属高校の設置方針に賛同。
- 設置方法は、新設ではなく既存の高校の設置者変更とする方向で今後検討。
- 対象は県内公私立高校等73校（通信制は除く）とし、私立高校関係者からは今後意見聴取。
- 開校はできるだけ早い時期。

第2回協議会（6月16日）

【本学が提示した公私立高校約30校*から県立高校9校に絞り込み】

- 私立高校関係者からの意見（私立高校の附属化は現実的に乏しいが、個別に相談があれば対応してほしい）を踏まえ、私立高校は対象から除外。
- 県立高校のうち、すでに公表されている再編統合対象校や本学との接続が困難な工業科設置校等を対象から除外。

※本学と連携協定を結んでいる高校や自治体が設置した高校、または本学の教育課程と円滑に接続できる専門学科を設置した高校。

第3回協議会（7月25日）

【県立高校5校に絞り込み】

- 8つの観点により検討し、県立高校5校に絞り込み。

- | | |
|-------------------|-------------|
| ①県立大学の教育課程との円滑な接続 | ②県立大学との連携実績 |
| ③県立大学との近接性 | ④大学等への進学状況 |
| ⑤県立大学への入学実績 | ⑥高校生の通学環境 |
| ⑦高校への志願・入学状況 | ⑧地域課題への取組状況 |

- 私立高校からの附属化の申出があったことを報告
→ 必要な資料等の提出を求め次回検討。

第4回協議会（8月29日）

【県立高校3校に絞り込み】

- 高校の教育活動と本学の教育とのマッチングの視点により検討し、県立高校3校に絞り込み。
- 附属化の申出があった私立高校は、その後申出を撤回された旨を報告。

第5回協議会（9月14日）

【対象校1校を選定】

- 第4回協議会で絞り込みした候補校の校長からのヒアリングを踏まえ、高校の教育活動の内容を更に精査の上、引き続き本学の教育とのマッチングの視点により検討し、対象校1校を選定。

	候補校の教育活動のうち、教育的関連が見込まれる本学の学科	地域課題の解決に向けた取組
周防大島 高校	5学科全て (☞11ページ参照)	・ 地元の中学校との連携による発表会 ・ 高校を核とした産官学等の連携による持続可能な地域づくりに向けた活動を推進 ・ 全国のコンテスト等での受賞 ・ 国の有識者会議での取組発表
A高校	特定の1学科	・ 校内における発表会
B高校	特定の1学科	・ 校内における発表会 ・ 地元の協議会及び生徒会における熟議

- 開校時期は、令和8年4月を目指すべきであることを確認。

本学の学科と関連が見込まれる周防大島高校の教育活動

周防大島高校	本学の学科との関連					
	普通科	地域創生科	国際文化学科	文化創造学科	社会福祉学科	看護学科 栄養学科
ア 地域創生科福祉コースにおける教育活動		○			○	
イ 特色ある教育活動・内容						
・イングリッシュセミナー	○	○	○			
・海外姉妹校やペリースクール等とのオンライン交流	○	○	○			
・ハワイ語学研修旅行及び発表会	○	○	○			
・町内施設を利用した郷土学習	○			○		
・アロハシャツの製作及びファッションショーの開催	○	○		○		
・福祉施設での介護実習		○			○	
・看護学校と連携した取組	○	○				○
・地元の塩を使った商品開発		○				○

3 山口県教育委員会へ要望書の提出と回答

本検討協議会の検討結果を踏まえ、県立大学は、理事会（令和5年9月20日開催）の決定を経て、山口県教育委員会に「山口県立周防大島高等学校」を附属化対象校とすること及びその理由、開校時期については、令和8年4月を目指すことを要望書として提出した（令和5年9月21日、資料2「要望書」（74ページ）参照）。

これに対して、山口県教育委員会は、山口県教育委員会会議（令和5年10月18日、11月24日開催）を経て、令和5年11月24日に、県立大学に対し、山口県立周防大島高等学校の設置者変更及び令和8年4月の開校を目標とすることについて、了承することの回答をした（資料3「回答書」（75ページ）参照）。

4 附属高校の教育内容等

山口県教育委員会の回答を受けた県立大学は、附属高校の教育内容等について、直ちに検討を開始し、以後、その内容について、随時、本検討協議会に報告した。

県立大学が決定し、本検討協議会に報告した内容を次に示す。

(1) 学校の名称 (公表：令和7年3月28日)

山口県立大学附属周防大島高等学校

理由： 県立大学と高校の関連性と高校の所在地を明確に示すことができる。

また、「周防大島」という地域名を加えることで、豊かな自然や地域と連携した教育活動の特色をイメージしやすくなる。

(2) 入学定員 90人 (公表：令和7年3月28日)

理由： 多様な選択科目の開設や少人数指導、習熟度別授業の実施に際し、適切な対応が可能な人数を設定。

(3) 課程・修業年限等 (公表：令和6年7月8日)

課程	設置学科	学校規模	修業年限	場所	その他
全日制課程	普通科	3クラス	3年	周防大島高校 安下庄校舎	単位制

※令和8年度に設置者の変更により附属高校が開校することから、令和7年度の県立周防大島高校に在籍する1、2年次生（令和8年度の2、3年生）は、開校に伴い附属高校に在籍することになる。

(4) スクール・ミッション、スクール・ポリシー

各高校は、育成を目指す資質・能力を明確化し、学校運営を体系的、組織的、継続的に行うようスクール・ミッション、スクール・ポリシーを策定し公表することを求められている（学校教育法施行規則第103条の2）。

附属高校においては、生徒が生きていく社会や、学校の現状や取り巻く環境を踏まえ、構造的に定めている（図1「スクール・ミッション、スクール・ポリシー構造図」（15ページ）参照）。

ア スクール・ミッション

学校の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき高等学校像を示すもの。

周防大島の豊かな自然を舞台に、広く県内外から集う生徒をはじめ、多様な人との交流や、連携する中学校や山口県立大学等と協働した活動を通して、次のような学校づくりを進めます。

- ・ 特色ある教育活動により、グローバルな視点をもって広く地域社会で活躍する自立した人材を育成する学校
- ・ 地域の課題解決や活性化につながる貢献活動により、よりよいまちづくりの推進力となる学校

イ スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー ～育成を目指す資質・能力に関する方針～

地域に誇りをもち (Civic Pride)、地域社会で活躍しながら、豊かな人生を歩むことができるよう、次の力を自ら身に付けた生徒を育成します。

【より善く生きるために必要な力】

社会的自立、コミュニケーション能力、生涯にわたって学び続ける力など

【地域社会の課題を解決するために必要な力】

グローバルな視点、身近な課題に気が付く力、その改善・解決に向けた行動力・創造力、困難を乗り越えながらやり遂げる力など

【未来を切り拓くために必要な力】

未来を見通し答えのない問いについて考える力(知性^{*})、チャレンジ精神、周囲を巻き込むリーダーシップ・フォロワーシップなど

カリキュラム・ポリシー ～教育課程の編成及び実施に関する方針～

○生徒一人ひとりの興味・関心や進路希望への対応

生徒一人ひとりの興味・関心や進路希望に対応しながら、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、思考力・判断力・表現力を育成するため、多様な選択科目を開設します。

○社会で求められる力の育成

これからの社会を豊かに生き抜いていくため、急速に変化する社会で求められる力の育成や、自分たちの生活環境や地域課題の改善・向上につながる科目を開設します。

○故郷への愛着と誇りの醸成や地域の活性化に向けた取組の展開

故郷への愛着と誇りの醸成や地域の活性化に向けて、「島じゅうキャンパス」のコンセプトのもと、地域の特長を生かした教育活動や地域貢献活動を推進します。

○豊かな人間性・人間力の伸長

たくましさや思いやりなど、豊かな人間性・人間力を伸長するため、HR活動や学校行事等の充実した特別活動や部活動を実施します。

○生徒の視野を広げ、可能性を高める取組の充実

高度で深い学びに触れることにより、生徒の視野を広げ、可能性を高めるため、附属高校の仕組みを活用した大学との連携・協働や国際交流などの取組を推進します。

○教育課程の工夫と改善

生徒が身に付けた力や社会が求める力を検証・把握しながら、教育課程の工夫と改善に努めます。

アドミッション・ポリシー ～入学者の受入れに関する方針～

本校の特色ある教育活動を理解し、高校生活への目的意識をもつとともに、中学校での活動等を通して、次の力などが身に付いている生徒を募集します。

- ・ 基本的な生活・学習習慣が身に付いており、努力し続ける意欲ある生徒
- ・ たくましさと思いやりの心を備え、互いに高め合うことができる生徒

※知性

知性 (Intellect) : 答えのない問いについて考える力

知能 (Intelligence) : 明確な答えがある問題について考える力

知識 (Knowledge) : ある事柄について知っている内容

附属高校では、「知識」を「知能」にまで高め、さらには「知性」を身に付けた人材を育成することとしている。

図 1

山口県立大学附属周防大島高等学校

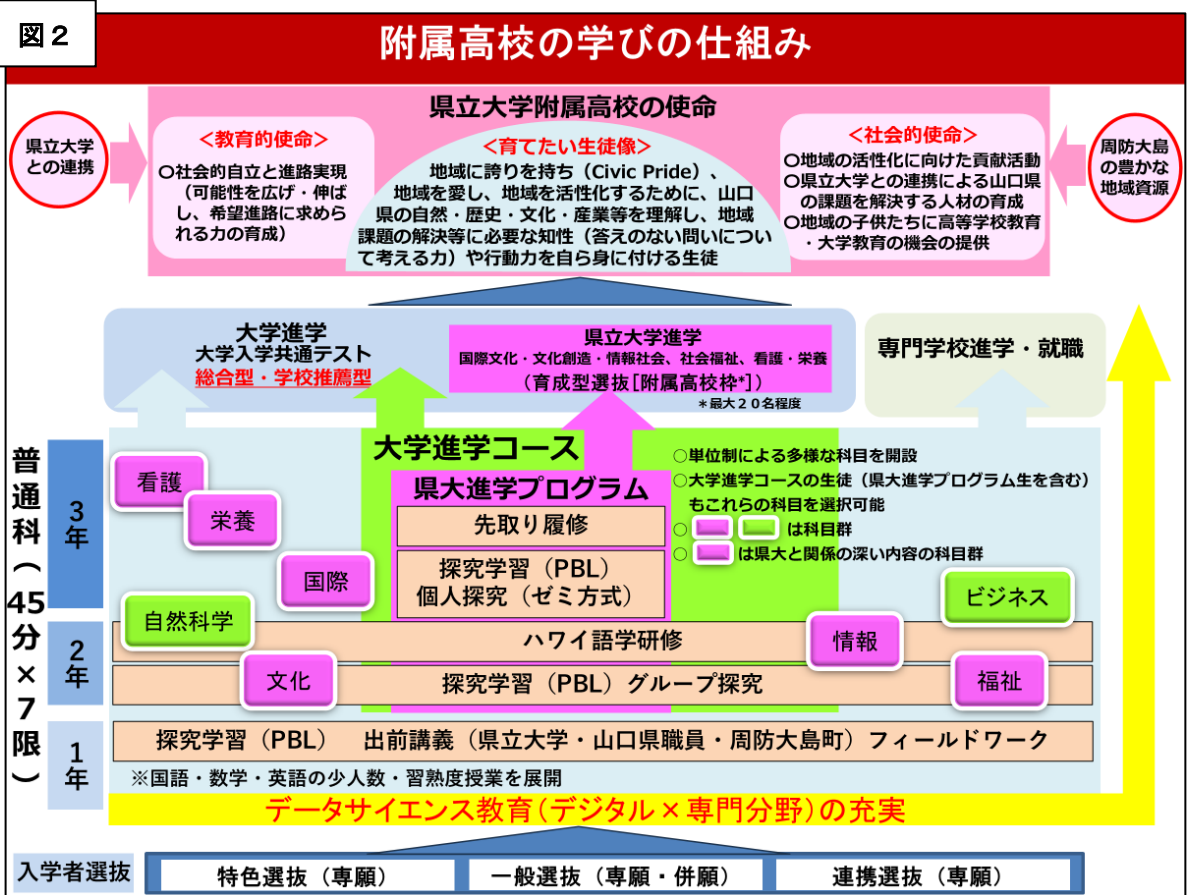
スクール・ミッション、スクール・ポリシー 構造図



(5) 附属高校の学びの仕組み

ア 教育内容の特色

- 生徒一人ひとりの進路希望に対応できるよう多様な選択科目を開設
(国際・文化・情報・福祉・看護・栄養・ビジネス・自然科学等の科目)
- これからの社会に求められる力を育むため、「データサイエンス教育」や「探究学習」、「QOL（生活の質の向上）につながる科目」を充実
- 高大の滑らかな接続に向けて、県大進学プログラムを2年次から編成し、育成型選抜により県立大学に進学
- 大学進学に対応するため、少人数指導や習熟度別授業を実施



高校は、社会的自立や進路実現といった教育的使命とともに社会的使命を有している。例えば、地域社会に貢献する人材の育成や、特に、周防大島に開校する附属高校には、地域の子どもたちに高校教育の機会を保障するという役割がある。このため、附属高校には多様な進路希望や学力をもった生徒が学ぶこととなることから、生徒一人ひとりの興味・関心や希望進路等に対応できるよう、幅広い選択科目を開設する。

また、情報を収集し分析する力が今後、社会のあらゆる分野で必要となることから、県立大学が力を入れて取り組むデータサイエンス教育や、現在の周防大島高校の強みであり、県立大学においても積極的に取り組んでいる課題解決型学習である、PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）につながる探究学習に3年間取り組み、課題に気が付き、解決していく力を育む。

さらに、2年生以降の探究学習が充実した活動となるよう、1年次には、県立

大学や県、町の職員による出前講義を実施し、これらの取組を通して、進路意識を高めた上で、2年次から、看護や栄養、自然科学などの多様な科目を、希望進路に応じて選択できるような仕組みとしている。

特に大学進学については、1年次から計画的に学力の向上に取り組む必要があるため、教科等の実態に応じて少人数や習熟度の授業を実施し、2年次からは、大学進学コースを設置し、希望進路に必要な授業を選択しながら、大学受験に必要な学力を効率的・効果的に身に付ける仕組みとしている。

こうした多様な科目を提供できるよう、1時間の授業を45分とし、1日7限で行うこととしている。

県立大学への進学を希望する生徒については、別にコースを設置するのではなく、大学進学コースの中に「県大進学プログラム」として特別なカリキュラムを編成することとしている。こうすることで、途中の進路変更に対応するとともに、県立大学への進学だけでなく、他大学への進学にも対応できる仕組みとしている。

これらの取組を通して、大学進学や、専門学校への進学、就職など、幅広い一人ひとりの希望進路に対応しながら、スクール・ポリシーで示した生徒を育成する。

図3に、附属高校に開設する特色ある科目の案を示している。これらの実用的な科目により身に付いた力は、専門学校への進学や就職に際し、また、大学進学に際しても、希望の学部や、学校推薦型選抜、総合型選抜等の受験方法を踏まえて選択することにより、大きな力となる。

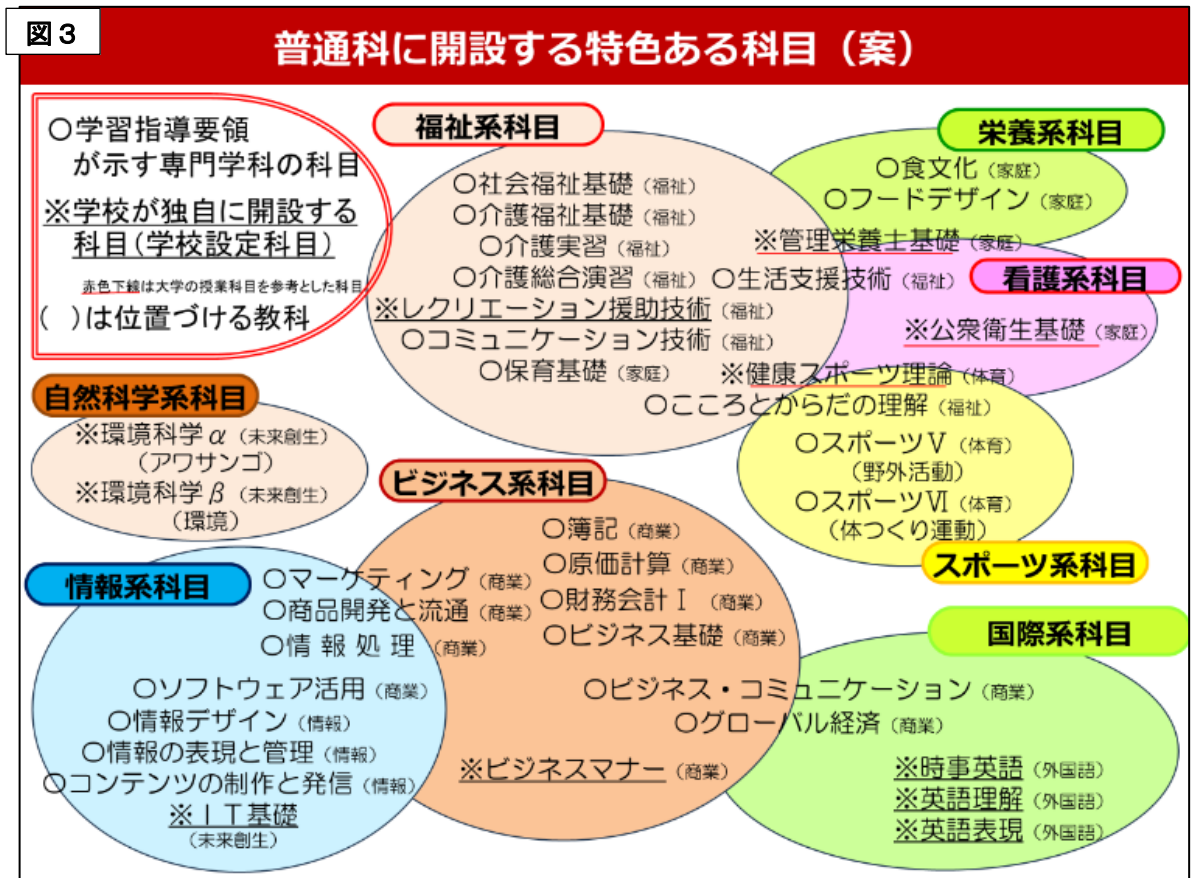


図4は、教育課程の概要を示したもので、縦軸に学年とコースを、横軸には、単位数を示している。青色のボックスで示したのは、全員が履修する科目である。

附属高校の教育課程（案）																																		
○選択科目群により多様な進路希望に対応 ■ 全員が履修する科目（白文字：学習指導要領で定められた必修科目）																																		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35																																		
1 年 次	(すべての生徒が共通)																																	
	現代の 国語	言語文化	歴史総合	公共	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	芸術選	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	家庭基礎	社会福祉基礎	総合的な探究の時間	LHR																	
2 年 次	<大学進学コース> ※ 県大進学プログラム生も共通																																	
	論理国語	古典探究	地理総合	数学Ⅱ	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	選択科目群A	選択科目群B	選択科目群C	選択科目群D	LHR	キャリアビジョンの構築+探究学習																		
	<キャリアコース（仮称）> ※ 大学進学コース以外																																	
	論理国語	国語表現	地理総合	数学Ⅱ	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	選択科目群A	選択科目群B	選択科目群C	選択科目群D	選択科目群E	選択科目群F	選択科目群G	選択科目群H	LHR	探究学習（グループ探究）														
3 年 次	<大学進学コース> 大学進学希望生徒（県大プログラム生含む）の学力を保障																																	
	論理国語	古典探究	体育	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅱ	総合的な探究の時間	選択科目群A	選択科目群B	選択科目群C	選択科目群D	選択科目群E	選択科目群F	選択科目群G	選択科目群H	選択科目群I	LHR																		
	<大学進学コース（ 県大進学プログラム生 ）> 探究学習（個人探究（ゼミ形式））																																	
	論理国語	古典探究	体育	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅱ	総合的な探究の時間	先取り履修探究学習	選択科目群A	選択科目群B	選択科目群C	選択科目群D	選択科目群E	選択科目群F	LHR																				
<キャリアコース（仮称）> ※ 大学進学コース以外																																		
論理国語	国語表現	数学Ⅱ	体育	英語コミュニケーションⅡ	総合的な探究の時間	選択科目群A	選択科目群B	選択科目群C	選択科目群D	選択科目群E	選択科目群F	選択科目群G	選択科目群H	選択科目群I	LHR																			

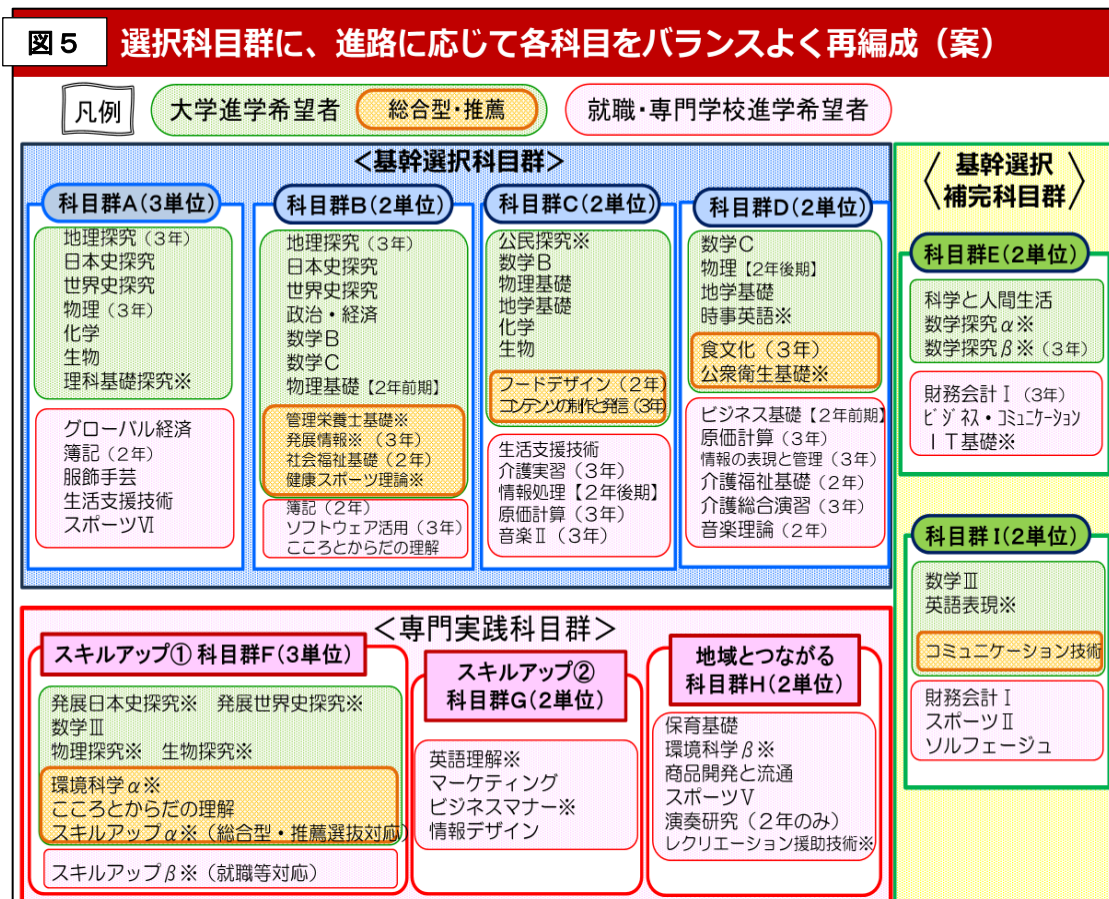
1年次には、全員が履修する科目が多くなっており、2・3年次では、緑色で示している選択科目を多く配置している。こうすることで、一人ひとりの進路希望に応じた教育を効果的・効率的に展開する。

なお、1年次には全員が「社会福祉基礎」を学ぶこととしている。介護は今や誰もが避けては通れない問題であり、また、広く福祉の視点をもつということになる。この社会福祉基礎に加えて、我々の生活の基盤となる家庭について学ぶ「家庭基礎」や、地域社会の課題について探究する「総合的な探究の時間」を関連付けて学ぶことを通して、人々が生き生きと暮らす社会の形成や、Well-beingの実現、生活や人生の質の向上（QOL（Quality of Life））に力を発揮できる人材を育成するとともに、生徒自身がこうした生活を送ることができる力を身に付けさせることとしており、県立大学の理念にもつながるこれらの科目による学習は、他校にはない附属高校の特色の一つになると考えている。

図5の緑色に示すそれぞれの選択科目群に、図3に示すように、生徒が自分の興味・関心や希望する進路に応じて最適な科目を選択できるよう、特色ある科目を、国、地歴公民、数学、理科、英語などの普通教科とともにバランスよく配置している。

例えば、大学進学希望者なら、図5の緑色の網掛けにある科目を選ぶことで、希望する大学の受験科目に効率的に対応することができる。また、学校推薦型選抜

や総合型選抜などの方法により進学をめざす場合は、オレンジ色の網掛けにあるような特色ある科目を選択し、県立大学の教員による特別講義などを受講したり、福祉や商業の資格取得につなげたり、環境科学などの自然環境を教材とした他にはない講義を受けたりすることで、附属高校での唯一無二の経験を生かすことができる仕組みとなっている。



さらに、就職や、専門学校への進学を希望する生徒は、ピンク色の網掛けにあるような科目を選び、実践的な力を身に付けることができる。

科目群Fの「スキルアップ」という科目においては、αでは、総合型選抜や学校推薦型の受験対策となる面接やプレゼン対策を、βでは、就職試験対策となる面接やプレゼン対策を行い、それぞれの希望進路の実現を支援することとしている。

図6、7は、希望進路により選択する授業のモデルを示している。

例えば、図6において、理系大学進学希望者は、共通テストの理科・数学2科目を優先して選択することが可能である。また、文系の例として、大学進学コースの県大進学プログラム生が国際文化学科への進学を希望する場合を示しており、「グローバル経済」や「世界史探究」「政治経済」など、大学での学びにつながる科目を選んだり、附属高校卒での進学に必要なプレゼン対策を行う「スキルアップα」を選んだりすることができるようになっている。

図6		進路別履修モデル① (例)																																		
		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35																																		
<大学進学コース>		理系大学進学希望者														赤字：進路に応じて選択した科目																				
2年次	論理国語	古典探究	地理総合	数学Ⅱ			体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	化学	物理基礎	数学B	物理	LHR																			
3年次	論理国語	古典探究	体育	英語コミュニケーションⅢ			論理・表現Ⅱ	総合的な探究の時間	物理	政治経済	化学	数学C	数学探究β	数学Ⅲ	数学Ⅲ	LHR																				
(特徴) 共通テスト 理科・数学2科目対応																																				
<大学進学コース (県大進学プログラム生 →国際文化学科) >																																				
2年次	論理国語	古典探究	地理総合	数学Ⅱ			体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	グローバル経済	世界史探究	地学基礎	時事英語	LHR																			
3年次	論理国語	古典探究	体育	英語コミュニケーションⅢ			論理・表現Ⅱ	総合的な探究の時間	先取り履修探究学習	スキルアップα(プレゼン)	世界史探究	政治経済	公民探究	食文化	LHR																					
<大学進学コース (県大進学プログラム生 →情報社会学科) >																																				
2年次	論理国語	古典探究	地理総合	数学Ⅱ			体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	日本史探究	日本史探究	情報処理	地学基礎	LHR																			
3年次	論理国語	古典探究	体育	英語コミュニケーションⅢ			論理・表現Ⅱ	総合的な探究の時間	先取り履修探究学習	スキルアップα(プレゼン)	グローバル経済	ソフトウェア	数学B	数学C	LHR																					
(特徴) 大学での学びにつながる科目選択可能 育成型選抜を意識したプレゼン対策に対応する「スキルアップα」を選択可能。 育成型選抜以外の各種受験に対応(共通テストで地歴や数学2科目に対応)できる選択可能。																																				

なお、県大進学プログラムでは、3年次に、赤色で示してある「先取り履修」の時間を設けている。「先取り履修」とは、高校生が大学の授業を受講した科目について、高校の単位として認めるだけではなく、その単位を大学入学後、大学の単位として認めるという制度であり、週1日程度、大学に出向いて、またはオンラインで、県立大学の授業を受講するように考えている。具体的には、県立大学では1年次に、基盤教育という学部の学びの基盤となり、視野が広がるような科目を履修することとなるが、高校生が先取り履修として学ぶ科目は、この基盤教育の中の「生命・生活・人生を探究する科目」や「データサイエンス」についての科目を学習するなど、大学1年生が選択する授業の中から、適切なものを学習できるよう、今後検討していく予定である。

図7は、大学コース以外の生徒(仮称「キャリアコース」)は、それぞれの進路に関連した資格が取得できるような科目を選べるようになっている。

図7

進路別履修モデル②（例）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35		
<キャリアコース（仮称）> 赤字文字：進路に応じて選択した科目																																					
ビジネス系 専門学校進学・就職希望者 目指す資格等：簿記検定・情報処理検定、全商英語検定																																					
2年次	論理国語	国語表現	地理総合	数学Ⅱ	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	簿記	簿記	情報処理	ビジネス基礎	人間生活	科学とスポーツ	LHR																				
3年次	論理国語	国語表現	数学Ⅱ	体育	英語コミュニケーションⅡ	探究の時間	グローバル経済	ソフトウェア活用	原簿計算	原簿計算	財務会計Ⅰ	スキルアップβ	マーケティング	商品開発と流通	財務会計Ⅰ	LHR																					
福祉系 専門学校進学・就職希望者 目指す資格等：介護職員初任者研修修了資格																																					
2年次	論理国語	国語表現	地理総合	数学Ⅱ	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	生活支援技術	社会福祉基礎	生活支援技術	介護福祉基礎	人間生活	科学と援助技術	LHR																				
3年次	論理国語	国語表現	数学Ⅱ	体育	英語コミュニケーションⅡ	探究の時間	スポーツⅥ	こころとからだの理解	介護実習	介護総合演習	ビジネス・コミュニケーション	こころとからだの理解	ビジネスマナー	保育基礎	介護技術	コミュニケーション	LHR																				
保育・音楽系 専門学校進学・就職希望者																																					
2年次	論理国語	国語表現	地理総合	数学Ⅱ	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な探究の時間	服飾手芸	土基礎	管理栄養	ガイド	音楽理論	人間生活	科学と演奏研究	LHR																			
3年次	論理国語	国語表現	数学Ⅱ	体育	英語コミュニケーションⅡ	探究の時間	スポーツⅥ	健康スポーツ理論	音楽Ⅱ	公衆衛生基礎	ビジネス・コミュニケーション	スキルアップβ	ビジネスマナー	保育基礎	ソルフェージュ	LHR																					
（特徴）「スキルアップβ」や「ビジネスマナー」を選択することで、就職試験対応やプレゼンスキルなどを学ぶことができる。																																					

例えば、ビジネス系の専門学校への進学や就職希望者は、「ビジネス基礎」や「簿記」「財務会計」などを学習しながら、簿記検定や情報処理検定などの資格取得を目指すことができる。

福祉系の専門学校への進学や就職希望者では、「介護福祉基礎」「生活支援技術」「こころとからだの理解」などを学習することで、介護職員初任者研修修了資格の取得を目指すことができる。

イ 附属高校から県立大学への進学の仕組み（県大進学プログラムと育成型選抜）

《県大進学プログラム》

附属高校から県立大学への進学を希望する生徒を対象に「県大進学プログラム」を編成し、2年次からこのプログラムにエントリーした生徒を対象に、グループ・個人による「探究学習」や先取り履修など、高校と大学が協働し、県立大学が求める生徒を育成する。

《育成型選抜》

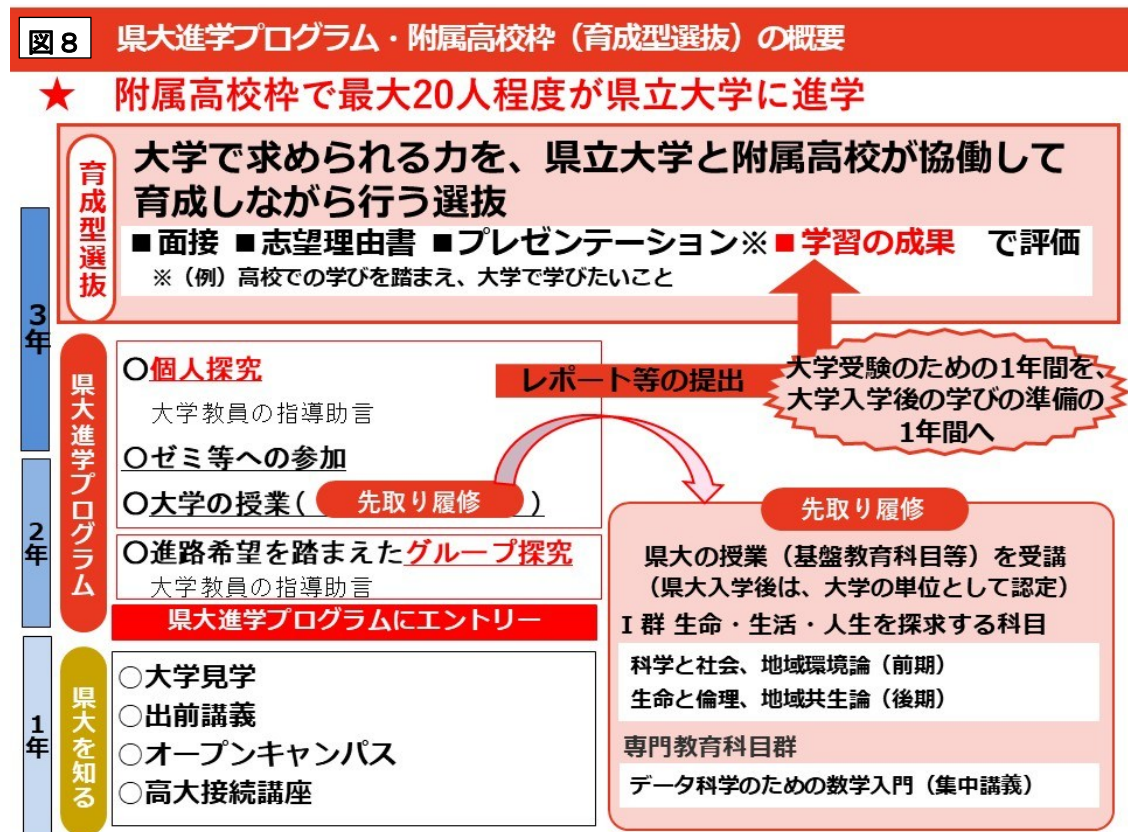
現在、県立大学では、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを、時間をかけて総合的に評価する「総合型選抜」、高校の校長の推薦により受験する「学校推薦型選抜」、大学入学共通テストなど、県立大学が指定する試験を受験し、その得点で合格者を決定する「一般選抜」により、入学者を決定している（図27、46ページ参照）。

附属高校から県立大学に進学する際の選抜は、学校推薦型選抜の中の県内高校枠の中に、附属高校枠を設けて行うこととしている。この県内高校枠は、年度に

よって違いがあるが、およそ100人程度であり、そのうち最大20人程度を附属高校枠とする。附属高校枠での合格が20人を満たない場合は、その欠員は、附属高校枠以外の県内高校枠に充てられる。

選抜に際しては、「県大進学プログラム」で履修した、グループ・個人による「探究学習」や先取り履修の科目等の学習の中で作成したポートフォリオやレポートなどの成果物、また、例えば、「高校での学びを踏まえ、大学で学びたいこと」のプレゼンテーションを用いて、県立大学への入学者を決定することを検討中である。このように、県大進学プログラムにより、県立大学と高校が協働して、生徒を育成しながら、入学者を決定する仕組みの選抜方法を「育成型選抜」と呼ぶこととしている。

こうした仕組みを通して、県立大学が求める資質・能力を、大学と附属高校で協働して育成しながら、その過程・成果・展望を、教育理念及び各学科の求める学生像、すなわちアドミッション・ポリシーに基づいて、多面的・総合的に評価して選抜することとしている（図8）。



多くの高校生が、高校3年の1年間を、大学受験のための準備に費やしていると言われていた中、県大進学プログラムにより、県立大学に進学する生徒は、この貴重な1年間を、大学での学びに向けた意欲・能力・行動力など、大学入学後の学びのための準備に充てることができ、それによって大学進学後にはリーダー的役割を發揮できる人材として活躍してくれるものと、大きな期待をしている。

現在、県立大学では、総合型選抜、学校推薦型選抜で合格した生徒に、各学科が教科・科目を指定して、大学入学共通テストを受験するよう推奨しているところであるが、附属高校では、大学入学共通テストに向けた科目の選択指導や、進

路決定後の特別授業など、大学入学後の学力保障につながる取組も行うこととしている。

なお、この附属高校枠及び育成型選抜は、附属高校が開校する令和8年度の入学生を対象として実施するものであるが、附属高校の生徒として卒業する令和8年度に在学する生徒も対象とし、令和9年度までの間は、現在、周防大島高校と県立大学の間で実施している取組を充実させたり、附属高校で実施する予定の取組を先行実施したりするなどして、育成型選抜を前倒しする形で入学者を決定していく予定である。

ウ 連携型中高一貫教育について

中高一貫教育は、中学校と高校の6年間を一貫した教育課程で学んだり、連携した教育課程で学んだりする仕組みであり、中学校段階への入学方法、高校への入学方法の違いなどにより、中等教育学校や、併設型、連携型がある。

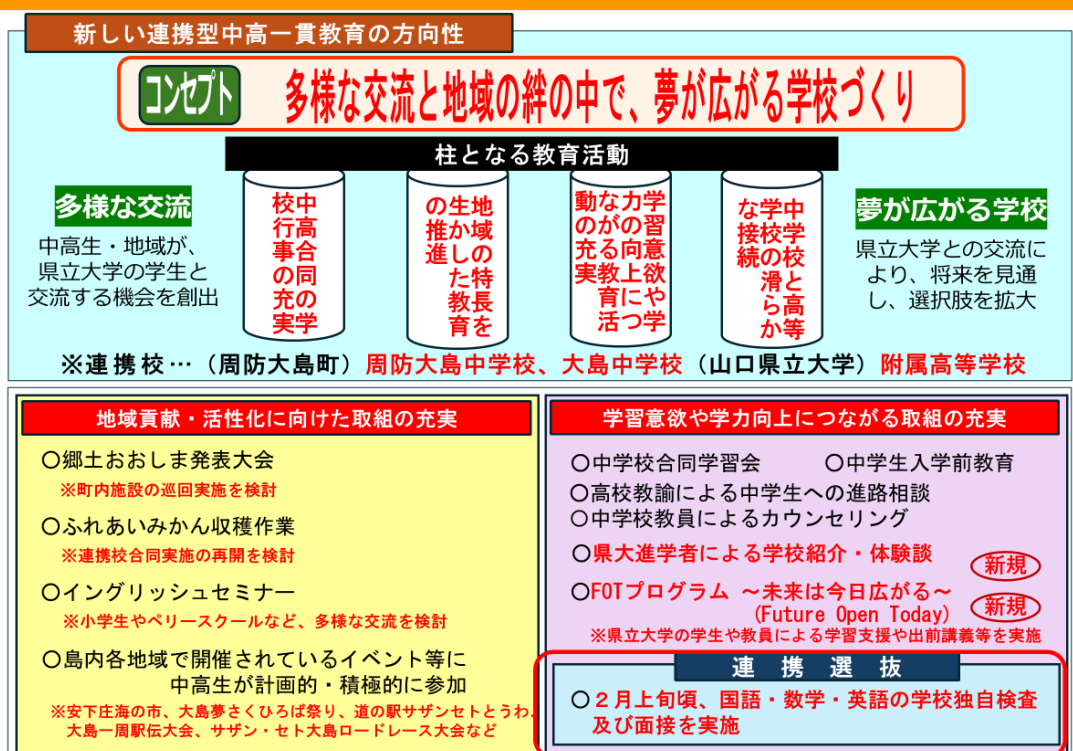
周防大島地域で実施している中高一貫教育は、町立と県立といった設置者が異なる中学校と高校が、合同で実施する行事などを通して連携を深める連携型の中高一貫教育である。

周防大島地域では、平成13年度から、周防大島高校の前身である安下庄高校と近隣の3つの中学校の間で開始し、その後の中学校や高校の再編等を経て、現在では、周防大島中学校、大島中学校、周防大島高校という町内にある全ての中学校・高校が一体的に取り組んでいる。

本地域の連携型中高一貫教育については、これまでも、地域の子どもたちに高校教育の機会を保障する仕組みとして大きな役割を果たしてきており、このことは、新たに開校する附属高校の役割・使命と考えていることから、附属高校においても継続して実施する。

図9

新しい連携型中高一貫教育



附属高校開校後は、この取組の中に県立大学が加わることとなり、中高生・地域が、県立大学の学生や教員と交流する機会が生まれ、子どもたちが、将来を見通し、大学進学を含めた選択肢を拡大することにつながることを期待できる。このため、新しいコンセプトを「多様な交流と地域の絆の中で、夢が広がる学校づくり」とし、「中学校と高等学校の滑らかな接続」、「学習意欲や学力の向上につながる教育活動の充実」、「地域の特長を生かした教育の推進」、「中高合同の学校行事の充実」の4つの柱のもと、例えば、これまで、周防大島高校がある橘地域で実施していた、総合的な探究の時間の成果を中学校と高校が合同で発表する「郷土おおしま発表大会」の島内での巡回実施や、コロナ禍のために中断していた「ふれあいみかん収穫作業」の再開を検討する。また、これまで中学生と高校生で行っていた、英語を用いた様々なアクティビティを行う「イングリッシュセミナー」に小学生も参加できるようにしたり、岩国の米軍基地にある学校であるペリースクールと交流したり、これに県立大学生も加わるような形で充実させていきたいと考えている。

現在、周防大島では、各地域で様々なイベントが開催されている。これらのイベントに中高生が積極的に参加するなどして、中高生の活躍する姿を見て、地域が元気になるような取組を進める。

これまでも、中学校・高校の教員が協力して、生徒の学力の状況に応じた合同の学習会を実施していたが、これに加えて、附属高校への進学が決定した生徒に入学前教育として実施する特別な授業の実施、高校の教員と中学校の教員が行っていた進路相談やカウンセリングの継続、新しい取組として、県立大学に進学が決まった生徒や学生による大学や高校紹介、県立大学の学生による中学生の学習支援、県立大学の教員が附属高校で行う出前授業への中学生の参加など、学習意欲や学力の向上とともに、中学生の視野や選択肢が広がるような取組を進める。

なお、これまで、連携中学校から周防大島高校への進学については、中高一貫教育を行っており、日頃から学力の状況を把握できることから、高校入試に際しては、小論文や面接などで入学者を決定していたところであるが、附属高校では、より客観的に学力を把握できるよう、これまでの小論文に代わって国数英の学力検査を新たに実施する予定である。

こうした取組により、町内の子どもたちの学習意欲・学力のより一層の向上を図ることとしている。

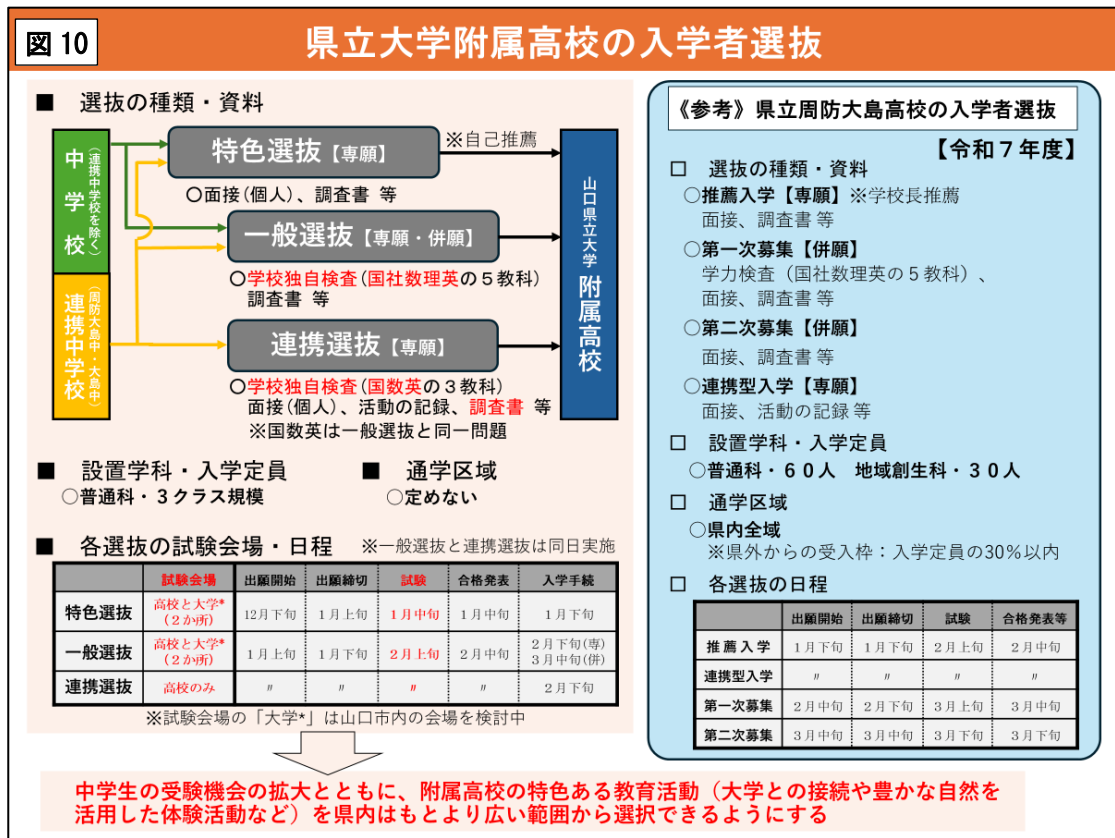
(6) 中学校から附属高校への入学の仕組み

これまで山口県立周防大島高校では、他の公立高校と同様に、推薦入学、第一次募集、第二次募集を行うとともに、連携中学校から入学する連携型入学者選抜を実施してきたところである。また、通学区域は県内全域とし、県内では唯一、入学定員の30%の範囲内で県外からの受け入れ枠を設けている。

附属高校が開校する令和8年度に入学する生徒からは、県内の公立高校でこれまで行ってきた推薦入学が、中学校長の推薦が不要な特色選抜に変更されることから、これに合わせた「特色選抜」を1月下旬に実施するとともに、5教科の学力を問う

一般選抜と、新たに3教科で実施する学力検査を行う連携選抜を、ともに2月中旬に行うこととしている。

また、通学区域は定めず、県内外を問わず志願できる仕組みとする。



試験の日程については、附属高校では、それぞれの選抜試験を、県内の公立高校の日程より早めて、私立高校や国立の高等専門学校と同時期に実施する。

また、一般選抜は、志願者が、合格内定した場合、入学を確約する「専願」と他の公立高校との「併願」を選べるようにし、併願として出願し、附属高校に合格した場合、公立高校の合否を確認して、附属高校か公立高校かを選べるような仕組みとする。

なお、附属高校では第二次募集は行わず、入学辞退があった場合は、一般選抜の追加合格で対応することとしている。

さらに、特色選抜と一般選抜の試験場所は、県立大学がある山口市と、附属高校の2か所で実施することとしている。


以上の仕組みにより、中学生の受験機会を拡大するとともに、附属高校が県内でも数少ない生徒寮を有する学校であるという特長を生かして、大学との接続や豊かな自然を活用した体験活動など、附属高校の特色ある教育活動を県内はもとより広い範囲の中学生が選択できるようにしたいと考えている。

ア 入学者選抜募集要項

附属高校の入学者選抜については、令和7年7月8日（火）に実施要項を、募集要項を10月10日（金）に公表した。募集要項は、実施要項の内容に加えて、受験時の注意事項や、中学校が行う出願手続き、出願書類等について示したものである。

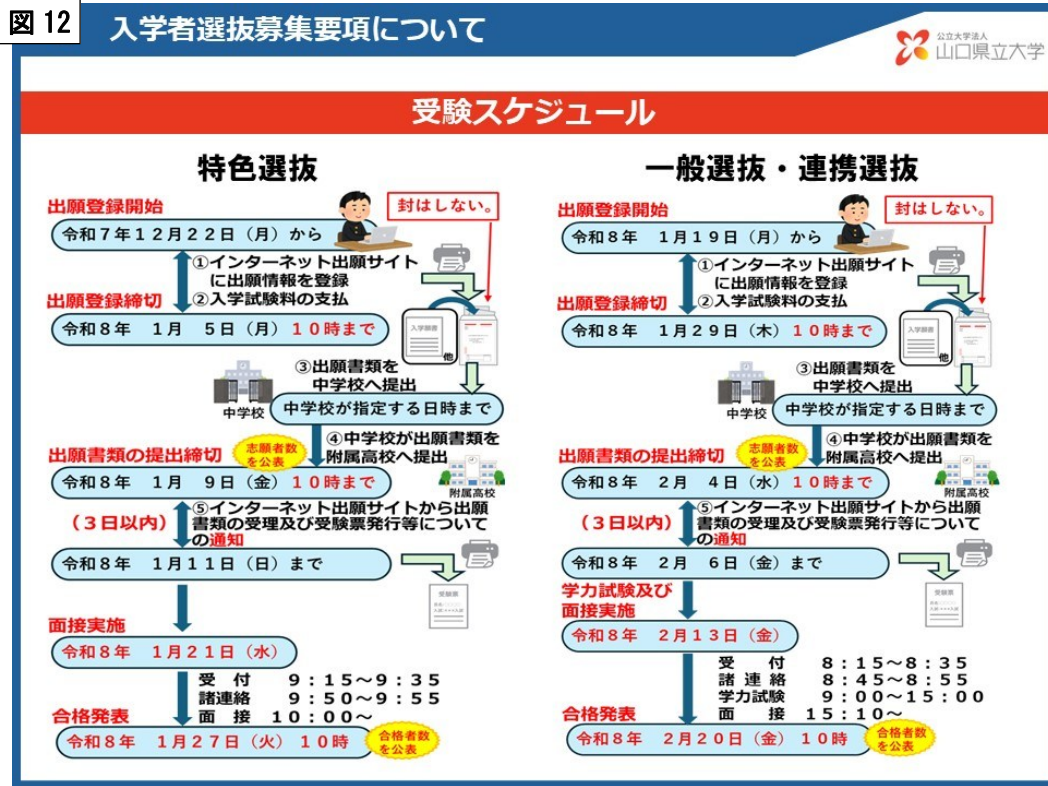
図 11 入学者選抜募集要項について

募集要項の内容

I 募集	IV 連携選抜	VII インターネット出願の流れ
II 特色選抜	1 募集人員	VIII 出願書類（記入例）等
1 募集人員	2 出願要件	山口県立大学附属周防大島高等学校入学願書 （第1号様式）
2 出願要件	3 出願	山口県立大学附属周防大島高等学校入学者選抜 に係る調査書発行願（第2号様式） 調査書
3 出願	4 学力試験及び面接	志願理由書（第3号様式）
4 面接	5 受験会場	入学の確約に係る誓約書（第4号様式）
5 受験会場	6 選抜	活動の記録（第5号様式）
6 選抜	7 合格発表	出願チェック票（第6号様式）
7 合格発表	8 入学手続等	宛名票
8 入学手続等	V 出願等に関する共通事項	自己申告書（第7号様式）
III 一般選抜	1 出願書類の訂正について	特別配慮申請書（障害のある生徒用）（第8号 -1様式）
1 募集人員	2 受験に当たっての注意事項	特別配慮申請書（帰国生徒及び外国人生徒用） （第8号-2様式）
2 出願要件	3 学力試験中の注意事項	自宅外通学希望申請書（第9号様式）
3 出願	4 受験上の配慮に係る手続等	身元引受に係る承諾書（第10号様式）
4 学力試験及び面接	5 保護者の居住地以外から通 学を希望 する場合の手続	令和8年度入学者選抜に係る受験上の配慮につ いて（第11号様式）
5 受験会場	6 個人情報の利用	特別配慮決定通知書（第12号様式）
6 選抜	7 学力試験の成績の提供	入学辞退届（第13号様式）
7 合格発表	8 その他	募集要項はこちらに掲載しています
8 入学手続等	VI 中学校が行う出願手続き等	
	1 中学校が行う出願手続	
	2 中学校が行う出願書類作成 上の留意点	

イ 受験スケジュール

それぞれの選抜は、山口県の公立高校の入学選抜より早い日程で実施し、インターネットによる出願登録とともに、調査書等の出願書類については、中学校を通して提出する。なお、志願状況等を適宜、公表することとしている。



ウ 出願書類

次の表は、入学願書や調査書など出願に際して必要な書類の一覧である。自己申告書や特別配慮申請書により、欠席日数が多いものの回復傾向にあるなど、また、障害の状況など、受験者一人ひとりの状況を把握しながら選抜を実施したいと考えている。

図 13 入学者選抜募集要項について

○...全員が提出する書類 △...必要に応じて提出する書類

出願書類	入場所		特色選抜	一般選抜		連携選抜	備考
	出願サイト	HP		専願	併願		
入学願書	●		○	○	○	○	特色選抜で必要で、PRしたい自分の特色や本校の特色を踏まえた志願の理由を記載
調査書発行願	●		○	○	○	○	
志願理由書	●		○	—	—	—	
入学の確約に係る誓約書	●		○	○	—	○	専願の区分で出願する場合に必要
活動の記録	●		—	—	—	○	中高一貫教育校として高校と連携した取組について記載
出願チェック表	●		○	○	○	○	
宛名票	●		○	○	○	○	
調査書		●	○	○	○	○	長期欠席がある生徒、障害のある生徒や帰国生徒、外国人生徒などで、本校に理解してほしいことがある場合や特別な配慮を必要とする場合に必要
自己申告書		●	△	△	△	△	
特別配慮申請書 (障害等のある生徒用)		●	△	△	△	△	
特別配慮申請書 (帰国生徒及び外国人生徒用)		●	△	△	△	△	
自宅外通学希望申請書		●	△	△	△	△	生徒寮を希望する場合に必要
身元引受に係る承諾書		●	△	△	△	△	生徒寮以外の自宅外通学を希望する場合に必要

エ 各選抜試験の実施内容

図 14 において、各選抜（特色選抜・一般選抜・連携選抜）の令和 7 年度の試験実施日のスケジュールを示している。一般選抜の学力試験は、山口県の公立高校入学者選抜の学力検査と同じ 50 分で実施し、学力試験問題は、基礎的・基本的な内容を重視しながら、思考力、判断力、表現力等を図る内容も取り入れるような問題を作成することとしている。（「学力試験問題作成方針」を参照）

図 14 入学者選抜募集要項について

公立大学法人
山口県立大学

各選抜の試験の実施

特色選抜

4 面接
面接を令和 8 年 1 月 21 日（水）に実施します。

(1) 日程 受付 9:15~9:35
諸連絡 9:50~9:55
面接 10:00~

(2) 面接の方法
ア 個人面接又は集団面接（受験票発行時にお知らせします。）
イ 面接の順番は試験当日に案内します。（試験の終了時間は面接の順番によって異なります。）

(3) 持参物
受験票、筆記用具
※ 本校会場で受験する場合は、上履きを持参してください。（山口県立大学会場は不要）

一般選抜

4 学力試験及び面接
学力試験及び面接を、令和 8 年 2 月 13 日（金）に実施します。

(1) 日程
受付 8:15~ 8:35
諸連絡 8:45~ 8:55
学力試験 9:00~15:00

学力試験の問題は、山口県立大学が作成

時限	教科	試験時間
1	国語	9:00~ 9:50 (50分) (休憩)
2	数学	10:10~11:00 (50分) (休憩)
3	英語	11:20~12:10 (50分) (リスニングなし)(休憩)
4	社会	13:00~13:50 (50分) (休憩)
5	理科	14:10~15:00 (50分) (休憩)

面接 15:10~

Point!
山口県の公立高校入学者選抜の学力検査と同じ時間・同じ教科順で実施します。

連携選抜はこの後、面接へ（13:00~）

学力試験問題作成方針

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）に準拠して作成し、特に次の点に留意して出題するものとする。

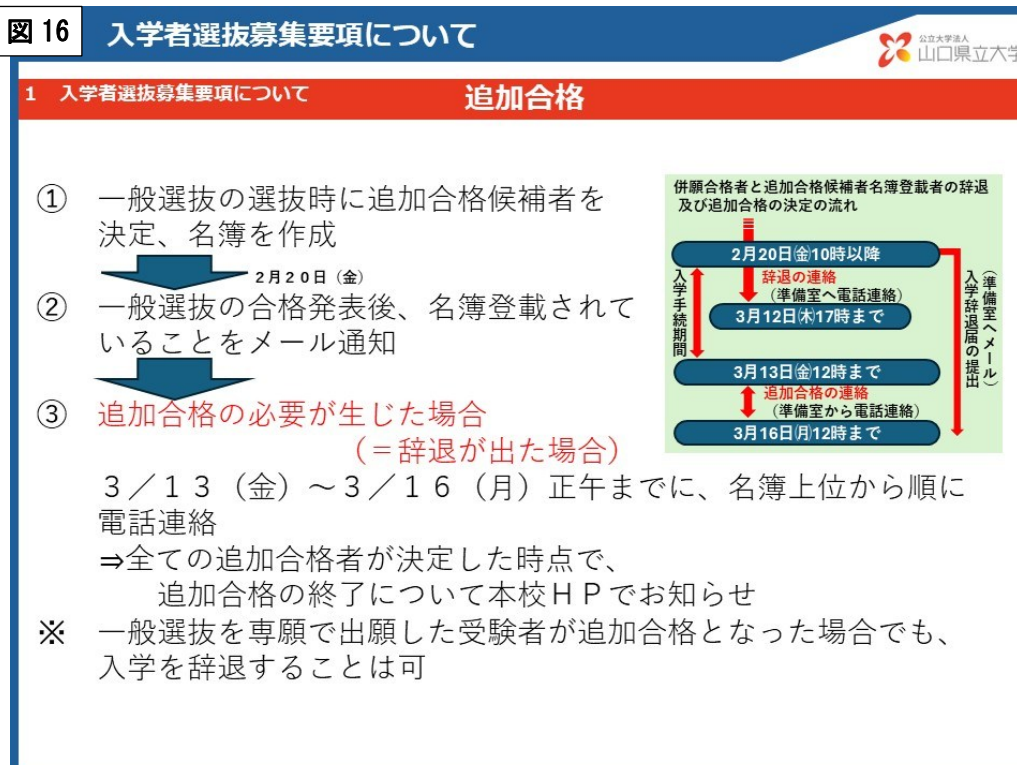
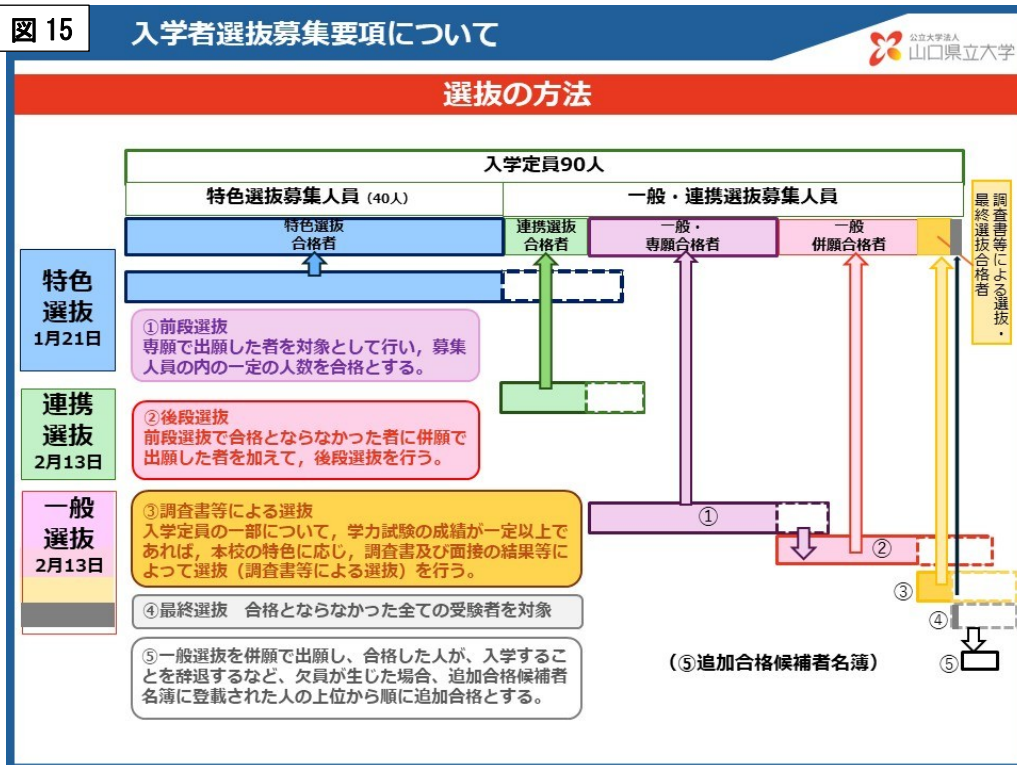
- 1 基礎的・基本的な内容を重視し、学習の到達の状況と総合的な学力を把握することができるように努める。
- 2 問題の作成に当たっては、知識及び技能の習得状況を確実に測ることができる内容とするとともに、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を図る内容も取り入れるように努める。
- 3 出題には、選択法、完成法、記述式等を適切に取り入れるように配慮する。

オ 選抜の方法

特色選抜実施後、一般選抜と連携選抜は同日に行われる。選考の方法については、中高一貫教育を行っている周防大島町内の 2 つの中学校からの志願者を対象とする連携選抜を、中高一貫教育の趣旨にもとづいて先に選抜する。次に、合格

した場合に本校への入学を確約する専願により志願する生徒は、本校入学への意欲が高いことから、一般選抜に専願により出願した生徒を対象に、図 15 のとおり、①前段選抜を、以下、②から④の流れで行っていく。なお、③の調査書等による選抜とは、学力だけではない生徒の多様な面を評価するために実施する選抜方法となっている。

また、一般選抜を併願で出願し合格した者が辞退するなど欠員が生じた場合は、⑤にあるように一般選抜で合格とならなかった者の中から追加合格候補者を決定し、図 16 にあるような流れで追加合格を決定する。



5 附属高校の開校に向けた準備状況

(1) 校章・校歌・制服の制定

校章のデザインや校歌の作詞作曲、制服のデザインは、本学や周防大島高校、地域にゆかりのある方をお願いした。

ア 校章



【作成者】

新村則人（しんむら のりと）氏

(株)garden 代表（東京都）

グラフィックデザイナー

周防大島町出身、山口県立久賀高等学校卒業

【作品の意図】

基本造形は周防大島（Suo-Oshima）の「S」と「O」で構成されていて、学校を取り巻く周防大島の美しい海を鮮やかなブルーで、また、前進・進取のイメージを船の航跡で表現している。

さらに、円形を象った海は、地球をも想像させ、グローバルな視点と調和を表現している。

また、航跡が生み出す7つの波の背は、高校と大学の7年間をメッセージしている。

イ 校歌

山口県立大学附属 周防大島高等学校校歌

作詞 弘中幸雄
作曲 田村 洋

一 万葉の波 打ち寄せる

校章胸に 友集う

学びの庭に 肩を組み

育む和と輪 広き視野

海鳴り世界を かけめぐる

県大附属 おおしまに 校旗はためく

二 緑したたる 嵩の嶺

蜜柑の花に 夢香る

地域の方 身にまとい

求めて止まぬ 自分区

山紫水明 風渡る

県大附属 おおしまの 校塔高し

三 先人の史誌 ひもとけば

進取のこころ たくましく

明日への扉 推し敲く

たゆまぬ創意 継ぐ熱誠

みなぎる想いを 語り合ふ

県大附属 おおしまは 我らが母校

【作成者】

作詞 弘中幸雄（ひろなか ゆきお）氏
県立久賀高校に教頭として在職経験あり（光高校校長で退職）
久賀中学校卒業

作曲 田村 洋（たむら ひろし）氏
山口県立大学名誉教授
山口県民愛唱歌「みんなのふるさと」等多数作曲

【作詞の意図】

青春時代という人生のとば口にある一人ひとりの生徒が、高校生活を通じて確かに生きる力を身につけていくことを願い、あたたかなエールを送ろうという思いで考えた。

県立大学附属高校という県内初の高校にふさわしく、また、そこに学ぶ生徒たちが希望と意欲を持てるような内容となるよう心掛けた。

地域に支えられ地域を支える学び舎であることを踏まえて、周防大島町の歴史と伝統にふれ、その精神性を受け継ぐ内容を盛り込んだ。

【作詞の構成】

○附属高校の校歌は三連構成である。

一番は、校章にも描かれた周防大島を取り囲む「海」をイメージし、

二番は、周防大島内の爽やかな「自然」にふれ、

三番は、学校を支える周防大島町の「歴史」や「文化」について取り上げている。

○各連において、附属高校の教育の特色がイメージできるよう、

一番は、「和と輪」や「視野」を、

二番は、「夢」「自分色」や「地域の力」を、

三番は、「進取のこころ」や「創意」という語句を用いるとともに、「押し敲く」で「試行錯誤—探究」を表している。

また、先行する三校を引き継ぐ観点から、各高校の校歌に使われた語句を活用している。「世界」（周防大島高校）、「嵩の嶺」（久賀高校）、「熱誠」（安下庄高校）が、それに当たる。

【作曲の意図】

県立大学附属高校の開校を祝して、希望に満ちた明るさが表れるように作曲した。

「周防大島」の自然や風土と調和し、どこか懐かしさのある曲調に仕上げた。

ウ 制服

附属高校の制服は、グレーのブレザーと黒を基調としたスラックスとスカートに、爽やかなラベンダー色のネクタイ・リボンがアクセントになっている。



【制服デザイン】

大田舞（おおた まい）氏

山口県出身。山口県立大学生活科学部環境デザイン学科卒業。フィンランド国立ヘルシンキ芸術デザイン大学大学院（現・アールト大学）ファッションデザイン専攻にて修士課程を修了。

現地アパレル企業での勤務を経て、マリメッコ本社にてファッションデザイナーとして商品開発・デザインを担当。現在はフリーランスとして、自身のプロダクトを展開するとともに、企業とのコラボレーションを行い、ファッション、グラフィック、テキスタイルなど多分野にわたるデザインに携わっている。

(2) 生徒募集の取組状況

ア 中学校訪問等

生徒募集の取組状況については、県内市町教育委員会や小中学校の校長会、岩国・柳井・熊毛地区の中中学校を中心に直接訪問して、学校案内、チラシ、ポスター等による学校紹介や募集要項等の周知に努めた。

○訪問時期・訪問先等

【市町教育委員会】

訪問時期	訪問先（市町教育委員会）	計
6月～7月	岩国市、柳井市、光市、下松市、周南市、防府市、 山口市、宇部市、山陽小野田市、美祢市、下関市、 長門市、萩市、周防大島町、和木町、上関町、 平生町、田布施町、阿武町	19か所

【校長会等】

訪問時期	会議	計
4月	公立高等学校長会議 地域別小中学校長研修会（岩国、柳井、周南、防府、 厚狭、萩）	7か所
7月～8月	中学校進路担当者説明会（岩国、柳井、周南、防府、 厚狭、萩）	6か所

【中学校】

訪問時期	訪問先（中学校）	計
6月～7月	岩国市（通津、岩国、麻里布、川下、灘、東、平田、 岩国西、由宇、玖珂、周東、錦、美和、本郷） 玖珂郡（和木） 柳井市（柳井、柳井西、大島） 大島郡（大島、周防大島） 熊毛郡（上関、田布施、平生）	23校

○入学者選抜実施要項の説明

訪問時期	訪問先（中学校）	計
8月	岩国市（通津、岩国、麻里布、川下、灘、東、平田、 岩国西、由宇、玖珂、周東、錦、美和、本郷） 柳井市（柳井、柳井西、大島）	17校

○入学者選抜募集要項の説明

訪問時期	訪問先（中学校等）	計
10月	周防大島町教育委員会 岩国市（通津、岩国、麻里布、川下、東、平田、 岩国西、由宇、玖珂、美和） 柳井市（柳井、柳井西、大島） 大島郡（大島、周防大島） 熊毛郡（上関、田布施、平生）	19か所

イ 地域みらい留学

全国から生徒募集を行っている高校が集うイベントである「地域みらい留学」に参加し、オンライン説明会では、附属高校の特徴あるカリキュラムや県大進学プログラムを用いた大学進学について紹介した。地方の高校への進学を考えている中学生に直接学校の魅力を伝えることができる対面フェスでは、令和7年度、これまでの東京会場に加えて大阪会場にも参加した。東京会場では昨年までの2倍以上、大阪会場でも多くの中学生とその保護者が本学のブースを訪れた。

図 17

生徒募集の取組状況について
■ 「地域みらい留学」 テーマ別説明会(オンライン)

地域みらい留学 「意志ある若者」に溢れる持続可能な地域・社会を作るべく、地方の高校へ進学する都会の中学生と、全国から生徒を募集する高校との出会い（県外生徒募集／全国生徒募集）から、「生徒が実際に都道府県の枠を越えて地域の高校に入学し充実した3年間を過ごすこと」を目的として、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム（所在地：島根県松江市、代表理事：岩本 悠）が実施する事業

附属高校の取組状況 テーマ別説明会（オンライン2回）・高校進学フェス（東京会場、大阪会場）

【テーマ別説明会（オンライン）】

①めずらしい・特徴のある学科紹介
日 時：6月3日（火）19：00～20：00（引き続いて「オンライン相談会」を実施（20：00～20：40）
内 容：テーマに基づく各校5分のプレゼンテーション
（附属高校では、多様な選択科目、県大進学プログラム、PBL等について紹介）
参加者：予約者34人 当日参加者29人（オンライン相談会参加者：予約者6人 参加者4人）

②地域みらい留学のその先【進路について】
日 時：9月25日（木）19：00～20：00（引き続いて「オンライン相談会」を実施（20：00～20：40）
内 容：テーマに基づく各校5分のプレゼンテーション
（県大進学プログラムを中心に紹介）
参加者：予約者30人 当日参加者24人（オンライン相談会参加者：予約者16人 参加者12人）
※ 主な質問事項

総合スポーツ部が気になっていました。どのような部活か？／弓道部はありますか？／釣りはないですか？／オープンスクールはありますか？／来春開校予定とのことですが、すでに在校生がいっぱいということでしょうか。／県外からの受験は学校推薦以外に選択肢はありませんか？／現在の在校生は県外出身者がどのくらいおられますか。／競争率は例年どのくらいですか。／内申の比重は高いですか？／入学させていただいた場合、保護者が学校に来る必要のある頻度はどのくらいでしょうか？／受験に関し、個別にご相談できる機会がありますか。／不登校生だと厳しいそうですね。／受験する前の入寮面接などがあれば、いつのタイミングになるのか教えてください。／作文の試験はありますか？／受験の要項が山口県から出るのはいつ頃の予定でしょうか？／オープンスクール以外に学校を訪問することはできますか。

図 18

生徒募集の取組状況について
「地域みらい留学」における取組状況 対面フェス

【高校進学フェスin 東京2025（対面）】
日 時 6月21日（土）10：00～17：00
6月22日（日） 9：30～15：00
会 場 東京流通センター 第一展示場
参加者 初 日：ブース23組49人、ブース前スペース7組 計30組
2 日目：ブース22組54人、ブース前スペース5組13人 計27組
2日間合計57組（出展校の接点数（2日間）約30組）
（昨年度接点数（2日間位）約30組）
（東京都24組、神奈川県4組、埼玉県1組、千葉県6組、静岡県1組、茨城県2組、愛知県2組、長野県1組、不明16組）

【高校進学フェスin 大阪2025（対面）】今回初めて参加
日 時 7月12日（土）10：00～17：00
7月13日（日） 9：30～15：00
会 場 OMMホール
参加者 初 日：ブース21組45人、ブース前スペース2組 3人 計23組
2 日目：ブース23組46人、ブース前スペース5組13人 計28組
2日間合計51組（出展校の接点数（2日間）20組でよい方（事務局）
（大阪府22組、京都府5組、奈良県3組、三重県1組、兵庫県12組、岡山県2組、山口県1組、島根県1組、香川県1組、愛媛県1組、不明2組）

※ 主な質問事項

<寮について>
寮には確実に入れるますか。／個室ですか。／寮での生活指導はどうなっていますか。／寮費はどれくらいですか。（補助はありますか）／人間関係は心配ないですか。（2、3年生との上下関係を含め）／土日はどのように過ごしていますか。（寮を出なければいけません）／生活に必要なものはどのように調達していますか。（お店やコンビニの有無）

<学校生活について>
人間関係はどんな感じですか。（県外から来た少数が輪に入りにくい）／先生方は一人ひとりをしっかり見てくれるか。／部活動は何が行われているか。（3～4名くらいはフラダンスが目的の方もいた）／土日はどのように過ごしていますか。

<「附属高校」について>
県立大学への進学の方法はどのようになっているか。（エスカレーター式）／1クラスは何人か。／地域に出て活動を行うこともあるのか。／県大進学プログラムは希望制か選抜制か。

<修学旅行について>
どこに行くのですか。費用はいくらくらいですか。

ウ オープンキャンパス

令和7年8月9日(土)、10月11日(土)に周防大島高校安下庄校舎においてオープンキャンパスを開催した。参加者は両日ともに昨年度のおよそ2倍に増加した。先の中学校訪問や地域みらい留学の取組の効果もあると考えられる。

図19 生徒募集の取組状況について
第1回オープンキャンパス



期日	令和7年8月9日(土)	教科	内容	
会場	山口県立周防大島高校 安下庄校舎 (大島郡周防大島町西安下庄489)	英語	最近のニュースを簡単な英語で読んでみましょう。	
日程	8:30~9:00 受付 9:00~9:20 全体説明 9:20~9:50 体験講座 9:50~10:00 移動・休憩 10:00~10:30 高校生による学校生活の紹介 (9:20~10:30 個別相談会(保護者)) 10:30~10:50 移動・休憩 10:50~11:30 部活動体験・見学(安下庄校舎) 11:10~11:50 硬式野球部体験・見学(久賀校舎) 海南里寮見学 -----ここから希望者のみ----- 11:50 あさなぎ寮見学者集合(生徒昇降口) 11:50~12:00 移動 12:00~12:30 寮見学	数学	高校数学の内容を、中学数学と結び付けて、学びます。数学を楽しく学びましょう!	
		フィールドワーク(調査・研究)	フィールドワークの取組を紹介します。「フィールドワークって何するの?」その質問にわかりやすくお答えします!	
		環境	身近な環境問題から地球環境問題について調査・学習する環境科学の授業について紹介します。	
		福祉	島高生と一緒に基本的な介護技術について、体験しながら学びましょう!	
		商業	タイピングなど、社会に出るために必要となる技能を体験してみませんか?	
		○今年度から実施 参加中学生を出身中学校、地域別にいくつかのグループに分け、高校生活の様子(勉強・部活動・寮生活など)を、高校生から直接聞ける座談会を実施。		
参加中学生人数	※()内は昨年度			
県東部	県中部	県西部	県外	合計
151人(74人)	12人(9人)	3人(3人)	24人(18人)	190人(104人)

図20 生徒募集の取組状況について
第2回オープンキャンパス



期日	令和7年10月11日(土)	年次	教科	科目名(クラス)	会場
会場	山口県立周防大島高校 安下庄校舎 (大島郡周防大島町西安下庄489)	1	数学	数学I(1A)	本館棟5階 1A教室
日程	10:00~10:20(20分) 全体説明 ・校長挨拶・学校説明 ※オンライン会議システムで実施 10:25~11:10(45分) 授業見学 10:25~10:50(25分) (保護者対象)出願手続の説明【希望者】 会場:特別教室棟3階視聴覚室 ※説明を聞いた後に、授業見学も可能 10:50~12:15(85分) (保護者対象)個別相談【事前申込者】 会場:特別教室棟3階視聴覚室 ※当日の面談希望は12:15以降に実施 11:10~11:15(5分) 諸連絡 11:15~11:35(20分) 移動・休憩 11:35~12:15(40分) 部活動体験・見学 硬式野球部以外(安下庄校舎) ※硬式野球部(久賀校舎) 13:00~15:00(120分) 昼食・休憩後、部活動体験 海南里寮見学を含む 12:35~13:05(30分) あさなぎ寮見学 ※希望者	1	国語	言語文化(1B)	本館棟5階 1B教室
		1	家庭	家庭基礎(1C)	福祉・家庭科棟 3階 被服教室
		1	英語	英語コミュニケーションI(1D)	本館棟5階 1D教室
		2	国語	古典探究(2A)	本館棟4階 2A教室
		2	数学	数学II(2B)	本館棟4階 2B教室
		2	数学	数学II(2C)	本館棟4階 2C教室
		2	社会	公共(2D)	本館棟4階 2D教室
		3	情報	情報活用(3A)	福祉・家庭科棟 2階 PC2教室
		3	地域創生	フィールドワークII(3BC)	本館棟3階 3B・3C教室他
		3	地域創生	環境科学II(3BC)	特別教室棟横 畑 (雨天の場合は特別教室棟2階生物教室)
		3	英語	英語コミュニケーションIIβ(3D)	本館棟3階 3D教室
参加中学生人数	※()内は昨年度				
県東部	県中部	県西部	県外	合計	
72人(41人)	7人(7人)	9人(2人)	22人(15人)	114*人(65人)	

*アンケート未回答者4名を含む

エ 生徒募集に向けた令和8年度以降の取組の方向性

OC（オープンキャンパス）参加者の大幅な増加等、附属高校への関心は高まっているため、附属高校通信など、OC参加者等へのダイレクト・メール送信によるきめ細かな情報提供を行ったり、実施要項や募集要項の発表等の節目で中学校に説明したりして、参加者の興味・関心を出願につなげる必要がある。

さらに、中学校が実施する進路説明会において、生徒・保護者に直接説明をした中学校からのOC参加者が多いことから、附属高校がより多くの中学校から進路説明会に招聘されるような取組が必要である。

その際、中学校は、生徒が希望している高校を進路説明会に招聘することから、現2年生の附属高校進路希望者を増やす必要がある。次年度進路説明会に招聘されるよう、現2年生への年度内の情報提供を充実させる必要がある。

OCでは生徒寮見学の人数が多かったことや、生徒・保護者の問い合わせ等から、生徒寮への関心が高いことがうかがえる。希望する生徒が入寮できるよう、寮の整備にも早急に取り組む必要がある。

6 定款変更の承認と附属高校の設置

附属高校の設置について定める県立大学の定款変更の申請が、令和7年12月8日、総務省及び文部科学省から認可されたことから、同日付けで、「山口県立大学附属周防大島高等学校」を設置した。

また、令和7年12月25日（木）には、久賀高校や周防大島高校で勤務の経験がある県立大学附属高校設置準備室長の竹村和之氏を校長として発令するとともに、設置式を山口県立周防大島高等学校において実施した。

□ 日 時 令和7年12月25日（木） 14:00～14:20

□ 場 所 山口県立周防大島高等学校玄関前

□ 式次第

- (1) 開式のことば
- (2) 校名札授与
- (3) 校名札設置
- (4) 理事長挨拶
- (5) 校長挨拶
- (6) 閉式のことば



（左から順に、山口県立周防大島高等学校安部豊校長、竹村和之校長、岡正朗理事長、田中マキ子学長）

Ⅲ 高大連携の推進強化について

高校生が大学の講義を経験するなどの高校と大学が連携して行う教育活動は、高校生の大学に対する興味や各種科目への探究心を引き出すなどの効果が期待できる。

本検討協議会においては、県立大学と密接につながる附属高校の設置について検討してきたところであるが、上記の趣旨から、高校と大学の連携に係る国の動向や県立大学の現在の取組を踏まえながら、附属高校以外の県内高校との連携のあり方について検討した。

1 高大連携に係る国の動向

(1) 一人一人の能力を伸ばすための連携（高大連携）について

「大学への早期入学及び高等学校・大学間の接続の改善に関する協議会報告書～一人一人の個性を伸ばす教育を目指して～（平成19年3月）」では、高校生の大学に対する興味や各種科目への探究心を引き出すなどの高校生の進学意識の向上を目指す高大連携とともに、一人一人の能力を伸ばすための連携という視点が示されている。

(参考) 協議会報告書概要

○一人一人の能力を伸ばすための高大連携

高等学校の多様化と選択の幅の拡大は更に進展しており、特定の分野について高い能力と強い意欲を持ち、大学レベルの教育研究に触れる機会を希望する生徒の増加が予想されることから、高等学校と大学との接続を柔軟に捉え、生徒一人一人の能力を伸ばすための、高等学校・大学双方が連携した教育のあり方を検討していく必要がある。

○高校生の大学における学修の単位認定

高等学校と大学が連携することにより、高校生の大学における学修を高等学校の単位として認定することや、大学が科目等履修生として高校生を受け入れること等、高校生が大学レベルの教育研究に触れることのできる各種取組については、今後、適切な形で、高校生一人一人の能力・適性に応じつつ、拡大を図っていくことが必要である。

○高大連携に係るネットワークの構築、研修の充実

高等学校教員と大学教員の相互理解を促進していくため、連携協議会の設置や大学コンソーシアム等を活用するなどして、高等学校教員と大学教員の交流・連携ネットワークを構築するとともに、高等学校教員を対象とした各種研修や、大学教員を対象としたFD（ファカルティ・ディベロップメント）のプログラムに、それぞれ大学教員・高等学校教員の参加を得ながら、最新の高大連携に関連した内容を取り入れることも必要である。

○高校生が大学レベルの教育研究に触れることができる取組の例

十分な能力・意欲のある高校生が大学レベルの教育研究に触れることができる取組として、次の取組が考えられる。また、高校生の大学等における学修を、

学校外における学修として高等学校の単位に認定することも可能となっている。

- ・科目等履修生として、大学の授業科目を受講すること（成果として大学の単位を取得することが可能。大学入学後、当該大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことも可能。）
- ・聴講生として、大学の授業科目を受講すること（単位の取得は不可）
- ・大学が実施する公開講座を受講すること
- ・大学の教員が（ポストク等の参加も得つつ）高等学校に出向き、いわゆる「出前講座」「土曜講座」等の講義や実験実習等を行うこと
- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）、サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）等の先進的な事業による、大学等と連携した取組を実施すること
- ・インターネットを活用し、大学から高校生に対して講義を配信すること

○大学の初年次教育で実施する科目の活用

大学の科目等履修生は、大学における正規の授業科目のうち特定のものを履修する仕組みであるが、あくまで大学の授業科目は、大学生としての4年間の学習を念頭に置き体系的に編成されているものであり、高校生に一部の授業科目を科目等履修生として受講させる際には、例えば、大学の初年次教育の一環として行われている基礎的な授業科目を履修の核とすること等が考えられる。

○連携取組を行う上での配慮

連携取組の実施に際しては、高校生の履修の実態に配慮することが必要であり、学校外学修等として実施するほか、夏季等の休業期間中や土曜日等に集中講義の形態で実施する等、各大学・高等学校は、高校生が履修しやすいような工夫を行うことが重要である。

○インターネットの活用

高等学校の周辺に大学が存在せず距離的に離れて立地しているような場合、生徒が移動することが困難なため、可能な連携取組にも制約が出てくる。インターネットの活用等により、距離的な問題は一部解消できる。

○単位認定に際しての科目等履修生や履修証明書等の発行等の制度の活用

大学の単位は、高等教育機関として正規に提供される授業科目の学修の成果として与えられるものであり、制度上、高校生に対して大学の単位を与えることができるのは、高校生を科目等履修生として受け入れているときに限られることに留意する必要がある。もとより、科目等履修生として単位を付与する以外にも、大学は高校生に対し、学修成果として任意の「履修証明」等を発行することは可能であり、これらの活用も考えられる。

(2) 高大接続改革

文部科学省では、近年、高校教育、大学教育、入学者選抜について、一体的に改革を進め、「学力の3要素」を確実に育成していこうとする高大接続改革を推進している。

<高等学校教育改革>

- ・学習指導要領の抜本的な見直しや学習・指導方法「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の改善など

<大学入学者選抜改革>

- ・大学入学共通テストの導入、受検者を多面的・総合的に評価するための個別大学における入学者選抜改革など

<大学教育改革>

- ・「三つの方針」に基づく大学教育の質的転換、認証評価制度の改善

(3) 大学入学者選抜を含む高大接続改革の推進

中央教育審議会初等中等教育分科会の、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会に設置された「これからの高等学校の在り方を検討する高等学校教育の在り方ワーキンググループ」では、これからの高等学校教育の在り方を検討し、高等学校において「令和の日本型学校教育」を構築する具体的方策等について、「審議まとめ」を取りまとめた。

この中で、大学入学者選抜を含む高大接続改革の推進について、次のとおり整理している。

(参考) 高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ(令和7年2月12日) 抜粋

- 大学入学者選抜において、入学志願者の思考力・判断力・表現力等を適切に評価するなど、学力の3要素の多面的・総合的な評価への速やかな改善を促すため、国において必要な取組を進めるべきである。大学・学部のアドミッション・ポリシーに基づき、入学後の学修に必要な能力・適性等をできるだけ正確に判定することができるよう、大学入学者選抜の在り方を適切に見直す必要があることについて国から大学に対して効果的に促すことが求められる。その際、文理横断的な学びを進める観点から、高等学校段階における取組と併せて、アドミッション・ポリシーを踏まえて、人文・社会科学系における理系科目や、自然科学系における文系科目の設定といった、大学入学者選抜における出題科目の見直し等も促進する必要がある。

また、高等学校までの探究学習や学校内外で意欲的に取り組んだ活動等により得られた学習成果を各大学の個別入試の評価に活用することを促進するとともに、高等学校段階からの大学の教育課程の先取り履修、当該先取り履修の大学入学後の単位認定、大学と連携した探究活動など、高等学校教育と大学教育の連携を推進していくことも重要である。

- さらに、こうした取組等も踏まえ、大学と高等学校との架け橋となる大学入学者選抜を含む高大接続改革に関して、これからの時代に求められる在り方について、大学・高等学校の関係者を含めた議論を進めていくことが重要である。

2 県立大学の現在の取組の状況

各大学のより積極的な教育内容等の改善に関する取組を促すため、文部科学省では、大学における教育内容・方法の改善等の実施状況について、具体的な事例を示しながら、定期的な調査を実施している。

国が示す具体的な取組事例についての県立大学の取組状況は下表のとおりである。

県立大学は、国が示す取組の多くを既に実施しており、未実施の取組についても、附属高校の開校後は、同校との連携により実施することとなる。

■ 高校生が大学教育に触れる機会の提供

表 1	令和4年度	国立	公立	私立	計		本学の状況	
					大学数	実施割合	R4実施の有無	その後の対応
①	大学教員が高校に出向き定期的に行う講義または授業	42	29	265	336	43.0%	×	附属高校で実施予定
②	大学教員が高校に出向き行う講演等	80	75	488	643	82.3%	○	(継続実施)
③	大学において行う、高校生を対象とした、大学教員による講演等	64	43	307	414	53.0%	○	(継続実施)
④	高校生を対象とした、公開講座の開催	57	28	145	230	29.4%	○	(継続実施)
⑤	高校生を対象とした、大学の通常授業の履修	32	13	133	178	22.8%	×	附属高校で実施予定
⑥	高校生を対象とした、体験授業の開催	71	55	406	532	68.1%	○	(継続実施)
⑦	オープンキャンパス等	83	93	560	736	94.2%	○	(継続実施)
⑧	大学コンソーシアム等での取組	21	7	51	79	10.1%	×	一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアムを設置(R4, 12)

■ 高校関係者との意見交換会等の実施

表 2	令和4年度	国立	公立	私立	計		本学の状況	
					大学数	実施割合	R4実施の有無	その後の対応
①	高等学校との意見交換会等	71	73	479	623	79.8%	○	(継続実施)
②	高等学校の授業見学	12	9	82	103	13.2%	×	附属高校で実施予定
③	高等学校の学習内容や履修状況の把握	30	17	125	172	22.0%	×	附属高校で実施予定
④	高等学校教員への研修機会の提供	23	17	143	183	23.4%	○	(継続実施)
⑤	高等学校と連携した教材の作成	7	1	22	30	3.8%	×	附属高校で実施予定
⑥	高等学校と大学が連携した教育プログラム	27	8	154	189	24.2%	×	附属高校で実施予定

(1) 高大連携事業の一覧の配布による取組の推進

県立大学では、高大連携の取組として、大学を会場として実施する「オープンキャンパス」、「大学見学」、「高大接続講座」、高校で実施する「出前講義」、「高校訪問」、「高校訪問進路説明会」等を実施している。

これらの取組の実施に当たり、これまでは、それぞれの取組ごとに、随時、高校に周知していたが、高校が県立大学の取組を理解し、計画的に実施することができるよう、令和6年度に初めて、県立大学が提供できる高大連携のメニューをワンス

トップ化した次の資料を作成し、県内すべての高校に示している。

特に、出前講義・模擬授業の講師の検討に当たっては、県立大学の教員の研究分野等について、高校の教員に周知する必要があることから、「研究者データベース」「山口を元気にする山口県立大学の達人たち」等の情報も提供している。

図 21 県立大学が実施する「高大連携の取組」の現状

～高大連携事業一覧（令和6年度）～

<div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <h4 style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">オープンキャンパス</h4> <p style="font-size: small;">昨年度実績：7月(1,000人) 8月(1,356人)</p> <p>学科紹介、模擬講義、学科企画、個別相談、実習室等見学、保護者のための学長カフェ、入試説明会、施設見学、サークル紹介等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■7月オープンキャンパス 2024年7月13日(土) 13:00~16:55 ■8月オープンキャンパス 2024年8月 4日(日) 13:00~16:55 ■WEBオープンキャンパス 動画コンテンツ等で本学を紹介しています。 </div> <div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <h4 style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">大学見学</h4> <p style="font-size: small;">昨年度実績：15件(11校)</p> <p>Menu</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大学で学ぶ意味 ◆県立大学概要紹介 ◆模擬講義 ◆施設見学 など ■随時 <p>大学の空気感を感じながら、大学の学びを体験できます。</p> <p>※メニューは、ご要望を踏まえ、柔軟に対応します。</p> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">完全移転した新キャンパスにぜひお越しください</p> </div> <div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px;"> <h4 style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">高大接続講座</h4> <p style="font-size: small;">昨年度実績：5学科 108人（情報社会学科は今年度から）</p> <table style="width: 100%; font-size: x-small;"> <tr> <td style="width: 50%;"> 国際文化学科 7月13日(土) 9:30~ Do You Know Any Color Idioms in English? 文化創造学科 7月13日(土) 10:00~ 「英検」体験から考える図書館のミライ 生かされるものは何か? 情報社会学科 7月13日(土) 10:00~ ヒトとAIの未来のシナリオ 社会福祉学科 6月21日(金) 18:30~ はーと福祉講座 社会福祉学科 7月26日(金) 18:30~ はーとボランティア講座 </td> <td style="width: 50%;"> 看護学科 8月4日(日) 9:00~ 『ホントの看護』を伝える講座 栄養学科 7月13日(土) 9:30~ 課外活動・ゼミ体験 「食」を通して栄養学を学ぼう 総合型選抜・学校推薦型選抜に限らず、本学への受験をお考えの生徒さんにお勧めください。 </td> </tr> </table> </div>	国際文化学科 7月13日(土) 9:30~ Do You Know Any Color Idioms in English? 文化創造学科 7月13日(土) 10:00~ 「英検」体験から考える図書館のミライ 生かされるものは何か? 情報社会学科 7月13日(土) 10:00~ ヒトとAIの未来のシナリオ 社会福祉学科 6月21日(金) 18:30~ はーと福祉講座 社会福祉学科 7月26日(金) 18:30~ はーとボランティア講座	看護学科 8月4日(日) 9:00~ 『ホントの看護』を伝える講座 栄養学科 7月13日(土) 9:30~ 課外活動・ゼミ体験 「食」を通して栄養学を学ぼう 総合型選抜・学校推薦型選抜に限らず、本学への受験をお考えの生徒さんにお勧めください。	<div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <h4 style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">高校訪問</h4> <p style="font-size: small;">昨年度実績：8~9月43校 12月10校</p> <p>本学の概要・入試等についての情報交換（進路指導担当者 ←→ 副学長） 今年度は、県内全ての高校を訪問します。（■6月~） ※12月はフォローアップ訪問（学校推薦型選抜終了後、該当高校）</p> </div> <div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <h4 style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">高校訪問進路説明会</h4> <p style="font-size: small;">昨年度実績：15校</p> <p>本学の概要・入試等について、生徒・保護者への説明 ■随時</p> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">情報社会学科を新設します。遠慮なく、ご連絡ください</p> </div> <div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <h4 style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">出前講義</h4> <p style="font-size: small;">昨年度実績：22校(16校)</p> <p>大学の講義を高校で体験 ■随時 ※講師派遣に係る費用の負担は不要です。</p> <p style="text-align: center;">出前講義・模擬授業の講師の検討に こちらをご活用ください。</p> <p style="text-align: center;">「やまぐちを元気にする山口県立大学の達人たち」 「研究者データベース」</p> <p style="font-size: x-small;">登録研究者数88人（R6現在） ○本学の学科に関わる分野や次の分野の講義が可能です。 【設置学科】国際文化・文化創造・情報社会・社会福祉・看護・栄養 【関連分野】地域づくり・まちづくり・地域文化・国際理解 健康づくり・子育て・教育・地域福祉・環境・その他 ○新設「情報社会学科」に関する情報は、新たに開設するサイト（6月中旬予定）でご確認ください。</p> </div> <div style="border: 1px solid #e91e63; padding: 5px;"> <h4 style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">お申込み（大学見学・出前講義・高校訪問進路説明会）</h4> <p style="font-size: x-small;">MAIL：nyushi@yp4.yamaguchi-pu.ac.jp 申し込み場所は FAX：083-929-6515</p> </div>
国際文化学科 7月13日(土) 9:30~ Do You Know Any Color Idioms in English? 文化創造学科 7月13日(土) 10:00~ 「英検」体験から考える図書館のミライ 生かされるものは何か? 情報社会学科 7月13日(土) 10:00~ ヒトとAIの未来のシナリオ 社会福祉学科 6月21日(金) 18:30~ はーと福祉講座 社会福祉学科 7月26日(金) 18:30~ はーとボランティア講座	看護学科 8月4日(日) 9:00~ 『ホントの看護』を伝える講座 栄養学科 7月13日(土) 9:30~ 課外活動・ゼミ体験 「食」を通して栄養学を学ぼう 総合型選抜・学校推薦型選抜に限らず、本学への受験をお考えの生徒さんにお勧めください。		

(2) DXハイスクールと連携した取組

文部科学省は、高校等におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の充実を図るため、令和6年度から「高等学校DX加速化推進事業」を実施し、当該年度には、山口県内では、14校がDXハイスクールとして上記事業に採択されている。

県立大学においては県内で不足している文系DX人材を育成する「情報社会学科」を令和7年度に設置した。この「情報社会学科」の周知を図り、高校と大学が一体となって文系DX人材を育成するため、県内のDXハイスクールと、積極的に連携することとし、県立大学が提供できるDXに係る出前授業や教員研修の一覧を作成して配布している。

特に、県立大学の強みは、今後、様々な分野で求められるDXに、全学科で取り組んでいる点であることから、一覧の作成に当たっては、表3に示すように、情報関連の授業だけでなく、高校の様々な教科の授業等で、県立大学が有する知見を活用できるような情報を掲載している。

DXハイスクール指定校への講師派遣は、令和6年度9件から、令和7年度は20件へと増加した。特に、周防大島高校での講義の様子は、オンラインによる公開授業として他校の教員に向けて配信を行い（表4を参照）、各回7~8名の参加者があった。

表3 令和7年度 DXハイスクール対象 高校生向け授業・教員向け研修テーマ一覧（令和7年6月現在）

山口県立大学

～DXど真ん中ストレート（「総合的な探究の時間」や「情報」の授業で）～

	テーマ	対象		講師 (研究分野)
		生徒	教員	
1	デジつよ文系になろう！ ～文系分野で求められるDX人材（新設「情報社会学科」の概要）～	○	○	新設「情報社会学科」教員
2	AIの社会実装の留意点 ～AIによる誤った判断を実例を通じて学ぶ～	○	○	国際文化学部情報社会学科 准教授 吉永敦征 (情報倫理)
3	Fake Newsとの向き合い方 ～情報の信頼性について～	○	○	
4	陰謀論にハマる背景 ～集団極性化やフィルターバブルについて～	○	○	
5	情報倫理の対象領域 ～情報倫理と似て非なるものとの差異について～		○	
6	フリーソフトウェアの思想と教育現場への導入の必要性		○	
7	動物感染症災害対策体験 ～GISツールを用いて動物感染症発生時の状況把握から対策検討までを学ぶ～	○		
8	シミュレーションに触れながら学ぶ意思決定 ～医療関連の題材を例にシミュレーションの実行とその結果の解釈について学ぶ～	○		国際文化学部情報社会学科 准教授 阿部真育 (土木計画法、医療社会学、経営学)
9	身近なデータを可視化する ～BIツールの使い方～	○	○	
10	AIの社会実装体験 ～Raspberry PiやオープンAIシステム等の技術を例に、 持続可能なサービスにどのようにつなげるかを経営学的視点から学ぶ～	○	○	国際文化学部情報社会学科 教授 井宇富雄 (政治学・政治史)
11	フェイクニュースの歴史と現在	○	○	
12	情報との付き合いかたを生徒にどう伝えるか		○	
13	デジタル工作機器を活用したデザインについて	○		国際文化学部文化創造学科 教授 山口 光 (プロダクトデザイン、地域産業デザイン)

様々な分野で求められるDX～各教科の授業などで～

	テーマ	対象		講師 (研究分野)
		生徒	教員	
14	生成AIを活用した外国語学習	○	○	国際文化学部国際文化学科 教授 岩中貞裕 (第二言語習得・動機づけ)
15	環境問題における情報とは	○		国際文化学部情報社会学科 准教授 今村主税 (環境教育、地球温暖化対策、 食品廃棄物)
16	地球温暖化や食品ロス対策のAI活用	○	○	
17	エシカル消費と情報 ※エシカル消費は、エコラベルやフェアトレード、地産地消など環境、社会、人権などに配慮した消費活動です。 参考：山口県のエシカル消費 (https://www.prof.yamaguchi.ig.jp/zoshiki/35/14879.html)	○	○	
18	環境問題における情報の役割		○	
19	消費における情報の役割		○	
20	クロス集計データの活用方法 ～地域づくり計画策定における住民意識調査の活用事例を題材として～	○	○	
21	自由記述データを用いたテキストマイニング分析 ※テキストマイニングとは、言葉や単語のつながり等を統計的に分析する方法のことです。	○	○	社会福祉学部社会福祉学科 教授 石田賢哉 (社会福祉調査、精神保健福祉)
22	主観的データの統計的分析方法について ～意識調査・福祉ニーズ調査・サービス利用満足度調査を通して～	○	○	
23	保健統計から身近な地域の健康課題を考える	○		看護栄養学部看護学科 准教授 横田 恵 (地域保健、公衆衛生看護)
24	食事調査法の解説と得られたデータ（栄養素摂取量等）を用いた統計解析	○		看護栄養学部栄養学科 講師 兼安真弓 (公衆栄養学)

表4 令和7年度DXハイスクール出張授業実施状況

※網掛けは、オンライン公開授業

	高校名	開催日	学科	講師	テーマ
1	山口県立山口中央高等学校	2025年8月5日（火）	社会福祉	坂本 俊彦	クロス集計データの活用方法
2	野田学園高等学校	2025年8月26日（火）	情報社会	今村 主税	地球温暖化や食品ロス対策のAI活用
3	山口県立下関中等教育学校	2025年8月29日（金）	情報社会	井竿 富雄	フェイクニュースの歴史と現在
4	野田学園高等学校	2025年10月2日（木）	情報社会	吉永 敦征	陰謀論にハマる背景～集団極化やフィルターバブルについて～
5	野田学園高等学校	2025年10月6日（月）	情報社会	吉永 敦征	陰謀論にハマる背景～集団極化やフィルターバブルについて～
6	野田学園高等学校	2025年10月8日（水）	情報社会	今村 主税	地球温暖化や食品ロス対策のAI活用
7	山口県立周防大島高等学校	2025年10月23日（木）	看護	横田 恵	保健統計から身近な地域の健康課題を考える
8	山口県立周防大島高等学校	2025年11月4日（火）	国際文化	岩中 貴裕	生成AIを活用した外国語学習
9	山口県立周防大島高等学校	2025年11月6日（木）	情報社会	阿部 真育	AIの社会実装体験
10	山口県立山口中央高等学校	2025年11月26日（水）	社会福祉	石田 賢哉	自由記述データを用いたテキストマイニング分析
11	山口県立周防大島高等学校	2025年11月26日（水）	情報社会	吉永 敦征	陰謀論にハマる背景
12	山口県立周防大島高等学校	2025年11月26日（水）	情報社会	吉永 敦征	AIの社会実装の留意点
13	山口中村学園高等学校高等看護専攻科	2025年11月27日（木）	情報社会	阿部 真育	情報社会と情報技術の活用保健・医療（看護）・福祉のDX化
14	山口県立周防大島高等学校	2025年12月11日（木）	看護	横田 恵	保健統計から身近な地域の健康課題を考える
15	山口県立周防大島高等学校	2025年12月18日（木）	情報社会	今村 主税	環境問題における情報とは
16	山口県立周防大島高等学校	2025年12月19日（金）	情報社会	井竿 富雄	デジつよ文系になろう！
17	山口県立周防大島高等学校	2025年12月19日（金）	情報社会	吉永 敦征	Fake News との向き合い方
18	山口県立周防大島高等学校	2025年12月19日（金）	情報社会	吉永 敦征	Fake News との向き合い方
19	山口県立周防大島高等学校	2025年12月19日（金）	情報社会	井竿 富雄	フェイクニュースの歴史と現在
20	山口県立周防大島高等学校	2025年12月22日（月）	情報社会	今村 主税	食品ロス対策のAI活用
21	山口県立周防大島高等学校	2025年12月22日（月）	情報社会	今村 主税	食品ロス対策のAI活用

（3）出前講義・大学見学の実施状況

次の資料は、出前講義や大学見学の状況について、令和6年度の取組実績や取組の内容、受講者の感想を示したものである。

出前講義については、令和5年度の22件から令和6年度は60件と急増している。大学見学については、令和6年度は16件であった（図22）なお、令和7年度は出前講義44件、大学見学は9件に留まっている。

大学見学は、移動手段の予算措置等が必要であり、前年度から計画される場合も多いことから、高校に周知する時期を例年の5月末から早めることが必要である。

図 22 出前講義・大学見学の状況①

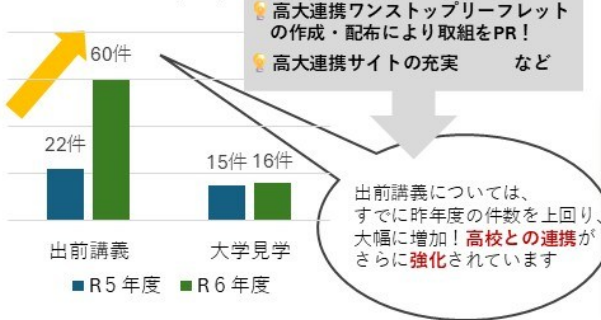
概要

本学では高校生が学問への関心を高め、大学での学びを具体的にイメージすることで、進学への意欲を育むことを目指して「大学見学」と「出前講義」を実施している。

令和6年度実績

	R5年度	R6年度
出前講義 (DXハイスクールを含む)	22件	60件
大学見学	15件	16件

前年度との比較 (件数)



取組の紹介

出前講義

- ・大学の講義を高校で体験できる絶好の機会
- ・講師派遣に係る費用の負担は一切なし

《参考》各学科の内訳

学科	件数
国際文化	20 (※)
文化創造	4
社会福祉	6
看護	13
栄養	5
DXハイスクール	9
その他	3

※国際文化学科の件数は情報社会学科を含む



図 23 出前講義・大学見学の状況②

学科	今年度実施した出前講座タイトル (一部抜粋)
国際文化	<ul style="list-style-type: none"> ▶ English Pronunciation: Is Katakana your friend? ▶ 英語の文法学習から見えることばのしくみ ▶ 経済の国際化とは・世界の貧困問題を経済学で考える ▶ 考え方の偏りをインターネットから学ぶ
文化創造	<ul style="list-style-type: none"> ▶ モノづくりとデザインの関係について ▶ 教室のなかの文化 ▶ 高等学校の「探究学習」から「やまぐち未来デザインプロジェクト」へ
社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会福祉ってなに？ ▶ ～相談支援専門職ソーシャルワーカーのお仕事～ ▶ 障害とは何か ▶ 人はいつから相手の気持ちがわかるのか：「心の理論」を学ぶ
看護	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 看護師が行うフィジカルアセスメント ▶ ～聴診器を用いてからだの音を聞いてみよう～ ▶ 大学で「看護学」を学ぶということ ▶ 地域看護について
栄養	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高校生の食育 一人暮らしで自分の食事が整えられるように ▶ 栄養で支える質のよい眠り ▶ 「健康と食生活」
DXハイスクール	<ul style="list-style-type: none"> ▶ AIの社会実装の留意点 ▶ ～AIの誤まった判断を実例を通じて学ぶ～ ▶ 身近なデータを可視化する～BIツールの使い方～ ▶ 地球温暖化や食品ロス対策のAI活用

今まで感じなかった英語の楽しさや面白さに気づくことができた。第一志望の学部は経済だったが、今回の講義を踏まえて改めて志望する学部について考えてみようと思った。

情報は理系だと思っていたので、文系でもいけるということにびっくりしました！

出前講義を通して、自分の中でますます大学に行きたい気持ちや夢を実現させたい気持ちが強くなったので、たくさん勉強して大学に行き、夢を叶えられるように頑張りたい。

高校の授業と違い、大学の講義は物事の本質を深掘していくところがポイントだと感じた。半年後には進路を確定していないといけないので、今からしっかり考えておきたい。



山口県立大学で学べる看護や、いろいろな看護についてのことを知ることができて良かったです。

受講者の声

出前講義については、本学の特色を生かした多様な講義が行われており、受講者の声にもあるように、高校生の進路意識の向上の成果がうかがえる。

大学見学については、大学の概要説明、選抜方法の説明、模擬授業などを行っている。図 24～26 には、模擬授業や図書館見学など、県立大学が提供できるメニューの多くを活用して実施した高校の例を示しているが、実施スケジュールについては、各高校の希望を踏まえ柔軟に対応している。

図 24 出前講義・大学見学の状況③



大学見学

大学の空気感を肌で感じながら、大学の学びを実体験できる

大学見学
レポート

Memo
 大学で学ぶ意味
 県立大学概要紹介
 模擬講義
 施設見学 など

山口中央高校2年生が参加した大学見学の様子を紹介

時間	内容
13:00～13:50 (50分)	大学概要説明・入試制度説明
13:50～14:05 (15分)	休憩・移動
14:05～14:35 (30分)	図書館見学
14:35～14:45 (10分)	休憩・移動
14:45～15:15 (30分)	模擬講義① (文化創造学科又は看護学科から選択)
15:15～15:25 (10分)	休憩・移動
15:25～15:55 (30分)	模擬講義② (社会福祉学科又は栄養学科から選択)
15:55～16:00 (5分)	諸連絡等

大学概要説明

～未来を見据えた学びの第一歩～

まずは、概要説明からスタート。大学に行く意味や、県立大学の各学科の特徴、そして、どんな学びができるのかについて、高校教員出身の職員がわかりやすく紹介しました。

その時の様子がこちら！皆さん真剣に説明を聞き入っていました。



自分に合った選抜方法を見つけよう

続いては、入試制度の説明。本学では、一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜を実施しています。

それぞれに特徴があり、自分に合った選抜方法を選ぶことができるよう、各選抜方法についての説明、入試問題のサンプルの紹介などを行いました。

図 25 出前講義・大学見学の状況④



図書館見学～知の宝庫を探訪～

次は、山口県立大学自慢の図書館見学です。本学の図書館には自習やグループ学習に対応した開放的な学習空間「ラーニングコモンズ」が設置されており、充実した学習環境が整っています。高校の図書館とは違い大規模な大学の図書館に、生徒の皆さんは興味津々の様子でした。

ちなみに、山口県立大学の図書館に所蔵されている本の数は、約16万冊！この数の多さに驚きの声が上がっていました。



実際の講義のように進行し、生徒の皆さんも真剣な表情で講師の話に耳を傾けていました。その時の様子を、学科ごとにレポートします。

文化創造学科

地域の文化や資源を活かしたデザインの可能性を学びました。実例を通して、地域の魅力をどのように引き出し、どのように地域振興に貢献できるかを考えました。



↑ 実際に作品にも触れる機会もありました

看護学科

聴診器を使って身体の音を聴き、看護師が患者の状態を評価するためのフィジカルアセスメントを体験。医療現場のリアルな看護を学びました。



一聴診器を使って身体の音を聞いています

大学の授業を実際に体験！

最後のプログラムは、大学の講義を体験できる模擬講義です。今回は文化創造学科、看護学科、社会福祉学科、栄養学科の中から、興味のある学科を選んで受講しました。

学科	テーマ
文化創造	地域文化の創造とデザイン
看護	看護師が行うフィジカルアセスメント ～聴診器を用いてからだの音を聞いてみよう～
社会福祉	障害とは何か
栄養	食育について知ろう

社会福祉学科

「障害」という概念が社会的にどのように変わってきたか、その歴史を振り返りながら、現在の「障害」の捉え方について深く考察しました。



栄養学科

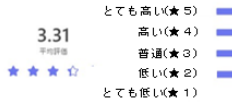
健康的な食生活を支える「食育」の重要性と現状、さらにそれを実践する管理栄養士の役割について学びました。



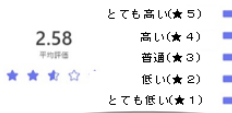
大学見学を通じた本学志望度の向上

大学見学前の平均志望度は2.58、見学後は3.31に上昇。特に志望度が高い層の増加が顕著で、見学の効果が確認されています。

大学見学後の本学の志望度



大学見学前の本学の志望度



活動内容がとても詳しく分かったため、受験してみたいと思った

オープンキャンパスで県大を見学してから気になっていたので、詳しく知ることが出来てよかった

山口県立大学のことをたくさん知れて以前よりも県大に興味を持てた

大学見学を通してこれからの進路について考えることができた。興味があった学科についてよく知ることができて良かった

大学見学を通してこれからの進路について考えることができた。興味があった学科についてよく知ることができて良かった

施設もきれいでまた行きたいなと思った

参加者の声

高等学校に大学教員が出向いて行う出前講義等は、県立大学への進路希望の有無にかかわらず、高校生が大学の学びに直接触れ、進路意識を高めるのに大きな効果があるが、実際に県立大学を訪問して、充実した環境の中で大学の学びに触れる大学見学では、アンケート調査にもみられるよう、実施前と後で、本学への志望度が飛躍的に伸びており、さらに大きな効果が期待できる。

(4) 高大接続事業

県立大学での高大接続事業として「高大接続講座」を6月に開催しており、高校生や保護者、教員にとって県立大学の専門教育を知るよい機会である。令和7年度は、多くの学科で定員を超える参加者があったが、情報社会学科では、今後どうやって参加者数を増やしていくとよいかという課題が残った。

高大接続事業

- ★国際文化学科 24/20 (参加者数/定員)
 - ・もう忘れない！記憶のメカニズム&ゲーミフィケーションで英単語学習
- ★文化創造学科 30/25
 - ・「くずし字」を読んでみよう
- ★情報社会学科 17/40
 - ・SNSの不思議！なぜ好きなものが変わるの？
- ★社会福祉学科 53/40
 - ・ふだんのくらしのしあわ(幸)せを支える福祉講座
- ★看護学科 56/50
 - ・『ホントの看護』を考える講座
- ★栄養学科 34/30
 - ・県大生といっしょに課外活動・ゼミ体験！「食」を通して栄養学を考えよう

課題：今後、参加者をどうやって増やしていくとよいか。

(5) 県内高校の訪問

県立大学では、令和7年度入学者選抜から総合型選抜を導入することや、新たに情報社会学科を設置することから、令和6・7年度には、県内高校の県立大学への要望等を把握するとともに、Face to Face による信頼される県立大学に向けて、副学長を中心に、教職員が県内すべての高校を訪問し、各高校の校長等と意見交換を行った。各年度ともに69校を訪問し、訪問にかかった日数は、年間延べ30日に及んだ。

訪問を通して、県内高校の県立大学へのニーズ等を把握することができ、非常に有効であった。その際の意見交換の概要については、経営戦略本部会議や教育研究評議会において紹介し、学内で共有している。

県立大学においては、令和7年度入学者選抜において新たに導入した国際文化学部や社会福祉学部の総合型選抜の実施状況や、今後、導入する看護・栄養学部への総合型選抜の周知、とりわけ、情報社会学科については、県内で求められている文系DX人材の育成に向けて、より一層高校への周知を図る必要があることから、令和7年度の設置後も引き続き情報を提供するなど、高校訪問を通じた高校との連携に、より一層力を入れていく必要がある。

また、総合型選抜・学校推薦型選抜実施後に、本学を受験した生徒が在籍している高校を訪問するフォローアップ高校訪問では、令和7年度は県内21校、県外65校を訪れ、高校側へのヒアリングを行っている。

本学の概要や入試等について、高校へ出向いて行われる進路説明会の実施は、令和6年度は23校、令和7年度は37校であった。

(6) その他の高大連携事業・高校支援

このほかにも、高校生が大学の学びに触れる機会の創出のため、県立大学では以下のような取組を実施している。

- 高校生が「総合的な探究の時間」に取り組んだ探究活動の報告会において、研究者の視点からの指導・助言（研究の方向性・データ収集・分析方法など）、講評
- 高校生の大学研究室訪問の受け入れと高校卒業論文作成への助言
- 県立大学の看護学科学生が高校生に看護学や看護職の仕事について解説する講座を課外活動で実施
- 高校の文化祭へ出展（県立大学説明ブースの設置）
- 探究学習交流（高校生の課題研究を支援）

(7) 山口県高等学校長協会と山口県立大学との大学入試等研究協議会

県立大学と山口県高等学校長協会は、入学者選抜についての説明や、県内高等学校から山口県立大学への要望、県立大学から県内高等学校への要望及びそれぞれの質問と回答など、意見交換をする大学入試等研究協議会を年に1回設けており、双方の意思疎通を図る貴重な機会となっている。

（構成）○山口県高等学校長協会

校長会役員（会長・副会長、監事、各支部長）

○山口県立大学

理事長、学長、事務局長、副学長（入試・高大連携副本部長、教育・学生支援副本部長、研究・地域連携副本部長）、将来構想推進局長、学生部長、学部長（国際文化学部長、社会福祉学部長、看護栄養学部長）、学長補佐（キャリア教育担当（キャリアサポートセンター長）、入試・高大連携担当）

(8) 高校の学校運営協議会への県立大学教員の参画

現在、県内の県立学校は、地域や保護者の意見を踏まえた学校運営や、地域の方による学校支援、生徒による地域貢献を行うコミュニティ・スクールになっており、保護者や地域の方を委員とする「学校運営協議会」を設置している。

多くの県立大学の教員が、学校運営協議会の委員として、県立学校の学校運営に関わっている（右表）。高校の学校運営協議会に県立大学の教員が委員として参画することにより、より強い連携が期待できることから、県立大学の教員の情報を県内高校に提供することも考えられる。

【県内高校の学校運営協議会委員になっている県立大学の教員】

《令和6年度》

華陵高校	国際文化学部	岩中 貴裕先生
新南陽高校	副学長	丹 佳子先生
防府高校	副学長	吉村 耕一先生
防府西高校	国際文化学部	井竿 富雄先生
防府商工高校	副学長	吉村 耕一先生
山口高校	国際文化学部	岩中 貴裕先生
山口中央高校	社会福祉学部	大石由起子先生
厚狭高校	看護栄養学部	園田 純子先生
豊浦高校	看護栄養学部	曾根 文夫先生
下関中等教育学校	国際文化学部	ウィルソン・エイミー先生
山口総合支援学校	社会福祉学部	藤田 久美先生

(9) 連携協定校との高大連携の取組

県立大学は、次の3校と連携協定を結び、高大連携に取り組んでいる。

【野田学園高等学校(平成19年度～)】

- (1) 大学による公開講座及び出前講義の実施
- (2) 高校による大学の学生の教育実習等への協力
- (3) 高校による大学の補習授業への支援
- (4) 大学祭、学園祭、課外活動などにおける交流活動の実施
- (5) その他高大連携事業の目的を達成するために必要と認められる事業

【華陵高等学校(平成24年度～)】

- (1) 外国語教育に係る高大接続のあり方に関する調査研究
- (2) 大学教員、高校教員による双方向講義の実施
- (3) 大学での高校生講座等への高校生徒の参加
- (4) 高校での大学生の模擬授業等の実施
- (5) その他高大連携事業の目的を達成するために必要と認められる事業

【宇部高等学校(平成26年度～)】

- (1) 大学から高校への講師派遣
- (2) 大学の授業への高校の生徒の受け入れ
- (3) 大学による各種講座への高校の生徒の受け入れ
- (4) 大学の学生の教育実習などへの高校の支援
- (5) 大学が実施する課外活動などにおける交流活動の実施
- (6) その他、大学と高校の協議の結果に基づく事業

本検討協議会では、これまで報告した県立大学の高大連携に係る取組のほかに、山口県が実施する高大連携の取組（「やまぐち高大パートナーシップ強化事業」）として、高等学校と県内大学が連携して授業を企画・実施する「高大パートナーシップ授業」や、県内大学の学部等の学問や研究について理解を深める「県内大学集合型オンライン授業」、県内大学等との連携内容を共有しながら新たな学びを創出する「新たな学び創出コンペティション」について報告された。

3 山口県立大学の入学者選抜

大学入学者選抜は、大学教育と高校教育をつなぎ、そのあり方は、大学教育と高校教育に大きな影響を与える。このため、国においては、大学教育、高校教育、入学者選抜について、一体的に改革を進める高大接続改革を推進している。

こうしたことから、本検討協議会では、県立大学の入学者選抜の状況について、確認・整理した。

(1) 各学科の選抜の内容

近年の大学入学者選抜では、学力を重視する「一般選抜」に加えて、学力だけでなく、小論文や面接などにより、高校での経験や成績を重視する「学校推薦型選抜」や、学部・学科への適性や学ぶ意欲を、時間をかけて丁寧に評価する「総合型選抜」が行われている（図 27）。近年では、この「学校推薦型選抜」や「総合型選抜」を導入する大学や入学枠を拡大する大学が全国的に増えてきている。

県立大学においても、令和7年度に総合型選抜を国際文化学部や社会福祉学部を導入したところであり、令和9年度には、看護栄養学部を導入する予定である。

また、山口県が設置する大学として、県内で活躍する人材を育成するという観点から、「学校推薦型選抜」の中に、「県内高校枠」を設けている。

県立大学の入試の仕組み①（総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜）

図 27

■ 各学科の選抜の内容（令和7年度入学者選抜）

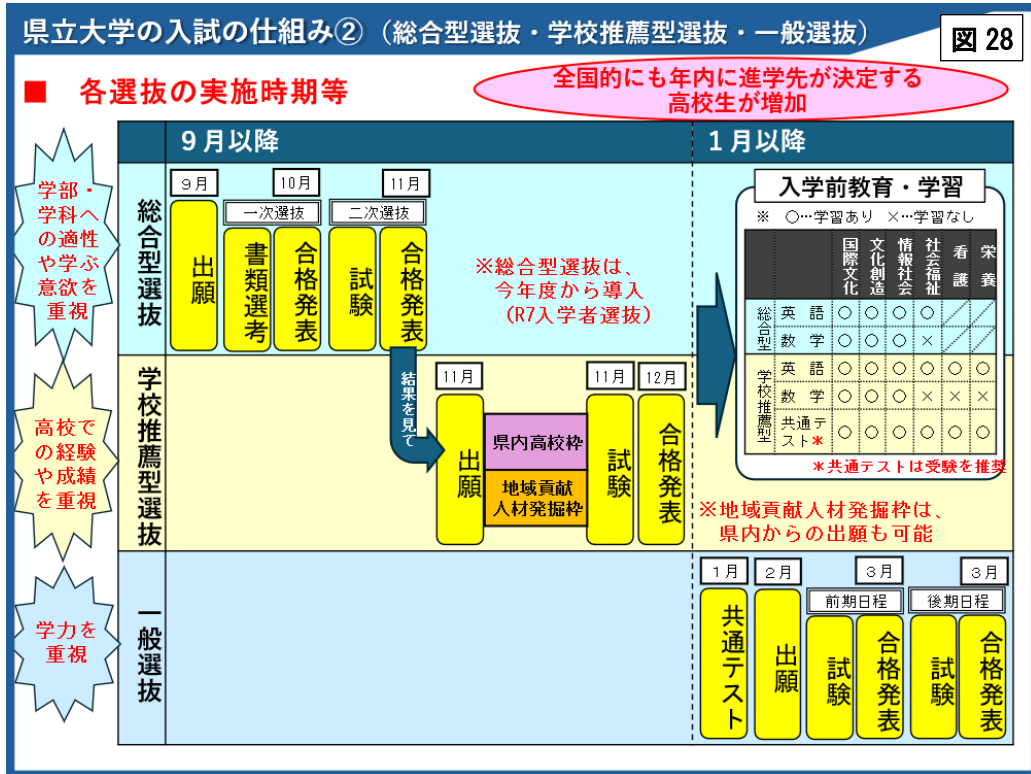
			国際文化学部			社会福祉学部	看護栄養学部		
			国際文化学科	文化創造学科	情報社会学科	社会福祉学科	看護学科	栄養学科	
総合型選抜	学部・学科への適性や学ぶ意欲を重視	一次選抜	□書類審査 ※自己推薦書、調査書						令和9年度 入学者選抜 から開始
		二次選抜	□講義理解力試験 □個人面接	□個人プレゼンテーション □集団面接	□講義理解力試験 □個人面接	□個人プレゼンテーション □個人面接			
学校推薦型選抜	高校での経験や成績を重視	県内高校枠	□小論文 □集団面接 (英語あり) □調査書	□小論文 □集団面接 □調査書	□小論文 □集団面接 □調査書	□集団ディスカッション □個人面接 □調査書	□総合問題(国語・英語) □個人面接 □調査書	□集団ディスカッション □個人面接 □調査書	
		地域貢献人材発掘枠	□小論文 □集団面接 (英語あり) □調査書 □活動報告書	□小論文 □個人面接 □調査書 □活動報告書	□小論文 □集団ディスカッション □調査書 □活動報告書	□集団ディスカッション □個人面接 □活動報告書	□総合問題(国語・英語) □個人面接 □活動報告書	□集団ディスカッション □個人面接 □活動報告書	
一般選抜	学力を重視	前期日程	□共通テスト □小論文 □集団面接	□共通テスト □小論文 □集団面接	□共通テスト □小論文 □集団面接	□共通テスト □集団面接	□共通テスト □個人面接	□共通テスト □集団面接	
		後期日程	□共通テスト □集団面接	□共通テスト □個人面接	□共通テスト □集団ディスカッション	□共通テスト □集団ディスカッション □個人面接	□共通テスト □小論文 □個人面接	□共通テスト □集団面接	

県内高校枠の設定

全国的にも総合型選抜や学校推薦型選抜の導入校・入学枠が増加

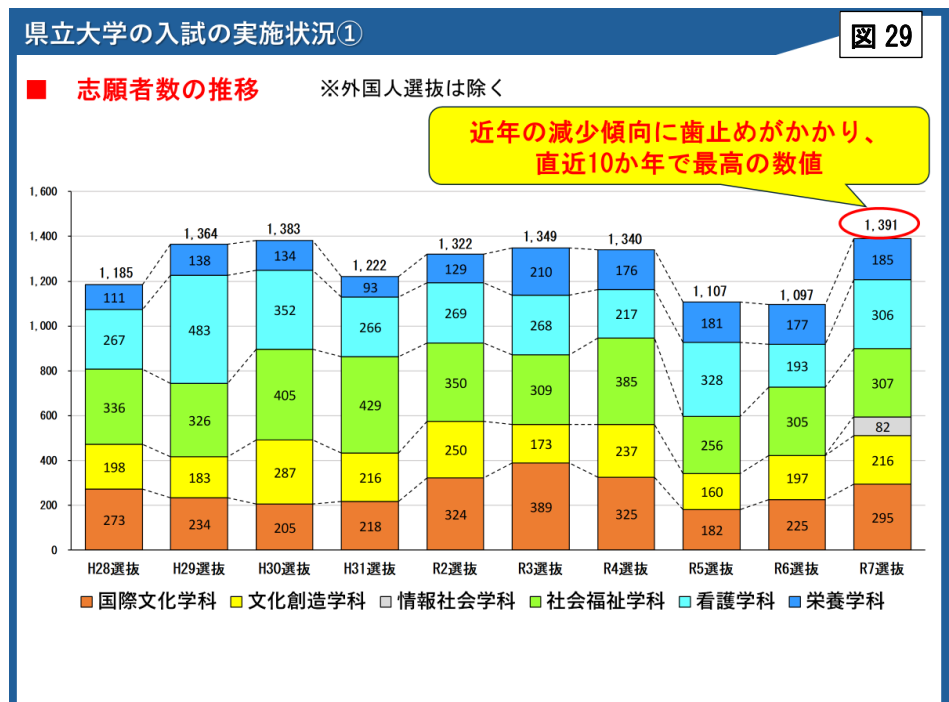
(2) 各選抜の実施時期等

総合型選抜・学校推薦型選抜は、毎年度、年末までに行われるが、県立大学では大学入学共通テストの受験を必要としないこれらの選抜での合格者に対し、高校で身に付けた学力を大学入学後も維持できるよう、英語や数学の入学前教育を行うとともに、大学入学共通テストへの受験を推奨している（図 28）。



(3) 志願者数の推移（学科別）

直近10か年の志願者の状況を見ると（図 29）、令和7年度入学者選抜では、近年の減少傾向に歯止めがかかり、最も多い志願者があった。これは、令和6年度に初めて、県内全ての高校を訪問するなどの県立大学の取組の成果であると考えられる。



(4) 令和7年度入学者選抜の志願状況等

志願状況を学部・学科別、選抜の種類別にみると（図30）、令和7年度に設置した情報社会学科については、今後必要とされるデジタル技術を活用する人材、文系DX人材育成の必要性についてより周知し、志願者を増加させることが必要である。

その方策として、情報社会学科の教員が、研修や共同研究により、高校の情報科の教員とつながることが考えられる。高校で行われている情報科の授業は、近年こそ情報科の教員が採用されているものの、数学や工業などの教員が、情報の免許を新たに取得して担当していることが多く、こうしたいわゆる理系の教員が、文系DX人材育成の必要性等について理解したり、日進月歩する情報に関する知識・スキルをアップデートしたりすることにつながる。

また、情報社会学科と社会福祉学科については、学校推薦型選抜の県内高校卒への志願者の増加に向けて、より努力していく必要がある。

県立大学の入試の実施状況②

図 30

■ 学部・学科別、選抜別の志願状況等（令和7年度）

学部	国際文化学部						社会福祉学部						看護栄養学部						計	
	国際文化学科		文化創造学科		情報社会学科		社会福祉学科		看護学科		栄養学科		看護学科		栄養学科					
入学定員	50		45		40		87		55		42				319					
総合型選抜	募集人員	5		5		5		9		—		—		24						
	入学定員に占める割合	10%		11%		13%		10%		—		—		8%						
	志願者数	35		31		15		30		—		—		111						
	一次選抜合格者数	15		24		15		18		—		—		72						
	二次選抜合格者数	5		5		5		9		—		—		24						
志願倍率	7.0		6.2		3.0		3.3		—		—		4.6							
学校推薦型選抜	募集人員	15	10	25	13	9	22	12	8	20	24	17	41	22	5	27	12	8	20	155
	入学定員に占める割合	30%	20%	50%	29%	20%	49%	30%	20%	50%	28%	20%	47%	40%	9%	49%	29%	19%	48%	49%
	志願者数	35	21	56	26	23	49	10	2	12	18	32	50	51	17	68	24	24	48	283
	合格者数	15	10	25	13	9	22	10	2	12	18	23	41	22	5	27	12	8	20	147
	志願倍率	2.3	2.1	2.2	2.0	2.6	2.2	0.8	0.3	0.6	0.8	1.9	1.2	2.3	3.4	2.5	2.0	3.0	2.4	1.8
一般選抜	募集人員	16		15		20		30		23		20		124						
	入学定員に占める割合	32%		33%		50%		34%		42%		48%		39%						
	志願者数	90		50		25		108		92		52		417						
	合格者数	27		20		22		33		24		21		147						
	志願倍率	5.6		3.3		1.3		3.6		4.0		2.6		3.4						
後期日程	募集人員	4		3		3		7		5		2		24						
入学定員に占める割合	8%		7%		8%		8%		9%		5%		8%							
志願者数	114		86		30		119		146		85		580							
合格者数													0							
志願倍率	28.5		28.7		10.0		17.0		29.2		42.5		24.2							
志願者数の計	295		216		82		307		306		185		1,391							
志願倍率	5.9		4.8		2.1		3.5		5.6		4.4		4.4							

学校推薦の募集人員は入学定員の50%以内

情報社会学科の志願者数の増加が必要

情報社会学科・社会福祉学科の県内高校卒の志願者の増加が必要

(5) 県内高校から県立大学への志願・入学状況

山口県内の高校卒業者数は、ここ10年で約900人減少した一方で、大学進学率は増加している。高校卒業者数を課程別にみると、全日制・定時制課程は減少しているが、通信制課程については、卒業者数も大学進学者数も増加している。また、県内高校から県立大学への志願者数は減少傾向にある（図31）。

また、ホームページで志願状況が公表されている山口大学についても、県内高校からの志願者数が減少傾向にあり、まさに、若者の県内進学、県内定着に向けて、大学と高校、さらには行政も一体となって取り組む必要がある（図32）。

県内高校から県立大学への志願・入学状況①

図 31

県内高校卒業者数の推移、県内から本学への志願状況

※A～D, Fは学校基本調査から

	H26年度卒	H27年度卒	H28年度卒	H29年度卒	H30年度卒	H31年度卒	R2年度卒	R3年度卒	R4年度卒	R5年度卒
A 県内高校等卒業者数：B+C+D	12,276	12,157	12,342	12,281	12,008	12,227	11,664	11,565	11,643	11,382
H26年度卒との差	—	▲119	66	5	▲268	▲49	▲612	▲711	▲633	▲891
F 大学等進学者数	5,116	5,033	5,141	5,223	4,979	5,170	4,877	4,996	5,131	5,104
割合：F/A	41.7%	41.4%	41.7%	42.5%	41.5%	42.3%	41.8%	43.2%	44.1%	44.8%
H26年度卒との差	—	▲0.3pt	0.0pt	0.8pt	▲0.2pt	0.6pt	0.1pt	1.5pt	2.4pt	3.1pt
B 県内高校(全日・定時)卒業者数	11,384	11,286	11,321	11,291	10,980	11,070	10,503	10,260	9,980	9,331
H26年度卒との差	—	▲98	▲63	▲93	▲404	▲314	▲881	▲1,124	▲1,404	▲2,053
F 大学等進学者数	4,944	4,821	4,920	4,976	4,728	4,899	4,643	4,674	4,684	4,537
割合：F/B	43.4%	42.7%	43.5%	44.1%	43.1%	44.3%	44.2%	45.6%	46.9%	48.6%
H26年度卒との差	—	▲0.7pt	0.1pt	0.7pt	▲0.3pt	0.9pt	0.8pt	2.2pt	3.5pt	5.2pt
C 県内高校(通信)卒業者数	788	761	911	882	913	1,055	1,049	1,215	1,577	1,961
H26年度卒との差	—	▲27	123	94	125	267	261	427	789	1,173
F 大学等進学者数	103	137	157	176	168	203	170	256	374	496
割合：F/C	13.1%	18.0%	17.2%	20.0%	18.4%	19.2%	16.2%	21.1%	23.7%	25.3%
H26年度卒との差	—	4.9pt	4.1pt	6.9pt	5.3pt	6.1pt	3.1pt	8.0pt	10.6pt	12.2pt
D 県内中等教育学校(後期)卒業者数	104	110	110	108	115	102	112	90	86	90
H26年度卒との差	—	6	6	4	11	▲2	8	▲14	▲18	▲14
F 大学等進学者数	69	75	64	71	83	68	64	66	73	71
割合：F/D	66.3%	68.2%	58.2%	65.7%	72.2%	66.7%	57.1%	73.3%	84.9%	78.9%
H26年度卒との差	—	1.9pt	▲8.1pt	▲0.6pt	5.9pt	0.4pt	▲9.2pt	7.0pt	18.6pt	12.6pt
E 県内高校等から本学への志願者数	538	479	530	524	482	477	420	442	403	384
割合：E/A	4.4%	3.9%	4.3%	4.3%	4.0%	3.9%	3.6%	3.8%	3.5%	3.4%
H27入学との差	—	▲0.5pt	▲0.1pt	▲0.1pt	▲0.4pt	▲0.5pt	▲0.8pt	▲0.6pt	▲0.9pt	▲1.0pt
①国際文化学科	92	81	72	65	52	62	80	91	50	66
割合：①/E	17%	17%	14%	12%	11%	13%	19%	21%	12%	17%
②文化創造学科	103	66	68	78	78	58	57	65	45	51
割合：②/E	19%	14%	13%	15%	16%	12%	14%	15%	11%	13%
③社会福祉学科	115	157	157	176	165	151	114	114	92	104
割合：③/E	21%	33%	30%	34%	34%	32%	27%	26%	23%	27%
④看護学科	158	131	174	156	147	160	133	114	145	102
割合：④/E	29%	27%	33%	30%	30%	34%	32%	26%	36%	27%
⑤栄養学科	70	44	59	49	40	46	36	58	71	61
割合：⑤/E	13%	9%	11%	9%	8%	10%	9%	13%	18%	16%

卒業者数は10年で約900人の減

大学進学率は増加

全日・定時制の卒業者数は約2,050人の減

通信制は約1,200人の増

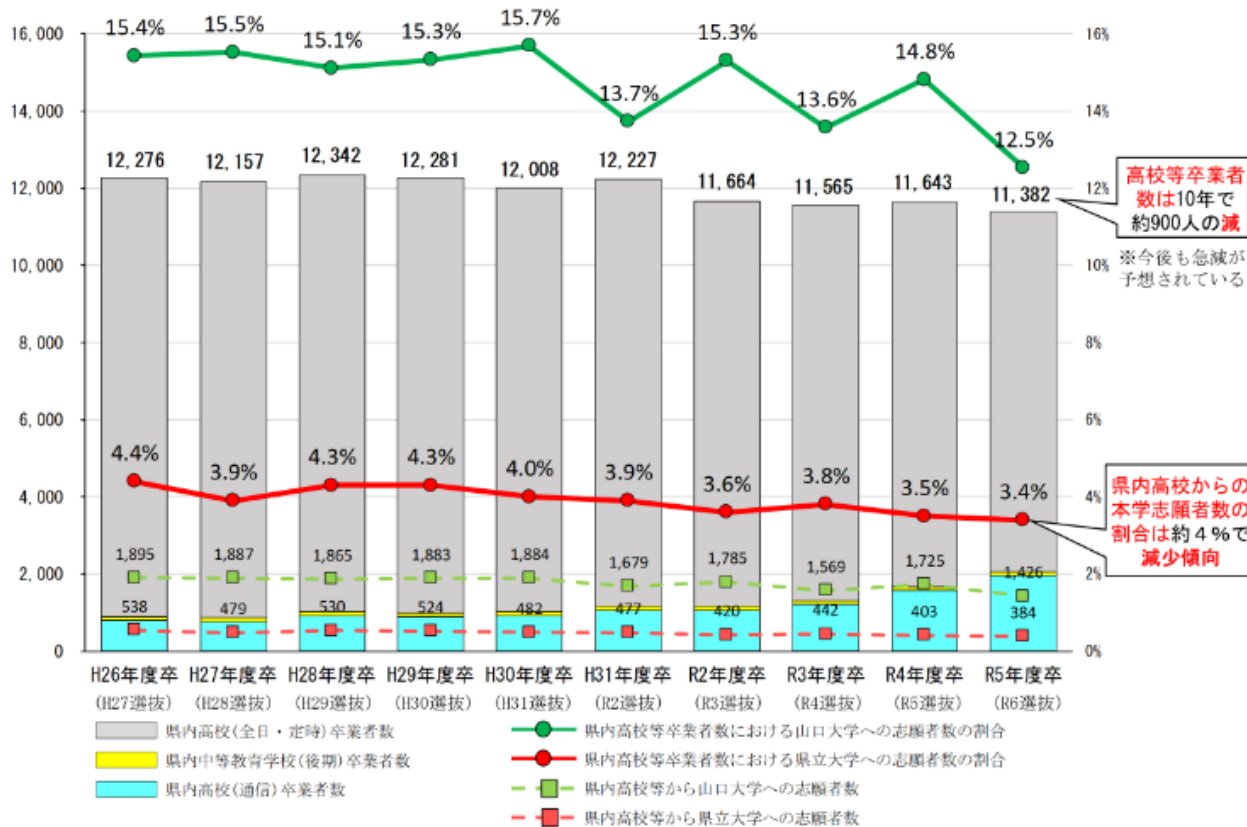
大学進学者数も増

県内高校から本学への志願状況は減少傾向

県内高校から県立大学への志願・入学状況②

図 32

県内高校卒業者数の推移、県内から本学への志願状況(グラフ)



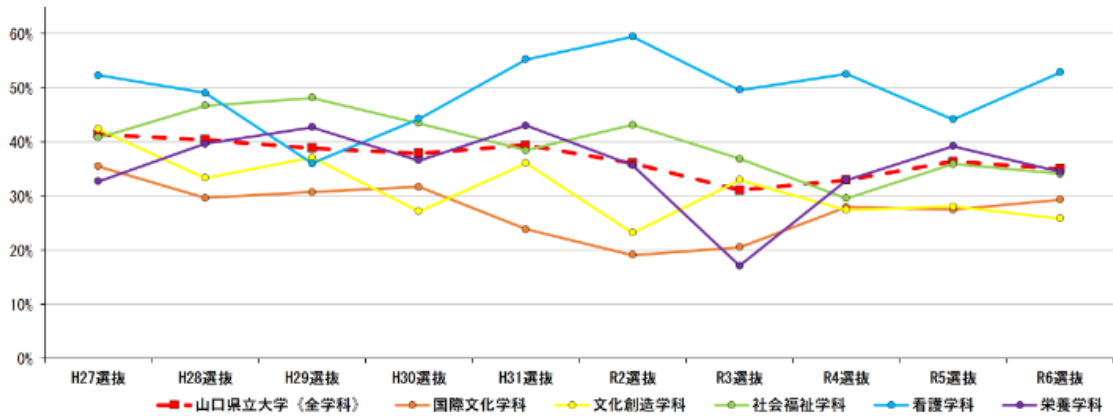
県立大学志願者数に占める県内高校出身者の割合については、年度によって多少異なるが、看護学科の県内からの志願割合は高く、50%前後であり、国際文化学科は30%前後である。同じく入学者数に占める県内高校出身者の割合については、看護学科が最も高く、60%前後、その他の4学科については、同程度でおおよそ40%前後である（図33）。

県内高校から県立大学への志願・入学状況③

図 33

■ 本学への志願状況（全学科、学科別）

本学志願者数に占める県内高校の割合

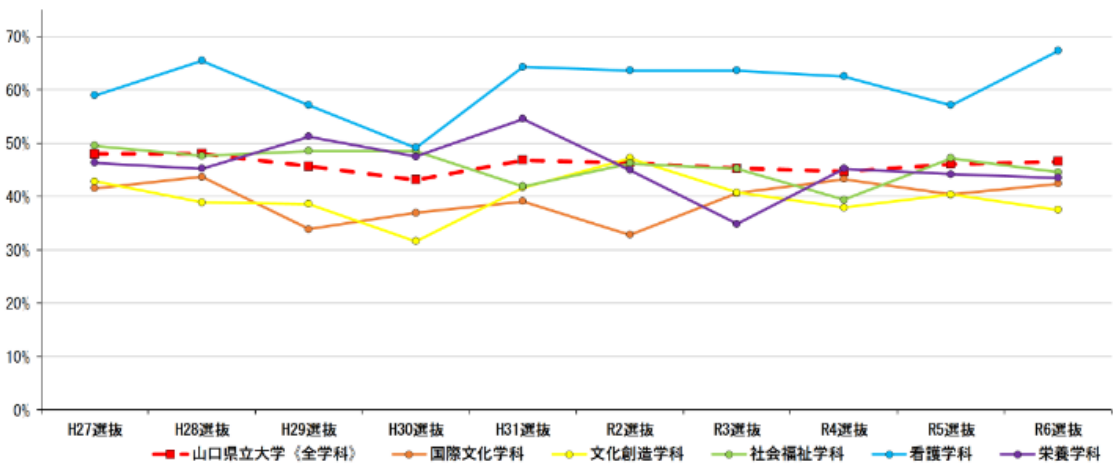


志願者数に占める県内高校の割合について、年度によって多少異なるが、『看護学科は高く、50%前後』『国際文化学科は低く、30%前後』

県内高校から県立大学への志願・入学状況④

■ 本学への入学状況（全学科、学科別）

本学入学者数に占める県内高校の割合



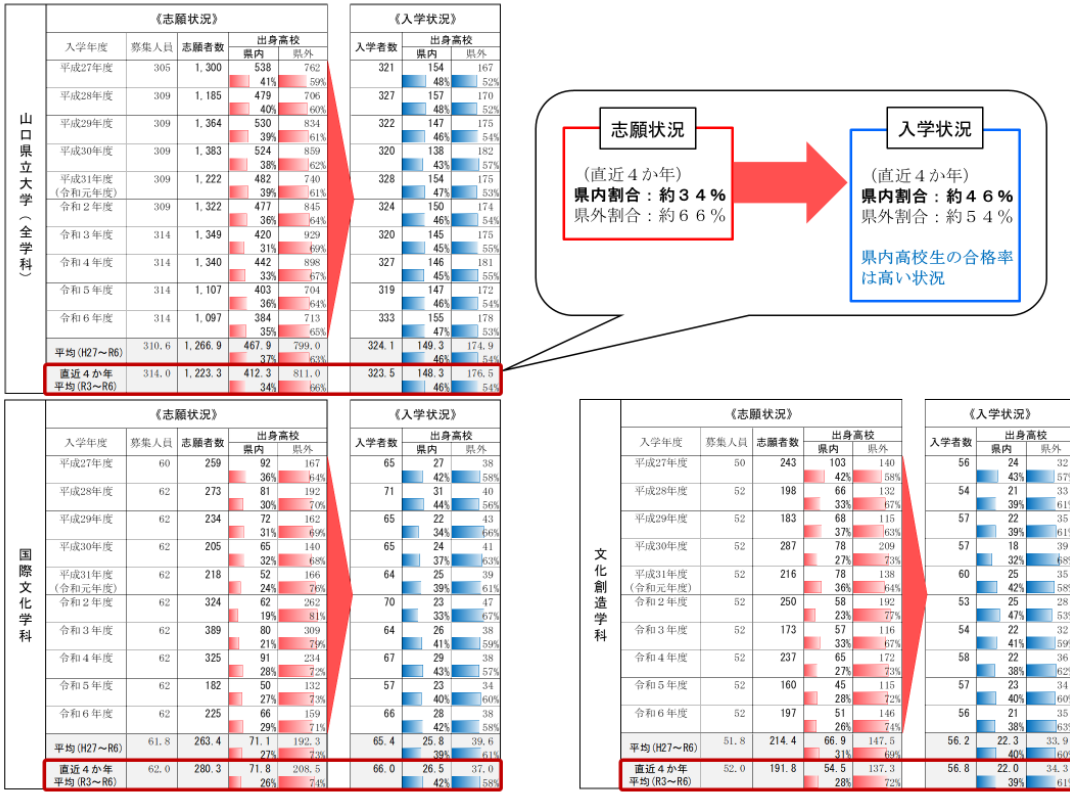
入学者数に占める県内高校の割合について、『看護学科が最も高く、60%前後』『その他の4学科については、同程度で40%前後』

大学全体、学科別の志願状況・入学状況を比較すると、志願の段階では、県内割合が約34%であるが、入学時は約46%となっており、県内高校生の合格率が高い状況がうかがえる（図34）。

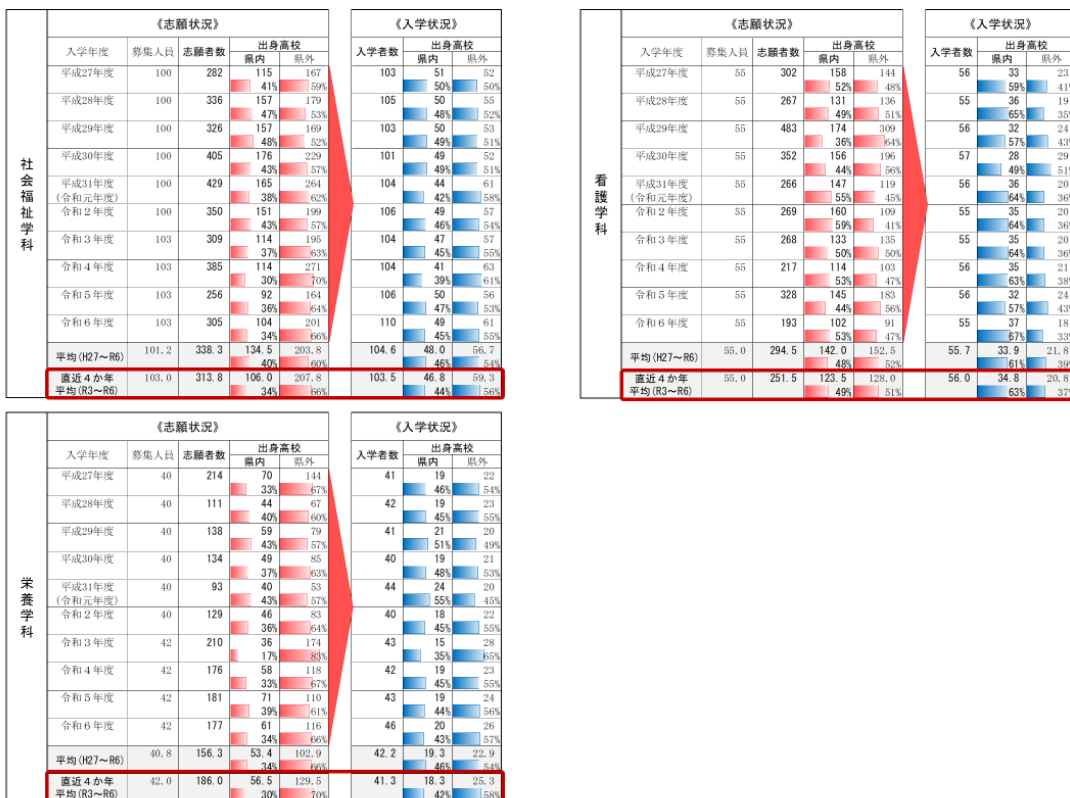
県内高校から県立大学への志願・入学状況⑤

図 34

《参考》本学への志願・入学状況（全学科、学科別）



県内高校から県立大学への志願・入学状況⑥

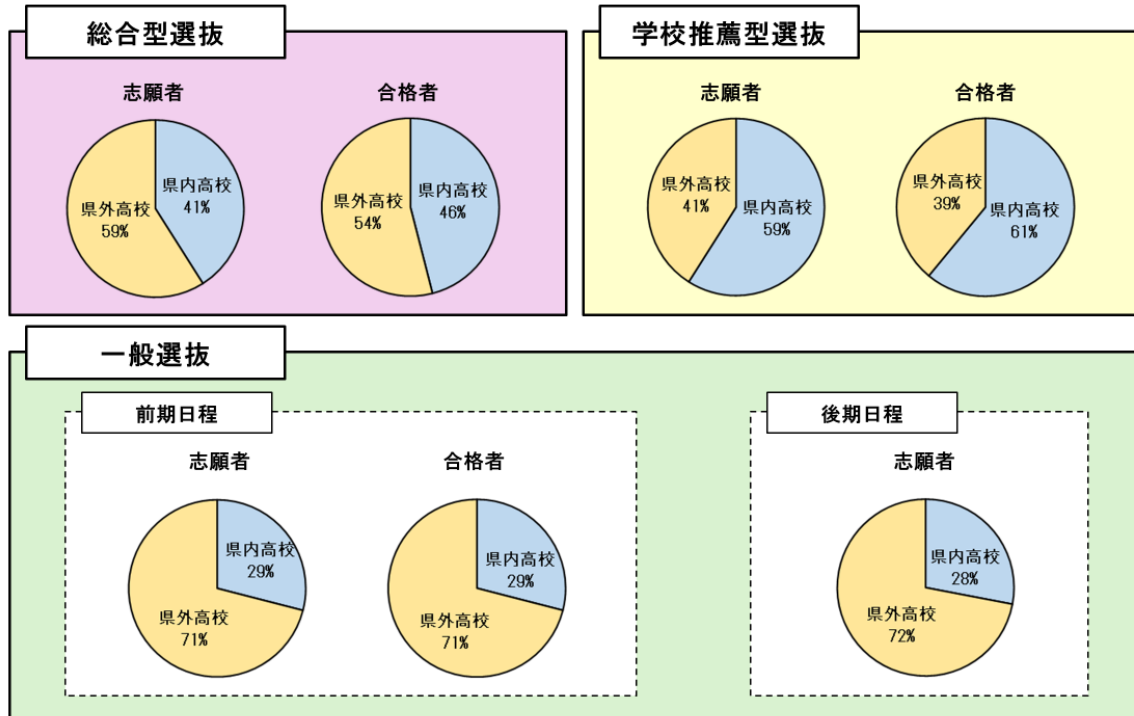


選抜の種類別に志願状況・合格状況をみると、総合型選抜・学校推薦型選抜は、一般選抜に比べて、志願者・合格者ともに県内高校の割合が高い状況がうかがえる(図 35)。

県内高校から県立大学への志願・入学状況⑦

図 35

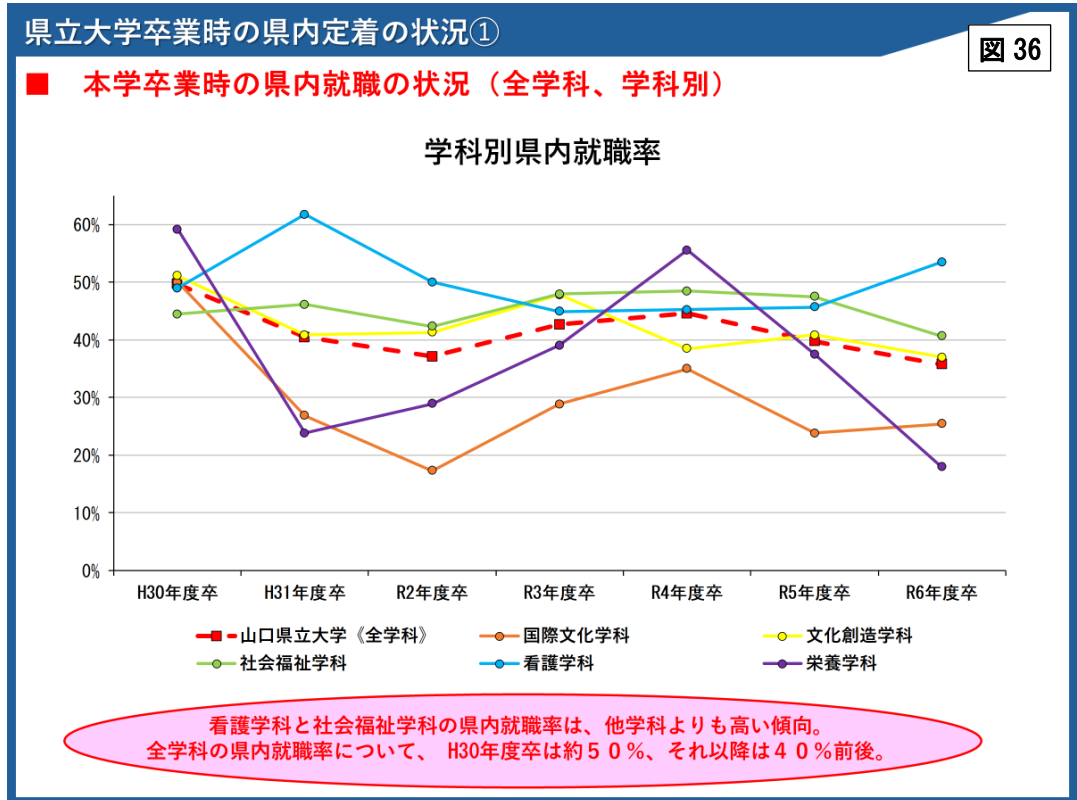
■ 選抜種類別の志願者・合格者の県内・県外の割合(令和7年度入学者選抜)



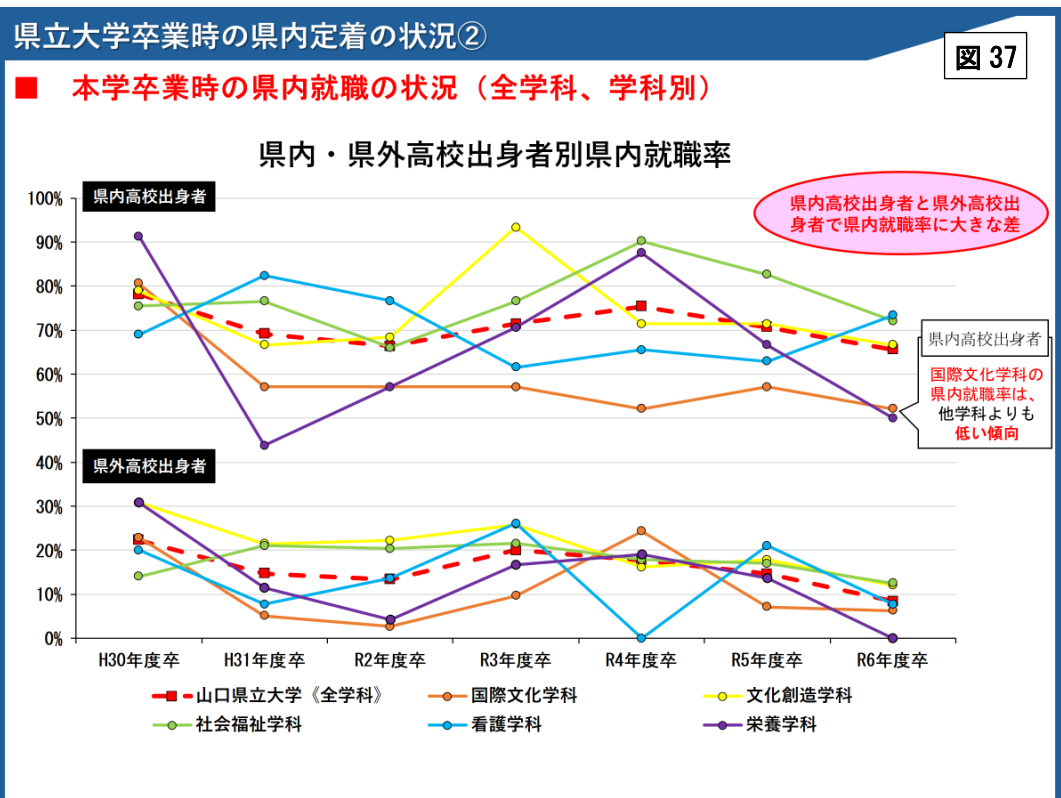
総合型選抜・学校推薦型選抜は、一般選抜に比べて、志願者・合格者ともに県内高校の割合が高い。

(6) 県立大学卒業時の県内定着の状況

県立大学卒業時の県内就職の状況については、社会福祉学科と看護学科の県内就職率は、他学科よりも高い傾向にある。また、全学科を合わせた状況については、平成30年度卒は約50%が県内に就職していたが、それ以降は40%前後で、近年の減少傾向が見て取れる。(図36)



県内・県外高校出身者別の県内就職の状況については、県内出身者の県内就職率は7割程度と、県外出身者の2割弱程度と比べて大きな差がある。学科別に見ると、国際文化学科については、他学科よりも低い傾向にある。(図37)



(参考) 全学科・学科別、県内・県外高校出身者別の県内就職の状況の推移

県立大学卒業時の県内定着の状況③

図 38

《参考》本学卒業時の就職等の状況（全学科、学科別）

山口県立大学 (全学科)	《県立大学卒業時の就職等の状況》				県内高校出身者の状況			県外高校出身者の状況				
	卒業年度	卒業者数	就職		計	就職		進学・その他	計	就職		進学・その他
			県内	県外		県内	県外			県内	県外	
平成30年度	332	153	155	24	164	118	33	13	168	35	122	11
		50%	50%			78%	22%			22%	78%	
平成31年度 (令和元年度)	330	125	184	21	155	101	45	9	175	24	139	12
		40%	60%			69%	31%			15%	85%	
令和2年度	331	111	188	32	147	89	45	13	184	22	143	19
		37%	63%			66%	34%			13%	87%	
令和3年度	320	122	164	34	136	90	36	10	184	32	128	24
		43%	57%			71%	29%			20%	80%	
令和4年度	319	132	164	23	148	104	34	10	171	28	130	13
		45%	55%			75%	25%			18%	82%	
令和5年度	325	118	179	28	149	94	39	16	176	24	140	12
		40%	60%			71%	29%			15%	85%	
平均(H30~R5)	326.2	126.8	172.3	27.0	149.8	99.3	38.7	11.8	176.3	27.5	133.7	15.2
		42%	58%			72%	28%			17%	83%	

県内就職：約4割 (県内高校出身者) 県内就職：約7割 (県外高校出身者) 県内就職：約2割

国際文化学科	《県立大学卒業時の就職等の状況》				県内高校出身者の状況			県外高校出身者の状況				
	卒業年度	卒業者数	就職		計	就職		進学・その他	計	就職		進学・その他
			県内	県外		県内	県外			県内	県外	
平成30年度	71	33	33	5	34	25	6	3	37	8	27	2
		50%	50%			81%	19%			23%	77%	
平成31年度 (令和元年度)	73	18	49	6	29	16	12	1	44	2	37	5
		27%	73%			57%	43%			5%	95%	
令和2年度	61	9	43	9	20	8	6	6	41	1	37	3
		17%	83%			57%	43%			3%	97%	
令和3年度	60	15	37	8	23	12	9	2	37	3	28	6
		29%	71%			57%	43%			10%	90%	
令和4年度	65	21	39	5	23	12	11	0	42	9	28	5
		35%	65%			52%	48%			24%	76%	
令和5年度	70	15	48	7	24	12	9	3	46	3	39	4
		24%	76%			57%	43%			7%	93%	
平均(H30~R5)	66.7	18.5	41.5	6.7	25.5	14.2	8.8	2.5	41.2	4.3	32.7	4.2
		31%	69%			62%	38%			12%	88%	

県内就職：約3割 (県内高校出身者) 県内就職：約6割 (県外高校出身者) 県内就職：約1割

県立大学卒業時の県内定着の状況④

文化創造学科	《県立大学卒業時の就職等の状況》				県内高校出身者の状況			県外高校出身者の状況				
	卒業年度	卒業者数	就職		計	就職		進学・その他	計	就職		進学・その他
			県内	県外		県内	県外			県内	県外	
平成30年度	50	23	22	5	21	15	4	2	29	8	18	3
		51%	49%			79%	21%			31%	69%	
平成31年度 (令和元年度)	54	20	29	5	24	14	7	3	30	6	22	2
		41%	59%			67%	33%			21%	79%	
令和2年度	55	19	27	9	21	13	6	2	34	6	21	7
		41%	59%			68%	32%			22%	78%	
令和3年度	57	22	24	11	18	14	1	3	39	8	23	8
		48%	52%			93%	7%			26%	74%	
令和4年度	59	20	32	7	23	15	6	2	36	5	26	5
		38%	62%			71%	29%			16%	84%	
令和5年度	55	20	29	6	25	15	6	4	30	5	23	2
		41%	59%			71%	29%			18%	82%	
平均(H30~R5)	55.0	20.7	27.2	7.2	22.0	14.3	5.0	2.7	33.0	6.3	22.2	4.5
		43%	57%			74%	26%			22%	78%	

県内就職：約4割 (県内高校出身者) 県内就職：約7割 (県外高校出身者) 県内就職：約2割

社会福祉学科	《県立大学卒業時の就職等の状況》				県内高校出身者の状況			県外高校出身者の状況				
	卒業年度	卒業者数	就職		計	就職		進学・その他	計	就職		進学・その他
			県内	県外		県内	県外			県内	県外	
平成30年度	108	44	55	9	53	37	12	4	55	7	43	5
		44%	56%			76%	24%			14%	86%	
平成31年度 (令和元年度)	108	48	56	4	50	36	11	3	58	12	45	1
		46%	54%			77%	23%			21%	79%	
令和2年度	110	44	60	6	52	33	17	2	58	11	43	4
		42%	58%			66%	34%			20%	80%	
令和3年度	105	47	51	7	48	36	11	1	57	11	40	6
		48%	52%			77%	23%			22%	78%	
令和4年度	99	47	50	2	43	37	4	2	56	10	46	0
		48%	52%			90%	10%			18%	82%	
令和5年度	104	47	52	5	48	38	8	2	56	9	44	3
		47%	53%			83%	17%			17%	83%	
平均(H30~R5)	105.7	46.2	54.0	5.5	49.0	36.2	10.5	2.3	56.7	10.0	43.5	3.2
		46%	54%			78%	23%			19%	81%	

県内就職：約5割 (県内高校出身者) 県内就職：約8割 (県外高校出身者) 県内就職：約2割

県立大学卒業時の県内定着の状況⑤

看護学科	《県立大学卒業時の就職等の状況》				県内高校出身者の状況			県外高校出身者の状況					
	卒業年度	卒業者数	就職		進学・その他	計	就職		進学・その他	計	就職		進学・その他
			県内	県外			県内	県外			県内	県外	
平成30年度	54	24	25	5	33	20	9	4	21	4	16	1	
		49%	51%			69%	31%			20%	80%		
平成31年度 (令和元年度)	51	29	18	4	35	28	6	1	16	1	12	3	
		62%	38%			82%	18%			8%	92%		
令和2年度	57	26	26	5	32	23	7	2	25	3	19	3	
		50%	50%			77%	23%			14%	86%		
令和3年度	55	22	27	6	28	16	10	2	27	6	17	4	
		45%	55%			62%	38%			26%	74%		
令和4年度	49	19	23	7	34	19	10	5	15	0	13	2	
		45%	55%			66%	34%			0%	100%		
令和5年度	56	21	25	10	34	17	10	7	22	4	15	3	
		46%	54%			63%	37%			21%	79%		
平均 (H30~R5)	53.7	23.5	24.0	6.2	32.7	20.5	8.7	3.5	21.0	3.0	15.3	2.7	
		49%	51%			70%	30%			16%	84%		

県内就職：約5割

(県内高校出身者)県内就職：約7割

(県外高校出身者)県内就職：約2割

栄養学科	《県立大学卒業時の就職等の状況》				県内高校出身者の状況			県外高校出身者の状況					
	卒業年度	卒業者数	就職		進学・その他	計	就職		進学・その他	計	就職		進学・その他
			県内	県外			県内	県外			県内	県外	
平成30年度	49	29	20	0	23	21	2	0	26	8	18	0	
		59%	41%			91%	9%			31%	69%		
平成31年度 (令和元年度)	44	10	32	2	17	7	9	1	27	3	23	1	
		24%	76%			44%	56%			12%	88%		
令和2年度	48	13	32	3	22	12	9	1	26	1	23	2	
		29%	71%			57%	43%			4%	96%		
令和3年度	43	16	25	2	19	12	5	2	24	4	20	0	
		39%	61%			71%	29%			17%	83%		
令和4年度	47	25	20	2	25	21	3	1	22	4	17	1	
		56%	44%			88%	13%			19%	81%		
令和5年度	40	15	25	0	18	12	6	0	22	3	19	0	
		38%	63%			67%	33%			14%	86%		
平均 (H30~R5)	45.2	18.0	25.7	1.5	20.7	14.2	5.7	0.8	24.5	3.8	20.0	0.7	
		41%	59%			71%	29%			16%	84%		

県内就職：約4割

(県内高校出身者)県内就職：約7割

(県外高校出身者)県内就職：約2割

4 今後の高校と大学の連携のあり方

以上の、高大連携に係る国の動向や、県立大学の現在の取組の状況、県立大学の入学者選抜を踏まえ、本検討協議会では、連携協定校との連携のあり方や、附属高校・連携協定校以外の高校との連携のあり方について、次の視点から検討した。

- 本県において、現在充足していない分野の人材や、今後必要となる人材を高校と大学が連携して育成する視点
- 高校の探究学習と県立大学のPBLをつなぐ視点
- 県内の高校生が県立大学を経て（県内進学）、県内に就職するという「県内定着」の視点

(1) 連携協定校のあり方について

現在、県立大学が連携協定を結んでいる野田学園高等学校、華陵高等学校、宇部高等学校との高大連携の取組状況については、49ページに示したところであるが、第8回検討協議会では、3校の校長から、取組状況等について報告していただいた。

ア 現在の連携協定校との連携状況

各連携協定校は、次のような取組を行っている一方で、年数が経つにつれ、高校の教員に連携協定校であるという意識が薄れ、連携した取組が減少している状況や、県立大学への移動に係る経費など、予算面の課題があることがわかった。

- 大学見学や出前授業での大学の授業の体験（1日看護体験、英語科の生徒向けにアレンジされた授業、DXハイスクールの事業を活用した授業など）
- 県立大学の講演会への保護者の参加、SPARC事業（地域活性化人材育成事業）の発表会への教員の参加
- 県立大学生の高校への受け入れ（教育実習、教師体験、高校や幼稚園での食育実践実習など）
- 高校の文化祭で、県立大学の学校案内ブースを設置

イ 高大連携を通じた県立大学への期待

各高校からは、現在の連携状況を踏まえて、今後の高大連携を通じた県立大学に期待することとして、次のような機会を創出したり、取組を進めたりすることについて提案があった。

- ・ 大学生の卒業論文に高校生が触れたり、高校生の探究学習の発表会に大学生が参加して、助言することや、大学で行われるPBLの基礎講座に高校生が参加したり、高校の課題研究に大学のノウハウを提供するなど、高校の探究学習の支援
- ・ 教員をめざす大学生が高校の授業を見学したり、大学生の研究に高校生が協力したりするなど相互の関係の強化
- ・ 留学生や海外留学の経験のある大学生の活用
- ・ 家庭科の「生活と福祉」や情報科の授業での交流など、県立大学が設置している特色ある学科との連携
- ・ 連携協定校の特別枠など、連携による成果を入試に反映する仕組みや、現在、県立大学と山口大学、山口学芸大学が検討している「先取り履修」への期待
- ・ 連携協定により行われる事業の予算的課題の解決

ウ 今後の連携協定校のあり方

連携協定校の連携状況や成果を踏まえ、委員からは、次のような提案があった。

- 県立大学の役割として、一部の高校だけでなく様々な高校と連携することが望ましいことから、今後は、より多くの高校と連携できるよう、1校と連携する期間を定めて連携していくことについても検討する必要がある。その際の視点として、県立大学の学部・学科と、専門の分野、テーマでつながるなど、連携の目的を明確化して、連携協定校を拡大していくことを検討する必要がある。
- 附属高校の選定に当たっては、県立大学の各学科との関連性を重視したように、県立大学の教育内容と合う高校を選定するという視点から、例えば情報社会学科（文系DX人材）であれば商業系の高校、栄養学科であれば、家庭系の学科を有する学校等との連携も考えられる。専門学科高校との連携は本県の大学進学率の向上にもつながる。
- 連携協定校の拡大だけでなく、各教科や学科等を単位として、教育研究に関する活動を行っている教育研究団体との連携についても検討すべきである。目的の明確化や特定の学部・学科単位のつながりを構築することにもつながり、有益である。
- 今後、県立大学の学生とふれあう機会が増える附属高校を一つのモデルとして他の高校にも波及させれば、高校生の大学進学への意識も向上する。特に、日頃から、大学生とふれあう機会の少ない地域にある高校と連携していくことも検討する必要がある。
- 附属高校においては、育成型選抜（県大進学プログラム）が実施されるが、その仕組みを活用し、連携による実績の成果が入試に反映されるような、連携協定校の生徒を対象にした特別枠や、その他の高校生を対象とした新たなプログラムを設けることも考えられる。それらの取組実績を総合型選抜の出願要件や選抜時の加点要件とすれば、より学習意欲の富んだ学生の志願が期待できる。
また、附属高校で実施する「先取り履修」のほかに、SPARC事業や「やまぐち共創大学コンソーシアム」の動向も踏まえながら、その成果を大学の入学者選抜に活用する具体的方策について検討することも考えられる。
- 高校が行う探究活動において、課題設定の場面での助言や、成果発表会への参加など、「大学の力を求める高校からのアプローチ」と、大学生の卒業論文に高校生が触れるなど、大学のPBLに高校生が参加していくといった「大学からのアプローチ」、さらに、県や県教委主催事業への県立大学教員の招聘、探究学習について大学への情報提供など、県や県教委が高大をつなぐハブとなるように機能することで、三者が一体となった取組が実現する。

以上の意見を踏まえ、本検討協議会は、今後の連携協定校のあり方について、次の取組等について県立大学に提案する。

県立大学への提案

- 連携協定校の拡大に向けて、より多くの高校と連携できるよう、連携協定に当たっては、連携期間を定め、連携実績を踏まえて更新したり、新たな高校と連携したりすることについて検討すること。
- 連携協定校の拡大の検討に当たっては、県立大学の各学科が、専門学科高校などの関連の深い学科を有する高校との連携や、大学生とふれあう機会の少ない地域にある高校と連携することについても視野に入れて、検討すること。
- 大学の入学者選抜において、連携協定校から出願する生徒について、その取組の実績を評価する方法も考えられること。
- 連携協定校の拡大だけでなく、県立大学や山口大学、山口学芸大学が実施する「先取り履修」の仕組みの充実や、附属高校の「県大進学プログラム」を活用するなど、高校生が大学の講義に触れる機会をつくること。また、大学の入学者選抜において、その取組の実績を評価する方法も考えられること。
- 連携協定校との連携とともに、大学の各学科と教員が組織する教育研究団体等との連携についても進めていく必要があること。

(2) 高校の探究学習と県立大学のPBLをつなぐ具体的方策

高等学校では、社会の急速な変化に対応できる力を育てる必要が高まったことから、「総合的な探究の時間」等において、各教科の授業で身に付けた知識を活用しながら、自ら問いを立て、考え、他者と協働しながら答えをつくる力を育てる探究学習が積極的に行われている。

大学においても、従来の教育研究に加えて、学生が実社会に近い課題に取り組み、解決策を創り出すプロセスを通して学ぶPBL（Project-Based Learning／課題解決型学習）が行われている。

こうした中、県立大学においては、大学1年次に、全学科混成チームで地域課題の解決アイデアを創出する、「やまぐち未来デザインプロジェクト」を大学の基盤教育の中心科目として実施している。

また、大学入学者選抜においても、高校での探究活動の成果を、総合型選抜や学校推薦型選抜で評価する大学も増えてきており、高校と大学が、探究活動とPBLを通してつながることは、今後の高大連携の中心的な取組になると考えられる。

このため、本検討協議会では、高校の探究学習と県立大学のPBLをつなぐ具体的方策について、検討することとした。

ア 県立大学生と徳山高校生の探究学習交流事業

本事業は、令和7年度に文理探究科を新たに設置した山口県立徳山高等学校が、これまでSSHの取組を通して実績のある理数系の探究活動に加えて、新たに文系の探究活動に取り組む必要が生じたことから、徳山高校から県立大学に提案があり、企画された事業である。

高校生にとって近い存在であり、卒業論文作成に取り組んだ大学生が自分の研究を高校生に紹介することを通して交流する内容であり、本検討協議会が、検討の視

点として掲げる「高校の探究学習と県立大学のPBLをつなぐ視点」に直結することから、その取組の様子を視察した。

高校生が、近い年代の大学4年次生の卒業論文の内容やテーマ設定の動機、研究の苦労話など、その経験に触れることを通して、自らの課題研究に見通しを持たせるとともに、研究の楽しさを実感させることが目的である。

このような「探究・研究」を通して高校生と大学生が交流することは、これから探究学習を始める高校生はもとより、大学生にとっても、助言することで得られる学びもあり、効果的な取組であった。

○ 卒業論文の内容を高校生に紹介する取組

- 日 時 令和8年1月7日(水) 10:45~14:35
- 場 所 山口県立大学 北キャンパス
10:45~11:25 図書館
12:10~14:35 3号館5階C546

□ 実施内容

- 課題研究における図書文献利用のレクチャー受講
- 学長挨拶、大学生の研究テーマ紹介等
- 高校生によるプレゼンテーション 探究活動の紹介、課題意識と次年度の目標発表
- グループワーク① 大学生による研究紹介、質疑応答
- グループワーク② 大学生による研究紹介、質疑応答

※視察は、グループワーク②

□ 県立大学からの参加学生・研究テーマ

岸本知穂美(国際文化) Foreign Tourists Satisfaction and Language Barriers(外国人観光客の満足度と言語の壁)

豫風 あや(国際文化) モテの規範性

藤井 聖人(国際文化) リラックス空間としての浴槽が身体成長に与える影響

金子 歩実(文化創造) 日本歌曲とアクセント理論—日本語学の視点からみた分析—

柳井 結衣(文化創造) 少年漫画における女性語について—文末表現を中心に—

井上 息吹(文化創造) 葛西善蔵『子をつれて』論



○ 徳山高校のSSH課題研究発表会に県立大学生が参加

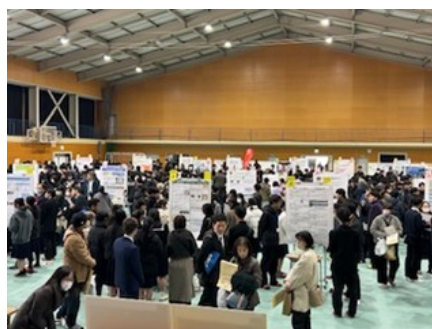
- 日 時 令和8年2月8日(土)
10:20~10:30 開会式
10:40~11:20 発表①(ポスター発表 PBL 奇数班+他)
11:40~12:20 発表②(ポスター発表 PBL 偶数班+他)
12:20~13:20 昼食・休憩
13:20~14:00 発表③(ポスター発表 PBL 全班+他)
14:15~14:30 閉会式
- 参加者 (発表者) 徳山高校生: 1年全学年(PBL(63))、2年生理数科(課題研究II(11))、教員(5)

中学生（18）、大学生（山口県立大学（3）・周南公立大学（4）、企業（4）
その他、観覧者多数

※（ ）の数字はテーマ数 計 108 テーマ

（県立大学からの参加者）

金子歩実（文化創造学科 4 年） 「日本歌曲とアクセント理論—日本語学の視点から見た分析—」
宮田拓樹（文化創造学科 4 年） 「リメイク映画における男言葉」
井上瑞菜（文化創造学科 3 年） 「辞書におけるジェンダー語彙と意味変化」



このほか、小・中・高の児童や生徒が世代を超えて地域社会の大人と一緒に、地域の課題や今後の展望について意見交換や交流を行う場である「地域連携教育再加速フォーラム」（山口県教育委員会主催）など、高校生等が探究活動の成果を発表する機会が増加しており、こうした機会を積極的に活用して高大の連携を推進していく必要がある。

イ 高校・大学・県や県教育委員会が一体となった取組

探究活動を重視し、積極的に取り組む高校は、今後ますます増加するものと考えられる。現在、高大連携は、それぞれの高校が個々に大学と繋がっており、今後は、高校と大学の効率的かつ効果的な連携に向けて、高校のニーズと大学のマッチングの調整や、探究活動において高校同士がお互いの内容について共有し、参考にしたり、協力したりできるよう、また、大学の PBL を探究活動に取り組む高校に紹介できるように、高校・大学・県や県教育委員会が一体となって取り組む必要があり、そのための仕組みづくりも求められている。

ウ 県立大学の役割

県立大学は、県内の高校全てを訪問しており、高大連携の推進強化を図るために高大連携推進室を設置するなど、高校と大学をつなぐ非常に存在意義がある取組を行っている。また、これからは附属高校と協働した取組の中で、大学生と高校生の交流について得られた成果も生かした取組が推進されることも期待できる。

さらに、高校と大学の連携については、国が構築を推進しており、地域の高等教育機関や産学官金等の関係者が連携し、地方創生や人材育成を推進する協議体の仕組みである「地域構想推進プラットフォーム」においても重視されており、この仕組みの中で、県立大学が果たす役割についても検討する必要がある。

以上の意見を踏まえ、本検討協議会は、次の通り、高校の探究活動と県立大学のPBLをつなぐ具体的方策について、県立大学に提案する。

県立大学への提案

- 高校の探究学習と県立大学のPBLをつなぐ取組を積極的に推進すること。
- 探究活動に積極的に取り組む高校は、今後ますます増加すると考えられることから、高校・大学・県や県教育委員会が一体となった取組が必要であること。
- 全県の高大連携の推進強化に資するよう附属高校と県立大学が協働する取組と成果を積極的に発信すること。
- 国が取組を進めている「地域構想推進プラットフォーム」の仕組みを積極的に活用すること。

(3) 本県において、今後必要な人材を高校と大学が連携して育成する具体的方策や、県内の高校生が県立大学を経て、県内に就職する県内定着のための具体的方策

県立大学は、山口県が設置する唯一の大学であり、地域貢献型大学として、本県の課題解決に向けた教育研究や、将来、本県で活躍する人材の育成に取り組んでいる。

県立大学が県内の高校と行う高大連携も、こうした視点から行うべきであり、本検討協議会においては、今後必要な人材を高校と大学が連携して育成する方策や、県内の高校生が県立大学を経て、県内に就職する県内定着のための方策について検討した。

ア 地元への定着について

自分の興味・関心と社会課題を掛け合わせて考えていくことで、世の中のことについてより実感を得ることができる。Uターンを希望する人の大半は地元の企業のことをよく調べており、知っている。若者の地元定着を進めるためには、高校生や大学生が県内の企業について知ることが肝要であることから、高校が行う探究活動や大学が行うPBLにおいても、県内企業と連携して実施していく必要がある。

イ 県内の専門学科学校の大学進学状況

県内全体では専門学科高校の卒業生の3割が進学している。中でも、商業系では5割が進学するが、4年制大学より、ビジネスや情報系の専門学校を志望する生徒が多い。工業系では、現在は人手不足の影響もあり求人も多いので、8割以上が就職している。

一方で、他県においては、専門学科高校から大学へ進学する生徒も多いとのことである。

このため、専門学科高校で学んだ生徒が、さらに学びを続けたいと考えたとき、選択肢の一つとして大学進学が身近に感じられるよう、大学と専門学科高校の連携を推進していく必要がある。

ウ 県の施策の状況

人口減少や少子高齢化、急速な技術革新、グローバル化、デジタル化など社会の変化が激しく、将来を見通すことが困難な時代の中、本県の地域や産業を守り、活力を高めていくためには、次代を担う人材の育成が重要である。

このため、県では、「新たな時代の人づくり推進方針」を令和3年に策定し、これに基づき、関係機関と連携しながら様々な視点に立った取組を進めている。

具体的には、次のような取組を行っている。

- ウェルビーイングの観点に着目した人づくり
ウェルビーイングを広めるための講演会や、発達の段階に応じた子ども・若者向けワークショップ、県内の学びの現場に広めるための人材育成プログラムを実施
- ワークショップコレクション in やまぐち
大学や企業、自治体等が連携し、幼児・小学生を対象にしたクラフト工作や実験、プログラミングなど、デジタルからアナログまで様々なワークショップを体験できるイベントを開催
- 明日にきらめけ！維新アカデミー事業
小・中学生を対象に、ふるさと山口への誇りと愛着を高めるとともに、将来の目標に向けて志を高め、自らキャリアを構築する力を育成するプログラムを実施
- やまぐち若者 MY PROJECT
高校生が地域課題をテーマにプロジェクトを設定し、大学生や社会人のサポートを受けながら課題解決に向けた実践活動を展開
- LEARN in やまぐち
東京大学先端科学技術研究センターと連携し、学校外でのリアルな学びを提供する小・中学生向けプログラムや、保護者向けの子育て相談会を実施

エ 学生の県内定着に向けた県立大学の取組

本県では、人口減少、とりわけ生産年齢人口の減少という課題を抱える中で、デジタル人材、医療・介護に携わる人材が求められており、また、これまで以上に、女性がいきいきと活躍できる環境づくりや、技術革新や業務の変化に伴い、将来必要となる新しいスキルや知識を習得する職業上の学び直しであるリスキリングも必要である。

こうした中、県立大学は、本県に今後求められる人材を育成する学科が揃っており、また、女性の学生の割合が多いこと、そのほか、社会人が大学院で学ぶ機会や、リスキリングのための社会人を対象とする講座の積極的な開講など、県立大学が本県の課題解決に果たす期待は大きい。

このため、県立大学では、入学から卒業までの4年間で、県内企業を知り、体験できる機会を途切れなく提供する仕組みを構築している（図 39 参照）。

令和7年度から始まった、入学後1週間の間に、オリエンテーションや市内散策などのイベントを集中的に実施する「Small Free Bird Week」では、新入生だけでなく保護者も参加する入学式の日などに、山口県の企業を知ってもらうよう、「フリバ・フェア」を実施している。このイベントでは、延べ30社の県内企業が展示ブースを学内に設置し、就職情報の提供や個別相談を行っている。

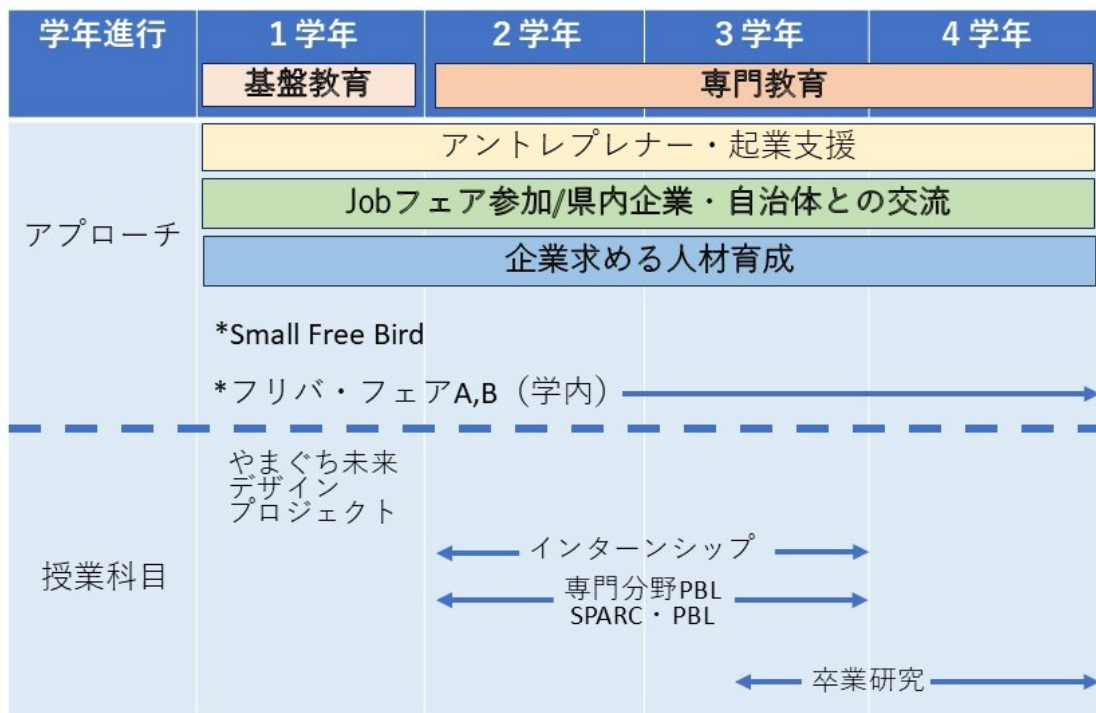
また、1年次に、山口県が抱える課題の解決方法を探究する「やまぐち未来デザ

インプロジェクト」、2・3年次には、インターンシップやPBLを実施し、卒業研究につなげることで県内就職・定着に向けた取組が連続したものとなるようにしている。

特に、「やまぐち未来デザインプロジェクト」は、21世紀型未来を見据えた協働教育のモデルとして高い評価を得ており、高大連携の趣旨に則り、このプロジェクトに高校生も参加できる仕組みを作っていくことも考えられる。

このように、県立大学では、県内の企業と連携しながら、若者の県内定着に向けた様々な取組を行っており、県内に就職するための条件が整っていることを、広く、高校生やその保護者に周知する必要がある。

図 39 県内就職・定着に向けた入口・出口戦略



以上の意見を踏まえ、本検討協議会は、本県において、今後必要な人材を高校と大学が連携して育成する具体的方策や、県内の高校生が県立大学を経て、県内に就職する県内定着のための具体的方策について、県立大学に次の提案をする。

県立大学への提案

- 高校生や大学生が地元の企業のことを知ることができるよう、高校が行う探究活動や大学が行うPBLを、県内企業と連携して実施していくこと。
- 専門学科高校で学んだ生徒が、さらに学びを続けたいと考えたとき、選択肢の一つとして県立大学進学が身近に感じられるよう、大学と専門学科高校との連携を推進すること。
- 県立大学には、本県に今後求められる人材を育成する学科が揃っていることや、県内の企業と連携しながら、若者の県内定着に向けた様々な取組を行っており、県内に就職するための条件が整っていることを、広く、高校生やその保護者に周知すること。

○ 小・中・高と連携の裾野が広がっていく中で、県立大学においては、他校の要望に応じて連携の機会を提供すること。

(4) 令和8年度以降の協議会のあり方

本検討協議会は、令和5年4月に、委員の任期（2年）である令和6年度末までの開催を想定し、山口県及び山口県立大学が令和4年3月に策定した「山口県立大学将来構想」に基づき、県立の大学として担うべき人材育成機能の強化に向けて、本県における今後の高大連携の方策について協議をしてきた。

一方で、令和8年4月に附属高校が開校することや、国の高等教育に関する新たな動きがあったことを踏まえ、委員の任期を1年延長して、国の動向を踏まえた検討を行ってきた。

こうした中、令和8年度以降は、国の新しい高等教育に関する政策を踏まえ、本県の実情に応じた高大連携のあり方を検討する必要があることから、本検討協議会のあり方についても検討した。

ア 国の新しい動向を踏まえた検討協議会のあり方について

- 「知の総和答申」（正式名：我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～、中教審答申、2025年2月21日）

知の総和答申において高大連携は、大学改革の周縁的施策ではなく、「知の総和」を高めるための基盤として、入学前からの学びの質保証と進路形成を支える重要な要素として位置付けられている。

特に、探究的な学びの連続性、多面的選抜の実質化、入学前からの情報提供といった観点から、高校と大学の協働が不可欠であると示されている。

- 「地域構想推進プラットフォーム構築等推進事業」

少子化が急速に進む中、地方を中心に大学・短大の学生募集停止や縮小が相次ぎ、その結果、地元で進学できない、看護・保育・産業人材など地域を支える人材が育たないという課題が顕在化している。

このため、中央教育審議会の「知の総和」答申（2025年）では、地域単位で高等教育の将来像を議論・推進する仕組みの必要性が示された。

これを受け、地域における高等教育へのアクセス確保と人材育成・定着を図るために、文部科学省が令和8年度（2026年度）から本格的に実施を予定している新規の国の支援事業が「地域構想推進プラットフォーム構築等推進事業」である。

本事業では、各地域において、高等教育機関へのアクセスを確保、地域の人材需要に即した人材育成、若者の地域定着・地方創生を実現するために、大学・自治体・産業界・金融機関・高校・関係団体など（＝産学官金）が恒常的に議論し、実行につなげる協議体を設置することとしている。

また、高校教育改革と連動した教育組織やカリキュラムの変革や、高校段階から地域の高等教育機関への接続の強化、自治体等による就職支援等を通じた地域への人材定着の強化が期待されている。

□ 地域アクセス確保特例制度について

「地域高等教育機会確保特例認定大学」に関する規程が令和8年1月1日に施行されている。

本制度は、地方の若者が地元で進学できる環境を守ること、地域の人材供給（看護・保育・工学など）を維持すること、大学の撤退・縮小による地域衰退を防ぐこと、大学間連携を促し、教育の質を確保しつつ柔軟な運営を可能にすることなどを目的として挙げており、地方で高等教育（大学・短大・高専）へのアクセスを維持するために、大学設置基準などの規制を一部緩和できる仕組みとなっている。

これらの制度の目的や事業内容等は、本検討協議会がこれまで議論してきたことと軌を一にするものであり、本県においても、本制度を積極的に活用する必要がある。

また、こうした動きもあることから、本検討協議会を継続して実施し、今後は、国の動きを踏まえながら、本検討協議会の学内での位置付けや検討内容、委員の構成について見直す必要がある。

□ 高等学校教育改革促進基金（N-E. X. T. ハイスクール構想）

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた高校教育改革を先導するパイロットケースを創出し、その取り組みや成果を域内の高校に普及する国の事業である。類型には、「アドバンスト・エッセンシャルワーカー等の育成支援」「理数系人材の育成支援」「多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保」の3つが挙げられている。

今後、県教委においては、本事業の活用について検討され、県内の高校においても新しい動きが出てくるものと想定される。本検討協議会においても、大学教育だけでなく、高校教育の動向も踏まえた検討を行う必要がある。

イ 本県の実情に応じた検討協議会のあり方について

本県では、既に、県内の高等教育機関や行政、産業界等が連携する「大学リーグやまぐち」が、若者の県内定着促進や、高等教育機関の地域貢献力の向上を図る様々な取組を展開している。

「大学リーグやまぐち」の3つの部会（県内進学・魅力向上部会、県内就職部会、地域貢献部会）の一つである「県内進学・魅力向上部会」では、県内進学のためのガイドブックの作成や、「県内進学・仕事魅力発信フェア」の開催、データサイエンス教育の普及に向けた共通教材の作成、各大学の出前講義の内容を取りまとめたwebページの県内の小中学校への周知などの取組を行っている。

大学リーグやまぐち

目的 高等教育機関、行政、産業界等による連携事業の実施を通じて、若者の県内定着促進並びに高等教育機関の地域貢献力及び教育・研究水準の一層の向上を図ることにより、地域社会の発展に寄与する

構成 (39機関)

(会長) 山口大学 (副会長) 山口短期大学 (特別顧問) 山口県知事
(会員)

- 大学・短期大学・高等専門学校(県内全20校) 12大学等・5短大・3高专
- 経済団体(8団体)
山口県経営者協会、山口県経済同友会、山口県商工会議所連合会、山口県商工会連合会
山口県中小企業団体中央会、山口県中小企業経営者協会、山口県銀行協会、山口県信用金庫協会
- 支援機関(3機関) やまぐち産業振興財団、山口県産業技術センター、山口しごとセンター
- 私学団体(3団体)
山口県私立大学協会、山口県専修学校各種学校協会、山口県私立中学高等学校協会
- 行政機関等(5機関)
山口労働局、山口県市長会、山口県町村会、山口県教育委員会、山口県

全体会議 (全会員及び特別顧問)

若者の定着促進や高等教育機関の地域連携等に係る課題の共有・方針決定を図るための合議体 ⇒ 年2回程度、各機関の長及び知事が出席する会議を開催

部会 (各機関の意向等により参画)

全体会議の方針に基づき、大学等が企業・自治体・関係機関等と連携して、県内進学・人材育成・県内就職・地域貢献等を推進するための実行組織

①県内進学・魅力向上部会(主管校:東亜大学)

県内進学促進に向けたイベントや情報発信及び高等教育機関の教育連携等の実施

【主な事業】

- 県内進学ガイドブック:県内大学等の情報や県内進学メリットの紹介冊子の配布
- 県内進学・仕事魅力発信フェア:高校生が学校体験等で進路先を発見するイベントの共催
- データサイエンス共通教材:県内大学等が自由に使用可能なDS共通教材を作成
- 出前講義:各大学が実施する出前講義の内容を取りまとめ、県内の全小中高校等に周知

【参加機関】 高等教育機関 山口県教育委員会 等

②県内就職部会(主管校:山口大学) ※山口大学にアドバイザーを配置

高等教育機関と産業界が連携した県内就職促進に向けたイベントや各大学等の取組支援

【主な事業】

- JOBフェアの開催:学生への企業紹介イベントの開催
- ガクセイ社会科見学:県内企業の魅力を学生が体験する日帰りバスツアーの開催
- 分野特化型企業交流会:県内企業の若手職員と学生との交流会を開催

【参加機関】 高等教育機関、経済団体、産業振興財団、山口しごとセンター 等

③地域貢献部会(主管校:山口県立大学) ※県立大学にアドバイザーを配置

大学のシーズ等を活用した地域・企業の課題解決とPBL等による人材育成の一体的実施

【主な事業】

- 共同研究等の推進:共同研究等の推進に向けた県内企業と大学等とのマッチング支援
- PBLの推進:県内企業と大学等が連携したPBLプログラムのマッチング支援
- 地域が求める人材育成WG:県内の産業界や専門職分野が求める人材像をとりまとめ

【参加機関】 高等教育機関、経済団体、産業振興財団 等

□ 国の動向を踏まえた「大学リーグやまぐち」の検討状況

「大学リーグやまぐち」では、先に述べた国の動向を踏まえ、高校と大学の接続強化や社会に必要な人材育成等に向けて、組織等の見直しを検討中であり、こうした「大学リーグやまぐち」の見直しや県立大学の役割を踏まえて、本検討協議会のあり方も検討する必要がある。

また、「大学リーグやまぐち」における県立大学の役割や位置付けについては、県内の全ての高校を訪問し、高校のニーズを把握するなど、高大連携に関する県立大学のこれまでの取組を生かすことができるように位置付けることが望ましい。

ウ 新年度に向けた検討協議会の委員の構成などについて

人口減少や若者の県内定着の状況等、本県の現状を踏まえた時、本検討協議会を設置し、高校と大学の連携強化の方策について検討してきた県立大学に期待するところは大きい。

今後、本検討協議会を継続し、より実効性のある方策について検討し、取り組んでいくためには、高校教育の現場の実情を把握するために、附属高校校長や高校の校長を委員に加えていく必要がある。また、実際に県内の高校を卒業し、県立大学で学んでいる大学1年生の意見を踏まえることも有効だと思われる。その他、人材育成の面で県のGX戦略地域^{*}の取組に関わる産業界の方や、「やまぐち共創大学コンソーシアム」^{*}のメンバーを委員に加えるなど、広い視点で検討していく必要がある。

令和8年度以降の検討協議会委員の人選については、県立大学が検討することとなるが、実効性のある高大連携が推進されるよう、国や県の動向や意向をしっかりと踏まえながら、適切な委員を選定されることを期待する。

※GX（グリーントランスフォーメーション）戦略地域

脱炭素化に向けて産業構造の転換を促すため、政府が新たに創設した制度。山口県は「コンビナート等再生型」で申請している。

※やまぐち共創大学コンソーシアム

山口大学・山口県立大学・山口学芸大学が、それぞれの特色を生かし、地域との共創によって、地域が求める人材育成や地域社会の振興と発展に寄与することを目的として作られた組織。

以上の意見を踏まえ、令和8年度以降の協議会のあり方について、県立大学に次の提案をする。

県立大学への提案

- 中央教育審議会答申「『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」を踏まえながら、国が取組を進めている「地域構想推進プラットフォーム」の仕組みを積極的に活用して、本県の高大連携を推進していく必要があること。
- そのためにも、本検討協議会を継続して実施し、今後は、こうした国の動きを踏まえながら、本検討協議会の学内での位置付けや検討内容、委員の構成について見直す必要があること。
- 県が行う「大学リーグやまぐち」の見直しや、県立大学の役割を踏まえて、本検討協議会のあり方も検討する必要があること。
- 「大学リーグやまぐち」における県立大学の役割や位置付けについては、高大連携に関する県立大学のこれまでの取組を生かすことができるようにすることが望ましいこと。
- また、今後、検討協議会において、より実効性のある方策について検討し取り組んでいくためには、高校教育の現場の実情を把握するためにも、附属高校校長や他の高校の校長を委員に加えていく必要があること。
- その際に、実際に県内の高校を卒業し、県立大学で学んでいる大学1年生等の意見を踏まえることも有効であること。

IV おわりに

これまで本検討協議会は、「附属高校の設置に関すること」、「その他高大連携の推進強化に関すること」について検討を進めてきた。

附属高校の設置に関することについて、県立大学は、本検討協議会の提言を踏まえ、山口県立周防大島高等学校を附属高校とし、令和8年4月の開校に向けた準備を着実に進めてこられた。

高大連携の推進強化について、本検討協議会は、今後、県立大学が取り組むべき高大連携の方向性について提案している。県立大学におかれては、本検討協議会の提案内容について、大学の実情も踏まえながら検討し、可能なものから速やかに取り組まれることを期待する。

山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会設置要綱

(設置目的)

第1条 山口県及び山口県立大学が令和4年3月に策定した「山口県立大学将来構想」に基づき、県立の大学として担うべき人材育成機能の強化に向けて、今後の高大連携の方策について協議を行うため、「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(検討事項)

第2条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 附属高校の設置に関する事
- (2) その他高大連携の推進強化に関する事

(組織)

第3条 協議会は別表に掲げる委員によって組織する。

- 2 協議会には、委員の互選により選出する会長を置き、会務を総理する。
- 3 会長に事故あるとき又は欠けたときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

- 2 会議の議長は、会長をもって充てる。
- 3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 4 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して資料を提出させ、又は会議への出席を依頼し意見等を求めることができる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、公立大学法人山口県立大学将来構想推進局高大連携推進室において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年4月28日から施行する。

附 則

この要綱は、令和6年12月20日から施行する。

公立大学法人山口県立大学附属高等学校の設置について

本学では、令和4年3月に山口県とともに策定した「山口県立大学将来構想」に基づき、高大連携の推進に取り組むこととしており、その具体的な方策の一つとして、附属高等学校の設置に向けて検討を行ってきたところです。

この附属高等学校においては、地域貢献型大学である本学の強みを活かしながら高校から大学の7年間の一貫した教育理念のもと、より高度な高大連携を展開し、地域や社会のニーズに対応した高度な知識及び技能を有する人材を育成するとともに、未来の山口県を担い、山口県を舞台に活躍する若者を育成していきたいと考えております。

また、山口県の魅力や課題等に加えて大学教育にも直接触れながら、郷土への愛着を深め、地域・社会が求める分野横断的な広い視野を持って課題解決に挑戦することの意義を理解させるため、自ら課題を発見し解決に向けた探究的な活動・学習を推進していきたいと考えており、こうした活動を高校生と大学生が連携・協働することで、双方の学習意欲及び教育効果の向上につながると考えています。

この附属高等学校の設置については、本年4月に、外部委員にも参画いただいた「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会」を設置し、5月から協議を重ねてまいりました。

その結果を踏まえ、本学理事会でも協議を行ったところ、山口県立周防大島高等学校での教育活動・内容は、本学の全ての学科と教育的につながっており、また、地域課題の解決や地域活性化に向けた様々な取り組みは、本学で行いたい人材育成に有用と考えられるとの結論に至りました。

つきましては、貴教育委員会で設置されている高等学校を設置者変更の方法により、下記のとおり本学の附属高等学校としたいので、ご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。

記

- 1 本学附属高等学校化の対象校
 - (1) 名称 山口県立周防大島高等学校
 - (2) 位置 大島郡周防大島町
- 2 開校時期
令和8年4月（目標）
- 3 設置者変更方法
年次進行か開校年度に一斉に変更するかは、貴教育委員会との協議による。

令和5年9月21日

公立大学法人山口県立大学 理事長 岡 正朗

令5教政第502号
令和5年(2023年)11月24日

公立大学法人山口県立大学
理事長 岡 正朗 様

山口県教育委員会



公立大学法人山口県立大学附属高等学校の設置について（回答）

令和5年9月21日付けで提出のあった要望書に対して、下記のとおり回答いたします。

記

- 1 附属高等学校化の対象校として要望のあった「山口県立周防大島高等学校」の設置者変更について了承する。
- 2 附属高等学校の開校時期について、令和8年4月を目標とすることを了承する。
- 3 設置者変更方法について、年次進行か開校年度に一斉に変更するかは、引き続き貴学と協議する。

○ 附属高校の令和 8 年度入学者選抜の志願状況及び合格者数

入学定員 90 人に対し、志願者数は延べ 217 人、合格者数は 100 人であった。選抜区分ごとの合格者数は、特色選抜が 40 人、一般選抜が 42 人、連携選抜が 18 人となっている。

入学定員	特色選抜 [専願]			
	募集人員	志願者数	志願倍率	合格者数
A	B	C	C/B	D
90 人 (90)	40 人	81 人 (21)	2.0 倍	40 人 (19)

一般選抜 [専願/併願]・連携選抜 [専願]					合計	
	募集人員	志願者数	志願倍率	合格者数	志願者数	合格者数
	E=A-D	F	F/E	G	C+F	D+G
計	50 人	136 人 (65)	2.7 倍	60 人 (52)	217 人 (87)	100 人 (71)
一般選抜		115 人 (48)		42 人 (43)		
連携選抜		21 人 (17)		18 人 (9)		

※ () は R7 年度の数。合計の志願者数には、第二次募集の志願者 1 人を含む。

会長 松野 浩嗣

第1回～5回（令和5年度）

氏名	所属等
浅川 正司	山口県総合企画部次長
浅原 司	公益財団法人山口県ひとづくり財団理事長
井本 浩二	山口経済同友会副代表幹事
大塚 俊司	山口県総務部次長
木村 香織	山口県教育庁副教育長
丹 佳子	公立大学法人山口県立大学入試副本部長
原田 英明	山口県教育庁理事
松野 浩嗣	国立大学法人山口大学理事・副学長
矢儀 一仁	株式会社山口フィナンシャルグループ 常務執行役員 地域共創事業本部長
吉村 耕一	公立大学法人山口県立大学副学長

第6～7回（令和6年度）

氏名	所属等
浅川 正司	山口県総合企画部次長
井本 浩二	山口経済同友会副代表幹事
木村 香織	公益財団法人山口県ひとづくり財団理事長
丹 佳子	公立大学法人山口県立大学副学長
根ヶ山 耕平	山口県教育庁副教育長
藤井 将志	山口県総務部次長
松野 浩嗣	国立大学法人山口大学理事・副学長
村田 直輝	株式会社山口フィナンシャルグループ執行役員
山本 毅	山口県教育庁理事
吉村 耕一	公立大学法人山口県立大学副学長

第8～9回（令和7年度）

氏名	所属等
井本 浩二	山口経済同友会副代表幹事
木村 香織	公益財団法人山口県ひとづくり財団理事長
丹 佳子	公立大学法人山口県立大学副学長
根ヶ山 耕平	山口県教育庁副教育長
浜田 勉	山口県総務部次長
松野 浩嗣	国立大学法人山口大学理事・副学長
村田 直輝	株式会社山口フィナンシャルグループ執行役員
吉村 耕一	公立大学法人山口県立大学副学長
渡壁 敏	山口県総合企画部次長
渡邊 昭博	山口県教育庁理事

（五十音順 敬称略）

「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会」報告書

令和8年3月26日

事務局 公立大学法人山口県立大学将来構想推進局
山口県立大学附属高等学校設置準備室
高大連携推進室

〒753-8502 山口県山口市桜畠6丁目2-1

TEL 083-929-6513 FAX 083-929-6515

E-mail fuzoku@yp4.yamaguchi-pu.ac.jp